本文

許可 1894 5 5 水木

官報 第一八九四號 昭和八年四月二十六日 水曜日

官報

昭和八年四月二十六日
第千八百九十四號 水曜日

詔書

朕貴族院伯子男爵議員選擧規則第十六條ニ依リ昭和八年六月二十四日ヲ以テ貴族院子爵議員一名闕員ノ爲ニ補闕選擧ヲ行フヘキコトヲ命ス

御名 御璽

昭和八年四月二十五日

內閣總理大臣 子爵 齋藤 實

勅令

朕營林局署官制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和八年四月二十五日

內閣總理大臣 子爵 齋藤 實
大藏大臣 高橋 是清
商工大臣 男爵 中島久萬吉

勅令第六十三號

營林局署官制中左ノ通改正ス

第二條第二項中「屬 技手」專任 七百 九十人ヲ「屬 技手」專任 七百 九十三人ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

大正十三年十二月二勅令第三百六十六號營林局署官制抄錄

第二條第二項

營林署ニ左ノ職員ヲ置ク

（云云略ス）

昭和八年四月二十五日

內閣總理大臣 子爵 齋藤 實
拓務大臣 永井柳太郎

勅令第六十四號

關東廳部內臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第三條中「警視 專任三人」ヲ「警視 專任五人」ニ、「警部 專任二十七人」ヲ「警部 專任二十五人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕外國爲替管理法施行期日ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和八年四月二十五日

內閣總理大臣 子爵 齋藤 實
拓務大臣 永井柳太郎

勅令第六十五號

外國爲替管理法ハ昭和八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕關東廳部內臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和八年四月二十五日

內閣總理大臣 子爵 齋藤 實
農林大臣 後藤 文夫

勅令第六十三號

營林局署官制中左ノ通改正ス

第二條第二項中「屬 技手」專任 七百 九十人ヲ「屬 技手」專任 七百 九十三人ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

大正十三年十二月二勅令第三百六十六號營林局署官制抄錄

第二條第二項

營林署ニ左ノ職員ヲ置ク

（云云略ス）

朕外國爲替管理法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和八年四月二十五日

內閣總理大臣 子爵 齋藤 實
拓務大臣 永井柳太郎

勅令第六十四號

關東廳部內臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第三條中「警視 專任三人」ヲ「警視 專任五人」ニ、「警部 專任二十七人」ヲ「警部 專任二十五人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕外國爲替管理法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和八年四月二十五日

內閣總理大臣 子爵 齋藤 實
拓務大臣 永井柳太郎

勅令第六十五號

外國爲替管理法ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

附 則

本令ハ昭和八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

省令

◉內務省令第十一號

島嶼其他在勤者手當支給細則中左ノ通改正ス

昭和八年四月二十六日

內務大臣 男爵 山本 達雄

第二條中「利尻島」ノ下ニ「天賣島燒尻島」ヲ加フ

別表第一號中一等地場所ノ欄「利尻島」ノ下ニ「天賣島燒尻島」ヲ加フ

別表第二號中一等地保護區名ノ欄「双珠別」竝ニ同三等地保護區ノ欄「喜斗牛」及「立牛」ヲ削ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

大正十年三月二內務省令第十號島嶼其他在勤者手當支給細則抄錄

第二條第一項

千島諸島根室國島嶼又ハ利尻島及奧尻島以外ニ在勤スル北海道廳等部補及巡査ニハ十地ノ情況ニ依リ警部補ニハ八圓以內巡査ニハ六圓以內ノ月手當ヲ給スルコトヲ得

明治二十五年三月三十一日 第三種郵便物認可

◎大藏省令第七號

外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件左ノ通定ム

昭和八年四月二十六日

大藏大臣　高橋　是清

外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件

第一條　大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スルコトヲ得ズ

金貨幣ハ之ヲ鑄潰シ又ハ毀傷スルコトヲ得ズ

第二條　商取引上ノ必要其ノ他ノ貿需ニ基クコトヲ邦貨ノ爲替相場ノ變動ニ依リ利益ヲ得ルコトヲ目的トシテ外國通貨又ハ外國爲替（本邦ヨリ外國ニ仕向ケ又ハ外國ヨリ本邦ニ仕向ケタル爲替手形、小切手、電信爲替及郵便爲替ヲ謂フ但シ本邦ト邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域トノ間ノ圓爲替ヲ除ク以下同ジ）ノ賣買ヲ爲スコトヲ得ズ

第三條　大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

一　邦貨ヲ對價トスル外國通貨、外國爲替又ハ邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入（兩替ヲ業トスル者其ノ業務上外國通貨ヲ買入ルル場合ヲ除ク）

二　外國爲替銀行ニ非ザル者ニ對スル邦貨ヲ對價トスル外國爲替ノ賣却

三　外國通貨ヲ對價トスル圓爲替ノ賣買

四　通貨、外國通貨、小切手又ハ手形ノ送付又ハ携帶其ノ他外國ニ對スル送金ニシテ第一條及本條ノ他ノ各號ニ包含スル方法ニ依ラザルモノ

五　外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本令施行地內ニ於テ爲ス支拂

第四條　左ニ掲グル場合ニハ前條ノ規定ニ拘ラズ前條ノ取引又ハ行爲ヲ爲スニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

一　本邦ヨリノ貨物ノ輸出又ハ本邦ヘノ貨物ノ輸入ノ爲必要ナルトキ

二　保險金若ハ保險料（六箇月內ニ支拂フベキモノニ限ル）ノ支拂又ハ保險契約ニ伴フ其ノ他ノ支拂ヲ爲ス爲必要ナルトキ

三　本邦內ニ於テ支拂ハルル公債、社債若ハ銀行預金ノ利子、信託ノ利益、株式配當金其ノ他ノ收益ヲ外國ニ住所ヲ有スル權利者ニ送ル爲必要ナルトキ

四　契約上ノ義務トシテ外國ニ於テ六箇月內ニ爲スベキ公債又ハ社債ノ元利拂基金交付ノ爲必要ナルトキ

五　他ノ各號ニ該當スルモノヲ除クノ外內外ノ法令又ハ本令施行前締結シタル契約ニ基ク義務ノ履行トシテ六箇月內ニ爲スベキ支拂ヲ爲スル爲又ハ本令施行後締結スル契約ニ基ク義務ノ履行トシテ一箇年ヲ通ジテ千圓相當額以下ノ支拂ヲ爲ス爲必要ナルトキ

六　特許權其ノ他ノ工業所有權ノ取得又ハ本邦內ニ於ケル使用ニ伴ヒ必要ナル支拂ヲ爲ス爲必要ナルトキ

七　外國ニ旅行セントスル者一箇年內ノ所要旅費ヲ携帶スル爲必要ナルトキ但シ通貨又ハ外國通貨ヲ携帶シ得ル額ハ千圓相當額以下トス

八　外國ニ於テ發行シタル信用狀ニ基キ外國ニ於テ振出シタル爲替ノ支拂ヲ爲ストキ

十二　官廳ノ業務トシテ爲ストキ又ハ官廳ノ必要ニ基キテ爲ストキ

第五條　銀行ハ第三條ノ規定ニ拘ラズ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

一　顧客（銀行ヲ含ム）ノ依頼ニ應ジ邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入（兩替ヲ業トスル者其ノ業務上外國通貨ヲ買入ルル場合ヲ除ク）

二　邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ賣却ニ伴ヒ必要ナル決濟ヲ爲ス爲邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ賣買

三　邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ヨリ本令施行地ニ仕向ケタル送金爲替ノ支拂ヲ爲スコト

第六條　大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外貨證券（本邦又ハ外國ノ公債、社債、株式又ハ公債社債ノ利札ニシテ外國通貨ヲ以テ表示スルモノヲ謂フ以下同ジ）ヲ有償ニテ取得スルコトヲ得ズ

昭和七年七月一日ニ本邦內ニ在リタル外貨證券又ハ資本逃避防止法若ハ外國爲替管理法ニ基ク命令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ輸入シタル外貨證券ヲ本邦內ニ於テ取得スル場合竝外國人ガ外國ニ於テ有スル資金ヲ以テ外貨證券ヲ取得スル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第七條　大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ邦貨ヲ對價トシテ外國通貨ヲ以テ表示スル債權（外國爲替及外貨證券タルモノヲ除ク）ヲ讓受クルコトヲ得ズ

第八條　大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地內ニ於テハ何人ノ計算ニ於テスルヲ問ハズ外國通貨ヲ以テ表示スル債權又ハ債務ヲ取得スベキ預金又ハ消費貸借ノ契約ヲ爲スコトヲ得ズ

第九條　大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地內ニ於テハ外國通貨ヲ以テ表示スル債權又ハ債務ヲ取得スベキ信託又ハ保險（再保險及海上保險ヲ除ク以下同ジ）ノ契約ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條　大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國通貨ヲ以テ表示スル社債ヲ發行シ又ハ本邦內ニ在ル財產ヲ擔保トシテ外國ニ於テ外國通貨ヲ以テ表示スル借入金ヲ爲スコトヲ得ズ

第十一條　大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地內ニ於テハ本邦ヘノ貨物ノ輸入ニ關係ナキ信用狀ヲ取得スルコトヲ得ズ但シ外國ニ於テ發行シタル外貨證券ヲ賣却シ又ハ之ガ支拂ヲ受ケタルトキハ其ノ代リ金ハ業務上其ノ他必要ナル費途ニ充ツル爲金額迄ジテ一萬圓相當額以下ノ旅行信用狀（旅行小切手ヲ含ム）ヲ出發豫定日前二週間內ニ取得スル場合又ハ官廳ヨリ支給ヲ受ケタル旅費其ノ他ノ給與ヲ携帶スル爲旅行信用狀ヲ取得スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條　大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ證券（本邦又ハ外國ノ公債、社債、株式又ハ公債社債ノ利札ヲ謂フ以下同ジ）ヲ輸入シ又ハ輸出スルコトヲ得ズ但シ本邦內ニ支拂地ヲ有スル證券ノ支拂ヲ受クル爲支拂期日前三箇月內又ハ支拂期日以後ニ輸入スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケテ證券ヲ輸入シ又ハ輸出シタル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ二週間內ニ大藏大臣ニ報告スベシ

第十三條　大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マズシテ貨物ヲ輸出スル場合又ハ郵便差出ノ際ノ稅關又ハ差出郵便局ヲ經テ大藏大臣ニ報告スベシ但シ官廳ノ輸出スル物、手荷物、引越荷物、船用品、慈善若ハ救恤ノ爲ノ寄贈品又ハ價額百圓以下ノ物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

外國爲替又ハ邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組ム豫定ニテ前項ノ報告ヲ爲サザリシ者輸出申告又ハ郵便差出後之ヲ取組ムコト能ハザルニ至リタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ稅關又ハ差出郵便局ヲ經テ遲滯ナク大藏大臣ニ報告スベシ

第十四條　價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替又ハ邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組マズシテ貨物ヲ輸出スル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ輸出申告又ハ郵便差出ノ際ノ稅關又ハ差出郵便局ヲ經テ大藏大臣ニ報告スベシ但シ官廳ノ輸出スル物、手荷物、引越荷物、船用品、慈善若ハ救恤ノ爲ノ寄贈品又ハ價額百圓以下ノ物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

外國爲替又ハ邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ヲ取組ム豫定ニテ前項ノ報告ヲ爲サザリシ者輸出申告又ハ郵便差出後之ヲ取組ムコト能ハザルニ至リタルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ稅關又ハ差出郵便局ヲ經テ遲滯ナク大藏大臣ニ報告スベシ

第十五條　本邦內ニ於テ所有スル外貨證券ヲ賣却シ又ハ之ガ支拂ヲ受ケタルトキハ其ノ代リ金ハ業務上其ノ他必要ナル費途ニ充ツル爲金額迄ジテ一萬圓相當額以下ノ旅行信用狀（旅行小切手ヲ含ム）ヲ出發豫定日前二週間內ニ取得スル場合又ハ官廳ヨリ支給ヲ受ケタル旅費其ノ他ノ給與ヲ携帶スル爲旅行信用狀ヲ取得スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　外國ニ於テ所有スル外貨證券ヲ賣却シ又ハ之ガ支拂ヲ受ケタルトキハ其ノ代リ金ハ業務上其ノ他必要ナル費途ニ充ツル爲金額迄ジテ一萬圓相當額以下ノ旅行信用狀（旅行小切手ヲ含ム）ヲ出發豫定日前二週間內ニ取得スル場合又ハ官廳ヨリ支給ヲ受ケタル旅費其ノ他ノ給與ヲ携帶スル爲旅行信用狀ヲ取得スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條　外國爲替業務ヲ營ム銀行ハ本令施行後二週間內ニ其ノ業務ヲ營ム店舖及其ノ大藏大臣ニ屆出ヅベシ

本令施行後外國爲替業務ヲ營マントスル銀行又ハ其ノ業務ヲ營ム店舖ヲ變更セントスル銀行ハ豫メ其ノ店舖ヲ大藏大臣ニ屆出ヅベシ

前二項ノ規定ニ依リ外國爲替業務ヲ營ム旨ノ屆出ヲ爲シタル銀行ヲ外國爲替銀行ト謂ヒ其ノ外國爲替業務ヲ營ム店舖及其ノ變更ハ大藏大臣之ヲ告示ス

外國爲替銀行其ノ外國爲替業務ヲ廢止シタルトキハ二週間內ニ大藏大臣ニ屆出ヅベシ此ノ場合大藏大臣ハ之ヲ告示ス

第十八條　外國爲替銀行ハ第三條、第六條及第十二條ノ規定ニ拘ラズ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スニ付大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

一　顧客（銀行ヲ含ム）ノ依頼ニ應ジ外國爲替ノ賣買、邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ賣買、取立爲替ノ取扱、信用狀ノ發行等ニ關スル明細書ヲ翌月十五日迄ニ大藏大臣ニ提出スベシ

第二十條　外國爲替銀行ハ別ニ定ムル所ニ依リ每日外國爲替賣買高及資持又ハ買持ノ高ヲ三日以內ニ大藏大臣ニ報告スベシ但シ外國ニ在ル店舖ノ分ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依リ每一週計シ三日以內ニ本店又ハ東京所在店舖ヨリ大藏大臣ニ報告スルヲ以テ足ル

許可 1894 号 本文

第二十一條　證券ノ資買又ハ其ノ媒介ヲ主タル業トスル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月ニ於ケル外貨證券ノ資買又ハ其ノ媒介ニ關スル明細書ヲ翌月十五日迄ニ大藏大臣ニ提出スベシ

第二十二條　本令施行ノ際外國通貨ヲ以テ表示スル信託又ハ保險ノ契約ヲ爲シ居ル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ本令施行後一箇月內ニ大藏大臣ニ報告スベシ但シ其ノ金額千圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條　本令施行後本邦內又ハ外國ニ於テ左ニ揭グル取引又ハ行爲ヲ爲シタル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ各月分ヲ翌月十五日迄ニ大藏大臣ニ報告スベシ但シ各號ノ取引又ハ行爲毎ニ其ノ目的物ノ金額逋ジテ千圓相當額未滿ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　外國通貨ノ取得又ハ處分
二　外國爲替ノ取得又ハ處分
三　邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ取得又ハ處分
四　前各號ニ包含スル方法ニ依ラザル外國ニ對スル送金
五　外貨證券ノ取得又ハ處分
六　信用狀ノ發行又ハ取得
七　外國通貨ヲ以テ表示スル預金ノ預入又ハ引出
八　外國通貨ヲ以テ表示スル貸付金ノ貸付又ハ回收
九　外國通貨ヲ以テ表示スル信託ノ委託又ハ受託
十　外國通貨ヲ以テ表示スル保險ノ契約ノ締結
十一　外國通貨ヲ以テ表示スル社債ノ發行又ハ償還
十二　外國通貨ヲ以テ表示スル預リ金ノ受入又ハ拂戻
十三　外國通貨ヲ以テ表示スル借入金ノ借入又ハ返濟
十四　外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本令施行地內ニ於テ爲ス支拂
外國ニ於ケル旅行セントスル者ハ前項ノ期限ニ拘ラズ出發前報告ヲ爲スベシ

第二十四條　前條ノ規定ハ第一項第二號ヲ除ク外外國人ガ外國ニ於テ爲シタル取引又ハ行爲ニ付之ヲ適用セズ

第二十五條　第十九條、第二十一條及第二十三條ノ規定ニ依リ外國ニ於ケル取引又ハ行爲ニ付大藏大臣ニ提出スベキ明細書又ハ報告書ハ翌月十五日迄ニ之ヲ當該地ヨリ發送シ本店若ハ之ニ準ズルモノ又ハ東京所在店舖ニ於テ其ノ接受後遲滯ナク提出スベシ

第二十六條　本令ニ依リ一定ノ期間內ニ明細書又ハ報告書ヲ提出スベキ義務ヲ負フ者變更其ノ他ノ已ムヲ得ザル事故ニ由リ其ノ期間內ニ提出スルコト能ハザルトキハ其ノ事故止ミタルトキ其ノ事由ヲ具シテ遲滯ナク提出スベシ

第二十七條　本令ニ依リ提出スベキ明細書又ハ報告書ニシテ特ニ遠隔ノ地ノ分ニ付テハ郵便ニ依リ本令ノ規定ヲ知リ得ベキ月ノ翌月十五日迄ニ當該地ヲ發送スルヲ以テ足ル

第二十八條　大藏大臣ハ必要ト認ムルトキハ本令ニ定ムルモノノ外事項及人ヲ指定シテ報告ヲ徵スルコトヲ得

第二十九條　大藏大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ何人ニ對シテモ外國爲替管理法第一條ノ禁止又ハ制限ニ關係アル事項ニ付其ノ帳簿其ノ他ノ檢查ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十條　大藏大臣ハ金地金、外國通貨、外國爲替又ハ外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債權ヲ有スル者ニ對シテ業務上其ノ他正當ナル理由ニ基キ其ノ保有ヲ必要ナリト認ムルモノヲ除クノ外自己之ヲ處分スベキコト又ハ日本銀行其ノ他大藏大臣ノ指定スル者ニ資却スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第三十一條　本令ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ許可ヲ受クル場合又ハ大藏大臣ニ報告スベキ場合ノ手續ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

附　則

第三十二條　本令ハ昭和八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十三條　本令ノ規定ニ依リ各月分ニ付提出スベキ明細書又ハ報告書ハ昭和八年四月分ヨリ之ヲ提出スベシ

第三十四條　昭和八年三月以前ノ各月分ニ付昭和七年大藏省令第十二號第七條、第八條、第九條第二項又ハ第十條第二項ノ規定ニ依ル明細書又ハ報告書ヲ提出セザリシ者ニ付テハ仍同令ヲ適用ス昭和七年大藏省令第十二號第二條第三項ノ規定ニ依ル報告書ヲ提出セザリシ者ニ付亦同ジ

前項ノ手續ニ依リ個々ノ取引又ハ行爲ニ付許可ヲ受クルコト業務上其ノ他ノ事由ニ依リ著シク支障アル場合ハ其ノ事情ヲ大藏大臣ニ申出ヅルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ大藏大臣ハ特別ノ手續ヲ定ムルコトアルベシ

第二條　命令第一條ノ規定ニ依ル金貨幣、金地金ノ輸出ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　輸出セントスル金貨幣又ハ金地金ノ種類、數量及價額
三　荷受人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
四　輸出セントスル物ガ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
五　輸送ノ方法、積出港、仕向港及積載船名、郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出郵便局名
六　輸出ノ豫定年月日、郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出ノ豫定年月日
七　輸出ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
八　其ノ他參考トナルベキ事項

第三條　命令第一條ノ規定ニ依ル金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ輸出ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載シ豫定積出日（郵便ニ依ル場合ニハ豫定差出日）ヨリ二週間以前ニ積出港稅關（郵便ニ依ル場合ニハ最寄稅關）ヲ經テ之ヲ大藏大臣ニ提出スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　輸出セントスル金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ種類、數量、價額及金ノ含有量
三　前條第三號乃至第八號ニ記載スル事項

一　前條第一號乃至第四號ニ記載スル事項
二　實渡人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
三　買入ノ豫定時期
四　買入ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
五　其ノ他參考トナルベキ事項

第七條　命令第三條第三號ノ規定ニ依ル圓爲替ノ買入又ハ賣却ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　爲替ノ種類、金額及對價トシテ支拂フベキ外國通貨ノ種類
三　第五條第三號乃至第九號ニ記載スル事項

第八條　命令第三條第四號ノ規定ニ依ル外國ニ對スル送金ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　送金ノ方法
三　送金額
四　受取人アル場合ニハ其ノ住所、職業及氏名又ハ商號
五　他人ニ託スル場合ニハ其ノ取扱者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
六　送金ノ豫定時期
七　送金ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
八　其ノ他參考トナルベキ事項

第九條　命令第三條第五號ノ規定ニ依ル外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本令施行地內ニ於テ爲ス支拂ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　委託者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
三　支拂金額

外國ニ於ケル旅行セントスル者ノ携帶スル手廻品及身邊裝飾品ハ前項ノ手續ニ依ラズ乘船前現品ヲ當該稅關官吏ニ呈示シテ其ノ許可ヲ受クルコトヲ得

第四條　命令第三條第一號ノ規定ニ依ル外國通貨ノ買入ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　外國通貨ノ種類、金額及所在地
三　賣渡人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
四　買入ノ豫定時期
五　買入ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
六　其ノ他參考トナルベキ事項

第五條　命令第三條第一號又ハ同條第二號ノ規定ニ依ル外國爲替ノ買入又ハ賣却ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　爲替ノ種類及金額
三　爲替ノ受取人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
四　爲替ノ支拂地、支拂期日竝支拂人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
五　現物又ハ豫約ノ別及豫約ニ在リテハ受渡期
六　取引ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號
七　買入又ハ賣却ノ豫定時期
八　買入又ハ賣却ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
九　其ノ他參考トナルベキ事項

第六條　命令第三條第一號ノ規定ニ依ル邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

四　支拂委託ノ方法
五　支拂ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號
六　支拂ノ豫定時期
七　支拂人ト支拂委託者トノ關係及支拂ヲ委託セラレ之ヲ引受ケタル理由
八　其ノ他參考トナルベキ事項

第十條　命令第六條ノ規定ニ依ル外貨證券ノ有償取得ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　外貨證券ノ名稱及數量
三　對價タル通貨等ノ種類及豫定額
四　外貨證券ノ受渡地
五　取引ノ相手方又ハ媒介人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
六　取得ノ豫定時期
七　取得ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
八　其ノ他參考トナルベキ事項

第十一條　命令第六條ノ規定ニ依ル外國ニ於ケル證券ノ有償取得ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　外貨證券ノ種類及金額
三　債權ノ種類及金額
四　債務者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
五　豫定價額
六　讓渡人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
七　讓受ノ豫定時期
八　讓受ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
九　其ノ他參考トナルベキ事項

第十二條　命令第八條又ハ第九條ノ規定ニ依ル預金、消費貸借、信託又ハ保險ノ契約ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　債務者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
三　預金、消費貸借、信託又ハ保險ノ種類及金額

官報　第一八九四號　昭和八年四月二十六日　水曜日

本文

1894 75

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　預金殘高ノ最高限度又ハ消費貸借、信託若ハ保險ノ契約金額
三　契約ノ種類及豫定主要條件
四　他人ノ計算ニ於ケルモノニ在リテハ其ノ者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
五　契約ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號
六　契約ノ豫定時期
七　契約ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
八　其ノ他參考トナルベキ事項

前項ノ許可申請書ハ當事者雙方ヨリ提出スルモノトス但シ當事者ノ一方ガ本令施行地外ニ在ルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條　命令第十條ノ規定ニ依ル社債ノ發行又ハ借入金ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　社債發行豫定額又ハ借入豫定金額及豫定主要條件
三　擔保物ノ種類、數量及所在地
四　社債ノ豫定發行地又ハ豫定借入地
五　契約ノ相手方ノ住所、職業及氏名又ハ商號
六　社債發行又ハ借入ノ豫定時期
七　社債發行又ハ借入ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
八　其ノ他參考トナルベキ事項

第十四條　命令第十一條ノ規定ニ依ル信用狀ノ取得ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　信用狀ノ種類、金額及主要條件
三　信用狀ニ依ル手形振出人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
四　信用狀發行者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
五　取得ノ豫定時期
六　取得ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
七　旅行信用狀ニ在リテハ旅行ノ豫定計畫、同一ノ旅行ノ爲他ニ取得スル旅行信用狀アルトキハ其ノ金額及別ニ携帶又ハ送付スル旅費アルトキハ其ノ金額
八　其ノ他參考トナルベキ事項

第十五條　命令第十二條第一項ノ規定ニ依ル證券ノ輸入又ハ輸出ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　證券ノ名稱、數量及所在地
三　證券ヲ取得シタル原因及時期
四　證券ノ發送人及名宛人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
五　證券ガ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
六　輸送ノ方法、輸入ニ在リテハ郵便差出地又ハ輸入港及豫定積載船名、輸出ニ在リテハ差出郵便局名又ハ積出港及豫定積載船名
七　輸入又ハ輸出ノ豫定時期、郵便ニ依リ輸出スルモノニ在リテハ差出ノ豫定時期
八　輸入又ハ輸出ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由
九　其ノ他參考トナルベキ事項

第十六條　證券ヲ携帶輸入セントスル者ハ本令施行地ニ到著ノ際前條ノ規定ニ依ル輸入許可申請書正副二通ヲ到著港所管稅關ヲ經テ大藏大臣ニ提出スルコトヲ得

第十七條　命令第十三條第一項ノ規定ニ依ル價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ノ輸出ニ關スル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スベシ

一　申請者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
二　輸出貨物ノ品名、數量及價額
三　荷受人ノ住所、職業及氏名又ハ商號
四　貨物ガ他人ノ所有ニ屬スル場合ニハ其ノ所有者ノ住所、職業及氏名又ハ商號
五　輸送ノ方法、積出港、積載船名、郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出郵便局名
六　貨物ノ代金ノ受領ノ方法及見込時期
七　輸出ノ豫定時期、郵便ニ依ルモノニ在リテハ差出ノ豫定時期

第十八條　命令第十四條、第十五條、第十六條第一項又ハ同條第二項ノ各但書ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ適宜必要ナル事項ヲ記載スベシ

第十九條　法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ外國ニ於テ爲ス取引又ハ行爲ニ付許可ヲ申請スル場合ニハ法人ノ本店、主タル事務所又ハ東京所在店舖ヨリ申請書ヲ提出スベシ此ノ場合ニ於テハ其ノ取引又ハ行爲ヲ爲ス者ノ住所、職業及氏名又ハ商號ヲモ記載スベシ

第二十條　命令第十二條第二項、第十三條第二項、同條第三項又ハ第十九條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ大藏大臣ニ提出スベキ明細書又ハ報告書ハ別ニ定ムルモノノ外各本令附屬書式ニ準據シテ正副二通ヲ作成シ命令第十三條第二項及同條第三項ノ規定ニ依ル報告書ヲ除キ最寄日本銀行ヲ經テ提出スベシ

命令第十七條又ハ第二十六條ノ規定ニ依ル屆出書ハ適宜ノ書式ニ據リ正副二通ヲ作成シ最寄日本銀行ヲ經テ提出スベシ

第二十一條　昭和七年大藏省令第十三號第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リスタンプノ押捺ヲ受ケ得ル外貨證券ニシテ未ダ其ノ押捺ヲ受ケザルモノニ付テハ所有者其ノ他ノ利害關係人ハ最寄日本銀行ニ證券ヲ呈示シテ附屬樣式ノスタンプノ押捺ヲ受クルコトヲ得

第二十二條　命令第十二條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケテ輸入シタル外貨證券ニシテ同條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタルモノニ付テハ所有者其ノ他ノ利害關係人ハ最寄日本銀行ニ證券ヲ呈示シ附屬樣式ノスタンプノ押捺ヲ受クルコトヲ得但シ輸入許可ニ際シスタンプノ押捺ヲ受クルコトヲ得ザル旨ヲ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條　官廳ハ大藏大臣ノ同意ヲ得テ前二條ノ規定ニ該當セザル外貨證券ニ附屬樣式ノスタンプノ押捺ヲ受クルコトヲ得

附　則

本令ハ昭和八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年大藏省令第十三號ノ規定ニ依リ提出セル許可申請書ハ當該事項ニ關スル本令ノ規定ニ依リ提出セルモノト看做ス

第一號ノ一

命令第十九條ノ規定ニ依ル外國爲替ノ現物賣買及豫約實行明細書

（甲）賣爲替　　昭和何年何月分　　住所　　商號

買人ノ住所、氏名又ハ商號	受取人ノ住所、氏名又ハ商號	支拂地	爲替ノ種類	現物又ハ豫約ノ別	實行ノ別	金額 外貨	金額 邦貨	備考
							圓	

注意　1. 船積書類等外國貿易關係タルコトヲ證スベキ書類ヲ伴ハザルモノニ付報告スベシ
2. 表示通貨ノ種類毎ニ列記スベシ
3. 支店ヲ有スル者ハ本店及各支店毎ニ別紙ニ記載スベシ但シ外國ニ於ケル店舖ノ分ニ付テハ銀行間ノ取引ノミヲ記載スベシ
4. 表示通貨ガ外貨タルトキハ其ノ對價タル邦貨額ヲ邦貨ノ欄ニ記載スベシ外國ニ於ケル圓爲替ノ賣ニ付テハ其ノ對價タル外貨額ヲ外貨ノ欄ニ記載スベシ
5. 備考ノ欄ニハ取引ノ目的等ニ付記載スベシ
6. 一口千圓相當額未滿ノモノハ表示通貨ノ種類毎ニ一括シテ口數及金額ノミヲ記載シ其ノ他ノ欄ノ記載ヲ省略スルコトヲ得
7. 買人ガ官廳又ハ日本銀行ナルモノニ付テハ報告スルニ及バズ

（乙）買爲替　　昭和何年何月分　　住所　　商號

賣人ノ住所、氏名又ハ商號	支拂地	爲替ノ種類	現物又ハ豫約ノ別	實行ノ別	金額 外貨	金額 邦貨	備考
						圓	

注意　（甲）ノ注意ニ準ズ

第一號ノ二

命令第十九條ノ規定ニ依ル外國爲替ノ現物賣買又ハ豫約賣買明細書

（甲）賣爲替豫約　　昭和何年何月分　　住所　　商號

買人ノ住所、氏名又ハ商號	爲替ノ種類	金額 外貨	金額 邦貨	受渡期日	備考
			圓		

注意　1. 第一號ノ一（甲）ノ注意ニ準ズ
2. 受渡ノ日ニ依リ相場ヲ異ニスルモノハ最初ノ受渡日ニ於ケル相場ヲ以テ換算シタル邦貨額ヲ記載スベシ

許可 1894 6.4

（乙）　外國ヨリ仕向ケラレタル取立爲替　昭和何年何月分　　住所　　商號

支拂人ノ住所、氏名又ハ商號	賣人又ハ取立依賴人ノ住所、氏名又ハ商號	仕出店名	取立買爲替又ハ取立依賴爲替ノ區別	表示通貨及金額	備考

注意　1. 船積書類等外國貿易關係タルコトヲ證スベキ書類ヲ伴ハザルモノニ付報告スベシ
　　2. 其ノ他(甲)ノ注意ニ準ズ

第一號ノ五

命令第十九條ノ規定ニ依ル信用狀發行明細書

昭和何年何月分　　住所　　商號

信用狀ノ種類	發行依賴人ノ住所、氏名又ハ商號	信用狀ニ基ク手形振出人ノ住所、氏名又ハ商號	期限	表示通貨及金額	備考

注意　1. 船積書類等外國貿易關係タルコトヲ證スベキ書類ヲ伴ハザルモノニ付報告スベシ
　　2. 信用狀ノ種類ノ欄ニハ旅行信用狀其ノ他ノ種類ヲ記載スベシ
　　3. 支店ヲ有スル者ハ本店及各支店毎ニ別紙ニ記載スベシ但シ外國ニ於テ發行シタルモノニ付テハ報告スルニ及バズ

第二號

命令第二十條ノ規定ニ依ル外國爲替賣買高及賣持又ハ買持高報告書

（甲）　國內各店分　　昭和何年何月何日分　　住所　　商號

外貨別	買入高					賣出高					差引賣持又ハ買持	備考
	持越高	現物買入高	新規豫約高	合計	內豫約殘高	持越高	現物賣出高	新規豫約高	合計	內豫約殘高		

注意　1. 支店ヲ有スル者ハ本店及各支店毎ニ別紙ニ記載スベシ
　　2. 持越高ニハ豫約持越高ヲ含ム
　　3. 各外貨ノ賣持又ハ買持高ヲ時價ニ依リ邦貨ニ換算シテ通計シタル純賣持又ハ買持高ヲ記載スベシ

（乙）　海外支店分　　昭和何年何月上(中、下)旬分　　住所　　商號

支店名	當旬圓爲替買入高	當旬圓爲替賣出高	旬末圓爲替ノ賣持又ハ買持高
	圓	圓	圓

（乙）　買爲替豫約　　昭和何年何月分　　住所　　商號

賣人ノ住所、氏名又ハ商號	爲替ノ種類	金額		受渡期	備考
		外貨	邦貨		
			圓		

注意　(甲)ノ注意ニ準ズ

第一號ノ三

命令第十九條ノ規定ニ依ル邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替賣買明細書

（甲）　賣爲替　　昭和何年何月分　　住所　　商號

買人ノ住所、氏名又ハ商號	受取人ノ住所、氏名又ハ商號	支拂地	爲替ノ種類	金額	備考
				圓	

注意　1. 船積書類等外國貿易關係タルコトヲ證スベキ書類ヲ伴ハザルモノニ付記載スベシ
　　2. 支店ヲ有スル者ハ本店及各支店毎ニ別紙ニ記載スベシ
　　3. 備考ノ欄ニハ取引ノ目的等ヲ付記載スベシ
　　4. 一口千圓未滿ノモノハ一括シテ口數及金額ノミヲ記載シ其ノ他ノ欄ノ記載ヲ省略スルコトヲ得
　　5. 買人ガ官廳又ハ日本銀行ナルモノニ付テハ報告スルニ及バズ

（乙）　買爲替　　昭和何年何月分　　住所　　商號

賣人ノ住所、氏名又ハ商號	支拂地	爲替ノ種類	金額	備考
			圓	

注意　(甲)ノ注意ニ準ズ

第一號ノ四

命令第十九條ノ規定ニ依ル取立爲替取扱高明細書

（甲）　外國向ケ代金取立爲替　　昭和何年何月分　　住所　　商號

依賴人ノ住所、氏名又ハ商號	支拂人ノ住所、氏名又ハ商號	仕向先店名	表示通貨及金額	備考

注意　1. 支店ヲ有スル者ハ本店及各支店毎ニ別紙ニ記載スベシ
　　2. 備考ノ欄ニハ取立ノ目的理由等ヲ記載スベシ
　　3. 一口千圓相當額未滿ノモノハ一括シテ口數及金額ノミヲ記載シ其ノ他ノ欄ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

1894 官報

第三號

命令第二十一條ノ規定ニ依ル外貨證券ノ賣買ニ關スル明細書

（甲）買受分　　昭和何年何月分　　住所　氏名又ハ商號

證券名稱	券面總額又ハ株數	買買價額	賣渡人ノ住所、氏名又ハ商號	備考
本邦證券				
國債				
何公債				
……				
地方債				
何市何公債				
……				
社債				
何會社何社債				
……				
株式				
何會社何株式（一株何圓拂込ノモノ）				
……				
利札				
何公債				
何社債				
外國證券				
國債				
何國何公債				
……				
地方債				
何國何市公債				
……				
社債				
何國何會社何社債				
……				
株式				
何國何會社何株式（一株何圓拂込ノモノ）				
……				
利札				
何公債				
何社債				

注意　1. 四分利付佛貨公債ニ付テハ其ノ報告ヲ省略スルコトヲ得
2. 受渡濟ノモノニ付記載スベシ
3. 利札ハ種類毎ニ一括シテ其ノ券面總額ノミヲ記載シ其ノ他ノ欄ノ記載ヲ省略スルコトヲ得
4. 支店ヲ有スル者ハ本店及各支店毎ニ別紙ニ記載スベシ
5. 備考ノ欄ニハ日本銀行ノスタンプ押捺ノ有無等ヲ記載スベシ

（乙）賣渡分

書式ハ買受分ノ例ニ準ズ但シ賣渡人ノ住所、氏名又ハ商號ノ欄ニ代ヘ買受人ノ住所、氏名又ハ商號ノ欄ヲ設ケベシ

注意　（甲）ノ注意ニ準ズ但シ利札ニ付テハ買受人ノ住所、氏名又ハ商號ヲモ記載スベシ

（丙）賣買ノ媒介分

書式ハ買受分ノ例ニ準ズ但シ賣渡人ノ住所、氏名又ハ商號ノ欄ノ次ニ買受人ノ住所、氏名又ハ商號ノ欄ヲ設ケベシ

注意　1. 委託ニ依ル清算取引受渡實行分ニ付テモ記載スベシ
2. 其ノ他（甲）ノ注意ニ準ズ

第四號ノ一

命令第二十二條ノ規定ニ依ル外貨表示ノ信託契約報告書

（甲）委託者ノ提出スベキモノ　　昭和八年五月一日現在　　住所　氏名又ハ商號

外貨別	信託ノ種類	受託者ノ住所、氏名又ハ商號	金額	元本及利益ノ受益者ノ住所、氏名又ハ商號	契約年月日	契約期限	信託ノ目的
米貨							
英貨							
何貨							

注意　元本ノ受益者ト利益ノ受益者トガ異ル場合ニハ雙方ニ付記載スベシ

（乙）受託者ノ提出スベキモノ　　昭和八年五月一日現在　　住所　氏名又ハ商號

外貨別	信託ノ種類	委託者ノ住所、氏名又ハ商號	金額	元本及利益ノ受益者ノ住所、氏名又ハ商號	契約年月日	契約期限
米貨						
英貨						
何貨						

注意　1. 支店ヲ有スル者ハ本店及各支店毎ニ別紙ニ記載スベシ
2. （甲）ノ注意ニ準ズ

第四號ノ二

命令第二十二條ノ規定ニ依ル外貨表示ノ保險契約報告書

（甲）保險契約者ノ提出スベキモノ　昭和八年五月一日現在　　住所　氏名又ハ商號

外貨別	保險ノ種類	保險者ノ住所、氏名又ハ商號	保險金額	保險料	契約年月日	保險期間ノ始期及終期	保險金受取人ノ住所、氏名又ハ商號	保險證券ノ作成地	保險ノ目的ノ所在地
米貨									
英貨									
何貨									

（乙）保險者ノ提出スベキモノ　昭和八年五月一日現在　　住所　商號

外貨別	保險ノ種類	保險契約者ノ住所、氏名又ハ商號	保險金額	保險料	契約年月日	保險期間ノ始期及終期	保險金受取人ノ住所、氏名又ハ商號	保險證券ノ作成地
米貨								
英貨								
何貨								

注意　外國ニ於ケル營業ノ分ニ付テハ種類毎ニ一括シテ保險金額ノミヲ記載シ其ノ他ノ欄ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第五號ノ一

命令第二十三條ノ規定ニ依ル外國通貨所有高增減報告書

昭和何年何月分　　住所　氏名又ハ商號

外貨別	前月繰越高	月末現在高	外貨ノ所在地
米貨			
英貨			
何貨			

注意　1. 月末現在高通ジテ千圓相當額未滿ノ場合ニハ報告スルニ及バズ
2. 其ノ月中ニ增減ナキ外貨ニ付テモ其ノ月末現在高ヲ記載スベシ
3. 支店ヲ有スル者ハ本店及各支店毎ニ別紙ニ記載スベシ

本文 1894 5

第五號ノ四

命令第二十三條ノ規定ニ依ル外貨證券所有高增減報告書

昭和何年何月分　　住所　氏名又ハ商號

證券名稱	前月繰越高（券面總額又ハ株數）	當月中取得高				當月中處分高				月末現在高（券面總額又ハ株數）	所在地
		券面總額又ハ株數	價額	讓渡人ノ住所、氏名又ハ商號	取得ノ方法及理由	券面總額又ハ株數	價額	讓受人ノ住所、氏名又ハ商號	處分ノ方法及理由		

注意　1. 證券名稱ハ第三號書式ノ例ニ準ジテ記載スベシ
2. 公債社債ノ利札ニ付テハ支拂期日到來シタルトキ之ヲ取得高ニ掲記スベシ
3. 公債社債ノ利札ヲ除ク他ノ證券ニ增減アリタルトキハ增減ナキ證券ニ付テモ其ノ月末現在高ヲ記載スベシ
4. 第三號書式ノ注意1及4ニ準ズ
5. 代理店等ニ於テ保管セシメ又ハ供託シ居ルモノニ付テハ所在地ノ欄ニ保管店名、供託所名等ヲ記載スベシ
6. 信託會社ハ信託勘定ノ外貨證券ニ付本表ニ準ジ別ニ報告スベシ
7. 外貨證券ノ賣買ヲ主タル業トスル者ニ在リテハ證券名稱、月末現在高及所在地ノ欄ノミヲ記載スルヲ以テ足ル

第五號ノ五

命令第二十三條ノ規定ニ依ル信用狀取得報告書

昭和何年何月分　　住所　氏名又ハ商號

表示通貨別	信用狀ノ種類	發行者ノ住所、氏名又ハ商號	手形振出人ノ住所、氏名又ハ商號	手形名宛先	金額	期間	目的
米貨							
英貨							
何貨							

注意　1. 信用狀ノ發行ヲ依頼シ當月中ニ承諾ヲ得タルモノヲ記載スベシ
2. 本邦ノ外國貿易ノ爲ニスル信用狀ニ付テハ報告スルニ及バズ
3. 旅行小切手ニ在リテハ發行者ノ住所、氏名又ハ商號及金額ノミヲ記載スルヲ以テ足ル

第五號ノ六

命令第二十三條ノ規定ニ依ル外貨預ケ金高增減報告書

昭和何年何月分　　住所　氏名又ハ商號

外貨別	預ケ金ノ種類	前月繰越高	當月中增加高			當月中減少高		月末現在高
			金額	預入先ノ住所、氏名又ハ商號	預入ノ理由	金額	引出先ノ住所、氏名又ハ商號	
米貨	定期預金							
	當座預金							
	通知預金							
	……							
	計							
英貨	定期預金							
	當座預金							
	通知預金							
	……							
	計							
何貨	定期預金							
	當座預金							
	通知預金							
	……							
	計							

注意　1. 其ノ月中ニ增減ナキ預ケ金ニ付テモ其ノ月末現在高ヲ記載スベシ
2. 支店ヲ有スル者ハ本店及各支店毎ニ別紙ニ記載スベシ

第五號ノ二

命令第二十三條ノ規定ニ依ル外國爲替所有高增減報告書

(甲)　買爲替　　昭和何年何月分　　住所　氏名又ハ商號

表示通貨別	種類	持越高	當月中取得高	當月中失ヒタル高	月末殘高	備考
米貨	現物					
	豫約					
	計					
英貨	現物					
	豫約					
	計					
何貨	現物					
	豫約					
	計					

注意　1. 外國爲替銀行ハ本報告書ヲ提出スルニ及バズ
2. 持越高ノ欄ニハ買入爲替ノ前月末殘高ヲ現物及豫約ニ分チ記載スベシ
3. 當月中取得高ノ欄中現物ノ桁ニハ當月中ノ現物取得高（豫約實行高ヲ含ム）ヲ記載シ豫約ノ桁ニハ買豫約ヲ爲シタル高ヲ記載スベシ
4. 當月中失ヒタル高ノ欄中現物ノ桁ニハ手持爲替ヲ賣渡セル高及其ノ支拂ヲ受ケタル高ヲ記載シ豫約ノ桁ニハ豫約實行高ヲ記載スベシ
5. 特定ノ第三者ノミヲ受取人トスル爲替ノ買入ニ付テハ報告スルニ及バズ
6. 支店ヲ有スル者ハ本店及各支店毎ニ別紙ニ記載スベシ
7. 外國ニ於テ爲シタル圓爲替ノ買入ニ付テハ報告スルニ及バズ

(乙)　外國ニ於テ爲シタル圓爲替ノ賣　　昭和何年何月分　　住所　氏名又ハ商號

當月中賣却高	對價タル外貨ノ種類及金額	賣却ノ理由	備考
圓			

注意　1. 外國爲替銀行ハ本報告書ヲ提出スルニ及バズ
2. 外國ニ於ケル店舖毎ニ別紙ニ記載スベシ
3. 賣却ノ理由ヲ異ニスル毎ニ別桁ニ記載スベシ

第五號ノ三

命令第二十三條ノ規定ニ依ル外國ニ對スル送金報告書

昭和何年何月分　　住所　氏名又ハ商號

送金取扱人ノ住所、氏名又ハ商號	受取人ノ住所、氏名又ハ商號	支拂地	送金ノ方法	金額	送金ノ目的

注意　1. 外國向ケ送金爲替ノ買入、邦貨ノ强制通用力ヲ有スル地域ニ仕向ケタル圓爲替ノ買入ハ命令第三條第四號ノ方法ニ依ル外國ニ對スル送金ニ付記載スベシ但シ本邦ヘノ貨物ノ輸入ノ爲ニ爲シタルモノハ報告スルニ及バズ
2. 支店ヲ有スル者ハ本店及各支店毎ニ別紙ニ記載スベシ
3. 外國爲替銀行ハ通貨又ハ外國通貨ノ送付ニ依ルモノヲ除クノ外報告スルニ及バズ

許可 1894 5

（乙）　保險者ノ提出スベキモノ　　昭和何年何月分　　住所　氏名又ハ商號

外貨別	保險ノ種類	保險金額	保險契約者ノ住所、氏名又ハ商號	保險料	保險期間ノ始期及終期	保險金受取人ノ住所、氏名又ハ商號	保險證券ノ作成地
米貨							
英貨							
何貨							

注意　外國ニ於ケル營業ノ分ニ付テハ種類毎ニ一括シテ保險金額ノミヲ記載シ其ノ他ノ欄ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第五號ノ十

命令第二十三條ノ規定ニ依ル外貨社債高增減報告書

昭和何年何月分　　住所　　商號

社債名稱	前月繰越高	當月中發行高	當月中償還高	月末現在高

第五號ノ十一

命令第二十三條ノ規定ニ依ル外貨預リ金高增減報告書

昭和何年何月分　　住所　氏名又ハ商號

外貨別	預リ金ノ種類	前月繰越高	當月中增加高		當月中減少高		月末現在高
			金額	預ケ人ノ住所、氏名又ハ商號	金額	拂戻先ノ住所、氏名又ハ商號	
米貨	定期預金						
	當座預金						
	通知預金						
	………						
	計						
英貨	定期預金						
	當座預金						
	通知預金						
	………						
	計						
何貨	定期預金						
	當座預金						
	通知預金						
	………						
	計						

注意　1. 其ノ月中ニ增減ナキ預リ金ニ付テモ其ノ月末現在高ヲ記載スベシ
2. 支店ヲ有スル者ハ本店及各支店毎ニ別紙ニ記載スベシ
3. 預金ノ受入ヲ業トスル者ノ外國ニ於ケル支店ノ分ニ在リテハ預リ金ノ種類別ニ一括シテ記載シ預ケ人又ハ拂戻先ノ住所、氏名又ハ商號ノ欄ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第五號ノ七

命令第二十三條ノ規定ニ依ル外貨貸付金高增減報告書

昭和何年何月分　　住所　氏名又ハ商號

外貨別	貸付金ノ種類	前月繰越高	當月中增加高			當月中減少高		月末現在高
			金額	貸付先ノ住所、氏名又ハ商號	貸付ノ理由	金額	回收先ノ住所、氏名又ハ商號	
米貨	證書貸付							
	手形貸付							
	當座貸越							
	………							
	計							
英貨	證書貸付							
	手形貸付							
	當座貸越							
	………							
	計							
何貨	證書貸付							
	手形貸付							
	當座貸越							
	………							
	計							

注意　1. 其ノ月中ニ增減ナキ貸付金ニ付テモ其ノ月末現在高ヲ記載スベシ
2. 支店ヲ有スル者ハ本店及各支店毎ニ別紙ニ記載スベシ
3. 貸付ヲ業トスル者ニ在リテハ貸付金ノ種類別ニ一括シテ記載シ貸付先又ハ回收先ノ住所、氏名又ハ商號及貸付ノ理由ノ欄ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第五號ノ八

命令第二十三條ノ規定ニ依ル外貨表示ノ信託契約報告書

（甲）　委託者ノ提出スベキモノ　　昭和何年何月分　　住所　氏名又ハ商號

外貨別	信託ノ種類	受託者ノ住所、氏名又ハ商號	金額	元本及利益ノ受益者ノ住所、氏名又ハ商號	契約年月日	契約期限	信託ノ目的
米貨							
英貨							
何貨							

注意　元本ノ受益者ト利益ノ受益者トガ異ル場合ニハ雙方ニ付記載スベシ

（乙）　受託者ノ提出スベキモノ　　昭和何年何月分　　住所　氏名又ハ商號

外貨別	信託ノ種類	委託者ノ住所、氏名又ハ商號	金額	元本及利益ノ受益者ノ住所、氏名又ハ商號	契約年月日	契約期限
米貨						
英貨						
何貨						

注意　1. 支店ヲ有スル者ハ本店及各支店毎ニ別紙ニ記載スベシ
2. （甲）ノ注意ニ準ズ

第五號ノ九

命令第二十三條ノ規定ニ依ル外貨表示ノ保險契約報告書

（甲）　保險契約者ノ提出スベキモノ　　昭和何年何月分　　住所　氏名又ハ商號

外貨別	保險ノ種類	保險金額	保險者ノ住所、氏名又ハ商號	保險料	保險期間ノ始期及終期	保險金受取人ノ住所、氏名又ハ商號	保險證券ノ作成地	保險ノ目的ノ所在地
米貨								
英貨								
何貨								

許可 1894 昭和八年四月二十六日 印刷納本

第六號ノ二

命令第十二條ノ規定ニ依ル證券輸出報告書

昭和何年何月何日　　住所　氏名又ハ商號

證券名稱	券面金額ノ種類	枚數	券面總額	記號及番號	輸出年月日	輸出許可證番號	備考

注意　第六號ノ一ノ注意ニ準ズ

第七號

命令第十三條ノ規定ニ依ル無爲替輸出報告書

昭和何年何月何日　　住所　氏名又ハ商號

1.	貨物ノ記號、番號、品名、個數及數量 (郵便ニ依ル場合ニハ貨物ノ品名、個數及重量)
2.	貨物ノ價額
3.	輸出港及積荷船名 (郵便ニ依ル場合ニハ差出郵便局名)
4.	仕向港及仕向地 (郵便ニ依ル場合ニハ名宛地)
5.	荷受人ノ住所、氏名又ハ商號
6.	輸出年月日 (郵便ニ依ル場合ニハ差出年月日)
7.	送リ狀金額(送リ狀表示通貨ニ依ル)
8.	輸出貨物ノ價額ノ一部ニ付爲替ヲ取組ミタルトキハ爲替ノ取組先及金額
9.	爲替ヲ取組マザル理由
10.	爲替ヲ取組マザル部分ノ代金ノ受領方法及豫定時期
11.	其ノ他參考トナルベキ事項

スタンプ樣式

第五號ノ十二

命令第二十三條ノ規定ニ依ル外貨借入金高增減報告書

昭和何年何月分　　住所　氏名又ハ商號

外貨別	借入金ノ種類	借入先ノ住所、氏名又ハ商號	前月繰越高	當月中增加高		當月中減少高	月末現在高	備考
				金額	借入ノ理由			
米貨								
英貨								
何貨								

注意　1. 其ノ月中ニ增減ナキ借入金ニ付テモ其ノ月末現在高ヲ記載スベシ
2. 借入極度ノ契約アルモノニ付テハ極度額ヲ備考ノ欄ニ記載スベシ
3. 支店ヲ有スル者ハ本店及各支店毎ニ別紙ニ記載スベシ
4. 本邦內ニ在ル財產ヲ擔保トセル場合ニハ其ノ擔保物ヲ備考ノ欄ニ記載スベシ

第五號ノ十三

命令第二十三條ノ規定ニ依ル外國ニ於テ爲シタル委託ニ基ク支拂高報告書

昭和何年何月分　　住所　氏名又ハ商號

支拂委託者ノ住所氏名又ハ商號	受取人ノ住所、氏名又ハ商號	支拂委託ノ方法	支拂金額	支拂ヲ引受ケタル事情	備考

注意　本邦へノ貨物ノ輸入ノ爲ニ爲シタル支拂ニ付テハ報告スルニ及バズ

第六號ノ一

命令第十二條ノ規定ニ依ル證券輸入報告書

昭和何年何月何日　　住所　氏名又ハ商號

證券名稱	券面金額ノ種類	枚數	券面總額	記號及番號	輸入年月日	輸入許可證番號	備考

注意　1. 證券名稱ハ第三號書式ノ例ニ準ジテ記載スベシ
2. 報告者ガ所有者ニ非ザルトキハ所有者ノ住所及氏名又ハ商號ヲ備考ノ欄ニ記載スベシ

許可 昭和八年四月二十六日 第一八九四號 官報

（參照）
明治七年十月太政官第百十三號ヲ以テ公布シタル裁判所位置表ハ廢止セラレタリ

告示

◉內務省告示第百二十六號

新潟縣部越後國組合ヲ設立ス事務ノ所在地左ノ通變更セリ

昭和八年四月二十六日

內務大臣　男爵　山本達雄

變更前　神戸市神戸區榮町通參丁目武藏屋敷

變更後　神戶市神戶區海岸通リ五番地

◉內務省告示第百二十七號

國際法第二十條ノ二第二項ノ規定ニ依リ日本國ノ締約國ニ對スル配ラ爲シタル者左ノ如シ

昭和八年四月二十六日

內務大臣　男爵　山本達雄

原籍　福岡縣築上郡椎田村大字椎田

現住地　北米合衆國加州ロースアンゼルス市ハーバー街二九四〇

原籍　熊本縣上益城郡白藤村大字杉堂

現住地　北米合衆國加州ヨンコード郡四二〇七

原籍　福岡縣築上郡椎田村大字椎田

現住地　北米合衆國加州ロースアンゼルス市ハーバー街二九四〇

同　同　宮ノ川　水谷口　九一三ノ一、九一〇ノ一、九一二ノ一、九一二ノ二、九一一、九一五ノ二、九一四
同　同　同　豐明田　九一七ノ二、九一七ノ三、九一七ノ一、九二〇ノ一、九二〇ノ二、九二一
同　同　同　トメノクボ　九四二ノ一、九四三ノ一、九四三ノ二、九四三ノ三、九四三ノ四
同　同　同　クエシキガダバ　九四五ノ一
同　同　同　川添　九四一ノ二、九四一ノ一、九四〇、九三九
同　同　同　谷口　九二六、九二五、九二四ノ一、九二三ノ二、九二三ノ一、九二二
同　同　同　大ダバ　九〇五
同　同　同　ミコン谷山　一三九二ノ二〉但シ下ノ加江川支流宮ノ川沿岸川ノ中心ヨリ三十米ノ地域
同　同　同　以上各筆及以上各筆地先ニ存在スル下ノ加江川支流宮ノ川河川敷
同　三崎　三崎　長ツエ　二三九八、四八二五、二四〇〇、二四〇二
同　同　同　四八二六
同　同　同　ツイダ　四八二八ノ一〉但シ道路敷境ヨリ下方ノ區域全部
同　同　同　四八二八ノ二、四八二九、二四一〇、二四一二ノ一、二四一二ノ二、二四一二ノ三、二四一二ノ四、二四一二ノ五、二四一二ノ六、二四一二ノ七、二四一二ノ八、二四一九但シ道路敷境ヨリ下方ノ區域全部
同　同　同　タンサコ　四八三〇ノ一〉三崎川支流西ノ川沿岸川ノ中心ヨリ四十米ノ地域
同　同　同　四八三一
同　同　同　パツルオナンダバ　四八三二
同　同　同　カレ谷　二四三三ノ一、二四三四
同　同　同　四八三三ノ一但シ道路敷竝水路敷界線ヨリ二十米ノ地域
同　同　唐ノ谷山　五一六九ノ二ノ一、六但シ字カレ谷トノ境界線ヨリ下流河川敷及水路敷界線字タンサコ二四二七番及字西長ツエトノ境界線ヨリ二十米ノ地域
同　同　同　自二四〇四至二四一七
同　同　西長ツエ　四八三八但シ河川敷界線及字西長ツエ二四〇四番トノ境界線ヨリ二十米ノ地域
同　同　神母ノ平　四八三六イ但シ河川敷界線及字長ツエ二三九八番トノ境界線ヨリ二十米ノ地域
同　同　同　四八三五ロ、四八三四ノ一〉但シ字長ツエ二三九八番境界線ヨリ二十米ノ地域

以上各筆及以上各筆地先ニ存在スル三崎川支流西ノ川河川敷及水路敷竝道路敷

郡名	村名	字名	地番
安藝	佐喜濱	胴ケ谷	五四五九ノ一、五四五九ロ
同	同	五郎四郎	五四三六ロ、五四三六イ
同	同	段ケ谷	五四三〇ロ、五四三〇ハ、五四三〇ニ、五四二八ノ二、五四二八ノ三、五四二八ノ八、五四二八ノ九、五四二八ノ一〇〉但シ佐喜濱川沿岸川ノ中心ヨリ五十米ノ地域
同	同	古畑	五四二八ノ一、五四二八ノ二、五四二八ノ四、五四二八ノ五、五四二八ノ六、五四二八ノ七、五四二八ホノ一、五四二八ホノ二、三〇四六ノ一、三〇四六ノ二、五四二六ノ一、五四二六ノ二、五四二六ノ三、五四二六ノ四、五四二六ノ五、五四二六ノ六、五四二六ノ七〉但シ佐喜濱川沿岸川ノ中心ヨリ五十米ノ地域

◉農林省告示第百十七號

昭和七年一月二十五日左記專用漁業權拋棄ノ旨屆出アリタリ

昭和八年四月二十六日

農林大臣　後藤　文夫

免許番號	第一五四二號
漁業權者	長崎縣西彼杵郡日見村
	日見村漁業組合
漁場ノ位置	長崎縣西彼杵郡日見村地先

◉商工省告示第十七號

工業組合法施行規則第二十條ノ規定ニ依リ左ノ通定ム

昭和八年四月二十六日

商工大臣　男爵　中島久萬吉

香川縣團扇骨工業組合ノ地區内ニ於テ團扇骨製造ヲ業トスル者ニシテ其ノ組合ニ加入セザルモノハ昭和八年五月二日ヨリ該組合ノ定ムル製品檢査及檢査ニ關スル取締竝ニ製造及販賣ニ對スル制限ニ從フベシ

◉遞信省告示第九百四十四號

昭和八年五月一日ヨリ左記郵便局ニ電話交換業務ヲ開始ス

昭和八年四月二十六日

遞信大臣　南　弘

名稱	位置
石川縣羽咋郡西海村	

◉遞信省告示第九百四十五號

左記私設無線電信ノ通信執務時間ヲ下記ノ通變更ヲ許可セリ

昭和八年四月二十六日

遞信大臣　南　弘

關係告示　施設者名　機器裝置　通信執務時間

昭和八年三月遞信省告示第五百五十二號　共同漁業株式會社　汽船新京丸　八時間

◉遞信省告示第九百四十六號

左記私設無線電信ノ施設者名義ヲ下記ノ通變更ヲ許可セリ

昭和八年四月二十六日

遞信大臣　南　弘

關係告示	施設者名	機器裝置	場所
大正十年九月遞信省告示第千六百五十六號	鹽崎與吉	汽船笠戸丸	新興水產株式會社

◉遞信省告示第九百四十七號

昭和八年四月二十日ヨリ左記電信取扱所（閉鎖中）ノ位置ヲ下記ノ通變更セリ

昭和八年四月二十六日

遞信大臣　南　弘

名稱	位置
笠戸丸無線電信取扱所	鹽崎與吉所屬汽船笠戸丸

◉遞信省告示第九百四十八號

昭和八年五月一日ヨリ左記郵便局ニ電話交換業務ヲ開始ス

昭和八年四月二十六日

遞信大臣　南　弘

名稱	位置
靜岡縣榛原郡內房村 內房郵便局	
東田子浦郵便局	同富士郡田子浦村
清澤郵便局	同阿倍郡清澤村

◉遞信省告示第九百四十九號

外國郵便爲替金又ハ外國郵便振替金ノ換算ニ適用スヘキ外國貨幣換算割合左ノ如シ

昭和八年四月二十六日

遞信大臣　南　弘

貨幣種別	一邦貨圓ニ對スル外國貨幣額	外國貨幣一單位ニ對スル邦貨額
米國貨幣	振出（23日ソト）　一ドル一セント	一ドル一セント
	到着（24日ソト）　一ドル二五セント	一ドル一セント

◉遞信省告示第九百五十號

汽船第五錦浦丸外二百五十五艘ノ左記信號符字ハ本年四月一日ヨリ之ヲ取消ス

昭和八年四月二十六日

遞信大臣　南　弘

船名	信號符字
第五錦浦丸	MNSR
小鷹丸	NFBK
第壹開運丸	SFHC
共英丸	SFKB
爾生丸	SFLD
第二錦浦丸	SFHD
第參錦浦丸	SFKG
第貳號三盛丸	HDTV
一九七二	HMGV
館浦丸	RWPN
浪榮丸	SPWK
隨訪丸	TKJC
第二旭丸	VKGW
神子丸	SQBH
神照丸	LVPC
泉吉丸	LVPF
黑木丸	MFLR
ブザード丸	MFLS
第二神照丸	MFNG
フヰアレス丸	MFNQ
塩屋丸	MFNR
住吉丸	MHNQ
六甲山丸	MJBC
秀吉丸	MJCG
劍山丸	MJCK
第四給水丸	MJCS
富士丸	MLDK
生田丸	MVHF
さぎ丸	MWRL
神榮丸	NBVS
神鈴丸	NBWQ
袖之浦丸	NCPW
千鳥丸	NHSV
鳩丸	NJVP
浪川丸	NLTH
通生丸	NPGL
第三鍵屋丸	NQGD
帆船	
須佐丸	NSQR
第三金時丸	NTWL
昭豐丸	TRJW
第一八梅丸	TRKD
第五三笠丸	TRJS
第二幸德丸	TRJG
第六大榮丸	THNJ
第二平久丸	STMB
晴芳丸	SHTN
第五彌彥丸	THLC
第十五神辻丸	THPL
第七渡津丸	THPV
興福丸	THPC
豐盛丸	STMN
福運丸	THLW
第五三吉丸	STML
第二專比須丸	THRK
第三大資丸	THNL
千代丸	THPB
第二長運丸	STMR
第貳幸福丸	THNG
松榮丸	TRJL
第三專比須丸	VKJD
第一幸福丸	VKJG
第五彌彥丸	THPD
第五網走丸	NTWF
彌彥丸	VKJP
米山丸	TRGK
千歲丸	LKJR
福神丸	THMP
神通丸	TRJK
豐丸	THPN
第二十歲丸	THPF
永昌丸	THLM
第二伊勢丸	THMV
第五太平丸	THNV
第八太平丸	TRJD
福州丸	TRKN
第十大東丸	SFLH
金比羅丸	SFLT
第貳慶福丸	SFJD
運榮丸	VJRH
宗川丸	SFLQ
第一親友丸	VDSG
第五號寶扇丸	SFKT
福吉丸	TMVR
東洋丸	TDFC
榮進丸	TDGS
寶榮丸	SQPN
正德丸	TMVQ
寶撰丸	TDKR
順勢丸	TMVL
寶榮丸	TMVJ
第三日東丸	TPQJ
金光丸	SPNF
大正丸	SNFW
萬榮丸	TDKF
朝日丸	TQPD
明寶丸	TQPL
松榮丸	TPFL
昭榮丸	TQPG
正寶丸	TQPF
神力丸	TQPB
住榮丸	TMWN
新寶丸	TPSN
住吉丸	TQPK
久吉丸	TPFK
德榮丸	TPHG
帆隆丸	TMWV
海靜丸	TNCW
蛭子丸	TNWG
明勢丸	TDLP
日吉丸	TNWV
福丸	TMWK
八幡丸	TMWF
金比羅丸	TMWG
蛭子丸	TDLS
明神丸	TMVF
濟吉丸	TNWD
八幡丸	TPQC
朝日丸	TMWJ
久吉丸	TDKW
三社丸	TDLV
福壽丸	TDLK
住吉丸	

許可 1894 号 本文

許可 1894 号 昭和八年四月二十六日

正誤

本月二十日海軍省令第二號四行「旅順港規則左ノ通改正ス」ノ二行ハ削除ス　同號旅順港規則第一條二行「第一區第二區」ハ「第一區及第二區第二條三行「妨ケ」同四行「限リ」ハ「限リ第三條初行「第一區第二區」ハ「第一區及第二區」同二行「アラザレバ」ハ「非ザル者ハ同三行「得ス」ハ「得ズ」第四條三行「艦船信號」ハ「船舶信號」第六條三行「日出マデ」ハ「日出迄」第七條初行「アラザレバ第一區第二區及西港ノ海面」ハ「非ザレバ第二區第二區及西港」同六行「西港ノ海面」ハ「西港」同十行「アラザル」ハ「非ザル」第八條初行「西港ノ海面」ハ「西港」同二行「アラザル千噸」ハ「非ザル總噸數千噸」同三行及同五行「マデ」ハ「迄」同九行ヨリ同十一行ニ至ル「海軍軍人ニシテ要港部司令官ノ檢定ヲ經タルモノナルヲ要ス」ハ「海軍軍人タルコトヲ要ス」第九條初行「西港ノ海面」ハ「西港」同五行「待ツ能ハザル場合ニ於テハ」同七行「西港ノ海面」ハ「西港」第十二條初行「特許」ハ「許可」第十三條二行「發射發火」ハ「發射又ハ發火」同五行「禮砲號砲ト雖モ」ハ「禮砲號砲ト雖モ」同六行「アラザレバ」ハ「非ザレバ」同八行「禁制」ハ「規定」第十四條初行「第一區第二區ノ海面」ハ「第一區及第二區」同二行「特許」ハ「許可」同六行「水域ニ亦前項ニ準ズ」ハ「水域ニ付前項ノ規定ヲ準用ス」第十五條初行「第一區第二區ノ海面」ハ「第一區及第二區」同二行「及」ハ「並ニ」同三行「アラザレバ」ハ「非ザレバ」同八行「艦船若シ其ノ」ハ「艦船其ノ」第十六條二行「難破物委棄物」ハ「難破物委棄物」同十一行「其ノ」ハ「前項ノ」同十四行「又ハ其ノ他ノ」ハ「其ノ他ノ」第十七條二行「スベカラズ」ハ「スルコトヲ得ズ」第十八條初行「左ニ」ハ「左ノ諸號ニ」同五行「河川海面ノ堤立波濤」ハ「河床ノ變更、河川竝ニ海面ノ堤立波濤」同七行「道路運河」ハ「道路運河」ハ「橋梁及鐵道」ハ「橋梁及鐵道」同十四行「浮標立標」ハ「浮標、立標」同十五行「第一區第二區」ハ「第一區第二區」ハ「第一區第二區」第十九條四行「發行スルヲ禁ズ」ハ「發行スルコトヲ禁ズ」ノ誤「第二十條」ハ「第二十一條」ニ改ム「第二十一條」ハ「第二十二條」ニ改ム「無線電信」ハ「無線電信及」第二十二條二行「於テ」ハ「於ケル」同三行「境域外」ハ「境域外ニ」第二十五條初行「旅順港ノ境域竝ニ」ハ「旅順港境域竝ニ」附則中「本則」ハ「本令」ノ誤モ誤　本規則中「要港部ノ上ニ」ヲ「旅順」ノ二字ヲ脫ス

海軍省副官

授爵、敍任及辭令

◉昭和八年四月二十五日

（各通）

正二位勳一等　一木喜德郎

從二位勳一等功三級　奈良　武次

依勳功特授男爵

◉昭和八年四月一日

平松　門次　古賀　義雄　關根　清　高野　卍　鈴木　義雄　白石　純忠　佐々木英夫　小宮　哲雄　思賀　謙三　鬼津　敬三　中村　勝　百野　常久　長坂　利次　西脇　浩　齊藤富士雄　藤井五郎八　棧　康一郎　土屋英一郎　大古田源一　鍋山　元彌　大塚　信策　横井　文男　大原　正夫　嘉山　家隆　稚南　胤一　乘原　巽　中村　信　尾崎　六郎

安井　修一　平尾　昇　川原　量平　神野　梓緣　保　加藤　龜長　山田　敎宇　保　横山　通貫　榮　島田　川崎　久治　黒木　利助　柘植　重夫　江崎　幸朋　川村　昌喜　梅津　隆好　小泉　重政　宇治　千秋　河上　達雄　高田　誠一　旧比喜三太　夏秋　忠雄　村田　孝之　松川　頴武　鳥居　作夫　粕木謙三郎　北原　光　高橋　活　三宅　彰　仲松　彌良　金澤　要　小笠原武夫　柳谷　誠三　西　英五郎　杉野　太朗　林　篤七　川島　清　吉野　俊雄　中村　朗　片山　直彦

谷川　譲　秋葉　令譽　大脇　範雄　石井　正三　四元　泰雄　野溝　傳　弓場　靖　杉原　一郎　加藤輔之助　今井　廣　渡邉　孝實　高田　敬幸　高橋　幸雄　長谷川芳郎　市川　市郎　指方　岩雄　香川　百一　森　繁俊　吉岡　安喜　桃﨑　正香　峯　勝　杉山與茂平　中川　幸三　横山　廣運　中村　正夫　橋本　泰雄　佐藤　雄三　藤林大吉郎　尾藤　三男　岸本仙之助　山口　甫　藥袋　辰次　梶原　哲夫　田苗　直身　荒木　金一　岡府田敏一　小野　博　高崎乙右エ門　二階堂政一　飯田　研三

三一六五七	末廣丸	TDLN	
三一六四九	宮吉丸	TDLB	
三一六五一	宮福丸	TDLF	
三一六五〇	日吉丸	TDLR	
二一七一六	第十六號川丸	LDKF	
二一七一七	第十七號川丸	LDKG	
二一七一八	第十八號川丸	LDKH	
二一七一三	第二十一號川丸	LDKP	
二一三四	第十八號川丸	LDKQ	
二一三四五	第二十三號川丸	LDMJ	
二一四四五	第三號浦吉丸	LTCK	
二一四五一	觀音丸	LTCM	
二一四九一	大三丸	LTCQ	
二一五一一	速通丸	LTCR	
二一五二一	第六浦川丸	LTCV	
二一五三一	福德丸	LTCW	
二一五四一	浦吉丸	LTDB	
二一五五一	浦吉丸	LTDC	
二一五六一	浦吉丸	LTDF	
二一五七一	鹿島丸	LTDG	
二一〇〇四	德榮丸	RBDP	
二一〇二七	榮木丸	RBFN	
二一一二三	第四號富丸	RBNC	
二一一五〇	開運丸	RBPM	
二一一七二	第給武號濱丸	RBWD	
二一二二七	日の芳名丸	RDKM	
二一二三八	喜賓丸	RDLM	
二一二四二	佳榮丸	RDLP	
二一二四三	住福丸	RDMV	
二一二五二	住吉丸	RDTW	
二一二六三	第一号神力丸	RCWP	
二一三七八	福榮丸	RFJM	
二一三七八一	住若丸	RFJN	
二一三七八二	佐賓丸	RGDM	
二一三七八三	金比羅丸	RGDT	
二一三七八七	第二号平安丸	RGFH	
二一三九二七	第五寅福丸	RGFM	
二一三九三一	福祥丸	RGFS	
二一三九三二	住吉丸	RGFT	
二一三九三九	神力丸	RGHJ	
二一三九五八	幸榮丸	RGJN	
二一三九六四	金比羅丸	RHPB	
二一三九六五	神福丸	RHPC	
二一四〇〇七	第壱號鎭西丸	RFMP	
二一四〇一一	宮福丸	RFMV	
二一四〇五九	蛭子丸	RGQV	
二一四一七八	觀寶丸	RHPW	
二一四一九三	第參號濱城丸	RHSB	
二一四二九八	共進丸	RHSJ	
二一四三八〇	朝日丸	RGMV	
二一四四二〇	第壱號藤幸丸	RGML	
二一四四九一	住吉丸	RJNF	
二一四五〇五	廣壽丸	RJPD	
二一四五〇五	觀音丸	RJPF	
二一四五一五	明德丸	RJPK	
二一四五一八	福吉丸	RJPT	
二一四五二七	新福丸	RJQB	
二一四五二二	金力丸	RJQC	
二一四五三二	若吉丸	RJQN	
二一四五三三	七福丸	RJQS	
二一四五四二	嘉吉丸	RJQW	
二一四五四三	天洋丸	RJVC	
二一四五五二	幸福丸	RJWG	
二一七四一九	金一丸	RJWR	
三〇〇八二	幾榮丸	TBPD	
三一六四一	大盛丸	TDCW	
三一六五九	福福丸	TDKM	
二一六〇五	住榮丸	TDLL	
二一六八九	榮德丸	TRCW	
二一六〇一	神若丸	TSMJ	
二一六七〇	第壱大福戸丸	RJNG	
二一六七二	新榮丸	RJPS	
二一六七四	神寶丸	SCBP	
二一七二七	胡子丸	THRS	
二一七四八	あづま丸	TSMJ	
二一七四九			
二一六七二	相喜丸	NQLC	
二一八三七	幸榮丸	NRFC	
二一八四五	第二須田丸	NRFP	
二一八四九	榮久丸	NTRL	
二一四五九	宮寶丸	NWBG	
二一六〇八	第拾壱號平安丸	NVJT	
二一六四二	改寶丸	NWTL	
二一六七二	第二朝日丸	NVPT	
二一七一一	神幸丸	NWCJ	
二一七八四	勝榮丸	NWDG	
二一七八五	大黒丸	NWDH	
二一七八六	天神丸	NWDJ	
二一七八八	金榮丸	NWDL	
二一八三九	七福丸	NWHM	
二一八六九	若福丸	NWKQ	
二一九〇八	快運丸	NWPD	
二一一五八	第二妙福丸	RBQD	
二一一六一	第二山陽丸	RBVS	
二一一六二	金榮丸	RBWJ	
二一一六三	天寶丸	RCBH	
二一一六四	大西丸	RCVT	
二一二四四一	五十二大滝丸	RDJL	
二一二四九二	遞渡丸	RDLN	
二一二五二三	大德丸	RDLN	
二一二五三九	平安丸	RDMP	
二一二五四七	金比羅丸	RGDF	
二一三七三一	若力丸	RCWG	
二一三九一一	第拾參号濱丸	RGDL	
二一三九一三	福吉丸	RGDN	
二一三九二四	住若丸	RGFJ	
二一三九二五	曾寶丸	RGFK	
二一三九三五	金福丸	RGHB	
二一三九四一	觀音丸	RGHL	
二一三九四三	福寶丸	RGHN	
二一三九四八	榮力丸	RGHV	
二一三九五七	住幸丸	RGJM	
二一三九六一	第一報恩丸	RGJS	
二一四一九七	第五松榮丸	RHJP	
二一四二九〇	大寶丸	RHQT	
二一四三〇六	幸壽丸	RHSV	
二一四三〇九	神寶丸	RJML	
二一四四八一	榮德丸	RJMN	
二一四四八六	長榮丸	RJMV	
二一六七〇	神若丸	NQKW	
二一六七二	佳榮丸	RDLP	
二一六七四	住福丸	RDMV	
二一六八一	住吉丸	RDTW	
二一七三八	第一号神力丸	RCWP	
二一七八〇	福榮丸	RFJM	
二一七八一	住若丸	RFJN	
二一七八二	佐賓丸	RGDM	
二一七八三	金比羅丸	RGDT	
二一七八七	第二号平安丸	RGFH	
二一七九二七	第五寅福丸	RGFM	
二一七九三一	福祥丸	RGFS	
二一七九三二	住吉丸	RGFT	
二一七九三九	神力丸	RGHJ	
二一七九五八	幸榮丸	RGJN	
二一七九六四	金比羅丸	RHPB	
二一七九六五	神福丸	RHPC	
二一八〇〇七	第壱號鎭西丸	RFMP	
二一八〇一一	宮福丸	RFMV	
二一八〇五九	蛭子丸	RGQV	
二一八一七八	觀寶丸	RHPW	
二一八一九三	第參號濱城丸	RHSB	
二一八二九八	共進丸	RHSJ	
二一八三八〇	朝日丸	RGMV	
二一八四二〇	第壱號藤幸丸	RGML	
二一八四九一	住吉丸	RJNF	
二一八五〇五	廣壽丸	RJPD	
二一八五〇五	觀音丸	RJPF	
二一八五一五	明德丸	RJPK	
二一八五一八	福吉丸	RJPT	
二一八五二七	新福丸	RJQB	
二一八五二二	金力丸	RJQC	
二一八五二三	若吉丸	RJQN	
二一八五三三	七福丸	RJQS	
二一八五四二	嘉吉丸	RJQW	
二一八五四三	天洋丸	RJVC	
二一八五五二	幸福丸	RJWG	
二一八七四一	金一丸	RJWR	
二一九〇八二	幾榮丸	TBPD	
二一九一六四	大盛丸	TDCW	
二一九一九五	福福丸	TDKM	
二一九二〇五	住榮丸	TDLL	
二一九二八八	榮德丸	TRCW	
二一九三〇〇	神若丸	TSMJ	
二一九三四九			

◉鐵道省告示第百五十九號

明治四十一年十一月鐵道院告示第二號鐵道省建設事務所ノ名稱、位置及所管區域中左ノ通改正シ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

昭和八年四月二十六日

鐵道大臣　三土　忠造

所管區域ノ欄中左ノ如ク改ム

北海道建設事務所ノ項「釧路網走間、」及「帶廣廣尾間、」ヲ削リ末尾ニ「、中標津標茶間、上士幌三股間」ヲ加フ

熊本建設事務所ノ項「犬飼宮地間、」ヲ「臼杵三重間、」及「宇土萱野間」ヲ削ル

東京建設事務所ノ項「木更津大原間」ヲ「木更津鶴山間、中野大原間」ニ改ム

岡山建設事務所ノ項「大洲魚成間、」及「近永魚成間、」ヲ削リ末尾ニ「、八幡濱宇和島間」ヲ加フ

山口建設事務所ノ項「小郡萩間、」ヲ削ル

熱海建設事務所ノ項「熱海下田間」ヲ「熱海伊東間」ニ改メ末尾ニ「、二俣鹽橋間」ヲ加フ

盛岡建設事務所ノ項「好摩花輪間、」ヲ削リ「一ノ關大船渡間」ヲ「一ノ關盛間」ニ、「盛岡山田間」ヲ「盛岡釜石間」ニ改ム

岐阜建設事務所ノ項「名張松阪間、貴生川加茂間」ヲ「松阪奥津間、貴生川信樂間」ニ改ム

◉拓務省告示第三號

外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第四條第九號ノ移民左ノ通指定ス

昭和八年四月二十六日

拓務大臣　永井柳太郎

一　移民取扱人ノ取扱ニ依ル移民

二　滿洲國ニ於ケル試驗移民

薄井習之助　古賀貞敏　鎌田修　島重雄
日高征生　高橋東介　荒川修三　渡邊利勇
本間賢亮　井上秀人　吉田政義　橘廣海
金子喜八郎　池田勳　青木一郎　藤井三男
烏袋盛勝　廣瀬一郎吉　菅原清　多田勇
岩田榮雄　三池巖　田宮正男　蔭川隆
大林達三　力丸龍雄　塩谷三治　神谷守之
関川武　林英一　福村吉雄　関野志郎
高橋譲　廣瀬一郎吉　魚森克巳　宮城島清
迫間忠義　平山砂男　田中時彦　照本尊
山中幸次　杉山清　北川承三　佐俣正雄
岡崎正尚　諏訪良三　若林眞太郎　野村勝治郎
杉下武之　保田欣之助　依田勝利　田口昇
永光軍一郎　余宮義光　小林守　伊藤昇
新谷大亮　安藤巖　菊地善守　稲田榮實
松岡幸七　武見太郎　冨田嘉七　竹本隆
福田仲一　新冨義光　八木勝弥　鷹栖文一郎
田口三郎　石原惠三　山口登　長谷川秀三
藤田章夫　野北九州男　千綿猛　松村善四郎
棚橋貞雄　森忠造　永田多喜夫　森田雄三郎
有賀文夫　川本桂三　樋田義徳　古田壽雄
重田武雄　山東光裕　渡邊芳太郎　牛島正夫
加藤正一　村山實　田中嘉太郎　三井綠郎
青木孝二　小暮精朝　中畔秀男　井上信男
三田利亮　安部佐末　加藤誠　黒田茂
寺井武一　小山龍男　山崎禮治　榛葉勇吉
森脇弘美　池田正雄　成川武夫　高橋要
小林弘美　大野榮一　奥村巖　松木庚男
山内美義　野田誠一　澁谷喬　河原清
革島貞吉　久石秀三郎　黒田義雄　丸山七郎
中村德治郎　福尾佐治雄　西川成之　木村俊雄
中島武次郎　新谷幸助　末長茂雄　長谷川義次
瀧田健次郎　山崎外一　麻原良英　稻生香
筒井駿　松江修次郎　橋本紋兵衛　林公雄
神谷虎三　松本孝治　渡邊忠三　川島富士太郎
中岡美明　内村年見　栗山勝喜　本村修治
辛島正人　高田德二郎　古瀬清　幡野柳三郎
梅村旭　関口治夫　藤本咸德　澤澤將衛
高田秩一　西光博　探間内將　黒田正治
西垣明治　田中幸藏　細田泰信　坂本久生

藤井論史郎　森川勇　三宅種造
長谷川眞一　橋迫隆憲　三井幸夫
格嶋喜三九　佐藤孝四郎　小川平一
青山秋太郎　小針正雄　北口英夫
竹川泰三　笹原常三郎　大久保義夫
冨居梅枝　戸川眞澄　高木利彦
武田孝三　三輪清志　大野清司
磯部二郎　山内四郎　森田繁
中尾武左右　津田貞二　山本一夫
澤田正夫　西村秀雄　鵜戸敬輔
今井廣藏　吉田庫太郎　大村勝雄
中村和夫　藤田伊德　林智
森重孝　根井辰雄　横山一雄
秋田幸助　塩見利雄　兼平昌一
車谷芾平　星修　佐々木忠
眞野彰夫　萬森春明　渡邊岩吉
奥村久　波部敏郎　崎村齋
山本吉藏　西野光一　古澤貢
福澤辰雄　駒城東一　青田嚴
大場清二　荒木良美　館山健三
須藤明之助　伊東正次　川淵勝之助
木下泰　藤崎貞　田崎政雄
木村重伴　寺前太市　濱本直
中冨正義　本鄉一保　大嶋近男
岡田周次　山邊清　吉田二清
竹中繁三郎　上田幸雄　吉川忠二
野村常民　丹下一三　山内忠男
太田英雄　荣毛功　河野廣行
木村三郎　田代壽治　坂田秀雄
平島貞雄　大益橘哉　村上正
後藤盛幸　平塚進　柴山重俊
財前旭夫　長倉義夫　安平章
秋葉克巳　一花左内　武田柳吉
田尻易　大道腰夫　源川冬三郎
児玉利夫　折田義忠　宮内通哲
小原虎雄　平田弘之　三好賴正
潮戸川淳　星形德智　赤松賢吉
前田安雄　櫻井安正　小西長吾
伊藤勉　小野隆　小林良誠
羽根田布美　篠崎勤　中西信雄

官報
1894
号
外
昭和八年四月二十六日

勳八等　中村　靜一
山崎善太郎
横山友次郎
永松　種藏
三谷　忠義
田中　信一
横川　住市
梅林　定吉
小山源右衛門
西　豊二郎
牛田孝一朗
八木　勇藏
大村　通信
服部　義雄
井関　登二
澤井　堯夫
淺田　莊七
西村　武矩
東村　保造
谷村　正治
岩波　範次
藤田　久一
小林　眞一
利根川一春
高橋　治善
山口內藏之助
石原　孝藏
篠崎　柳司
作田　彥
吉野　紋藏
益子　久治
沼田　成彥
宮川清次郎
大島　末吉
鈴木　三郎
土肥岩之助
鈴木彦四郎
中島　忠吉
大津　桂一

二宮　嘉憲
長坂　慶俱
北島　重幸
宮澤　良武
若林　末雄
神田　次郎
岩井　克巳
白石　清助
勝又　賴治
山本勝次郎
加藤　理作
本谷　政吉
三須　順朔
中榮　勇吉
好井　寬治
甲　松之助
日俣彥一郎
江尻彥十郎
森井　雋藏
高田　孝次
鈴木治三郎
增山安太郎
◉昭和八年四月二十日
須崎　哲次
新田　恭藏
泉本十太郎
松篠　允
上田　盛實
佐竹　重吉
松岡　平八
北村　榮吉
北村　彥馬
濱田
濱野秦次郎
綾部　辰三
植松　文作
森田　卯八
野口　良美
久保山謹之
廣重喜代三郎

久保　新六
石丸喜代次
菊池　巖
齋藤　守岡
中島　永曉
武田　信男
◉昭和八年四月二十日
從五位勳三等　馬越　恭平
◉昭和八年四月二十二日
從六位勳六等　山田　友記
從六位　帖佐　直喜
◉昭和八年四月二十四日
從七位勳七等　佐藤鏡太郎
勳八等　洪　鍾五
勳八等　土田重八郎
◉昭和八年四月二十五日
正六位　若山普三郎
從六位　古川　義治
從七位　水尻倉太郎
勳七等　小西　藤藏
海軍技手　澤田　正躬
片山連次郎

東京高等師範學校助教授　安田　弘嗣
兼任東京高等師範學校教諭
敍高等官七等
廣島文理科大學學生主事補兼
廣島高等師範學校生主事補　尾坂　鶴夫
兼任廣島高等師範學校教授
敍高等官七等
外務書記官從五位勳四等　井上庚二郎
兼任商工書記官
敍高等官三等　商工技手　三並　直市
任商工技師
敍高等官七等　貯金局書記　島田　啓治
任通信事務官
敍高等官七等
任鐵道技師
敍高等官三等
任鐵道技師
敍高等官四等　鐵道局書記勳七等　小西　藤藏
任鐵道局副參事
敍高等官七等　鐵道技師從五位　坪井　環
任鐵道局技師
敍高等官三等　鐵道技師從六位　津下　四郎
任鐵道局技師
敍高等官五等　朝鮮總督府師範學校教諭勳八等　熊谷　直則
任朝鮮總督府師範學校教諭
敍高等官七等　公立實業學校教諭從六位　黑瀨　佐野
任朝鮮公立實業學校長兼朝鮮公立實業學校
教諭
敍高等官五等

任樺太廳高等女學校教諭　宮城　助三
敍高等官七等
任警視廳警部　本間　靖也
敍高等官八等
依職公立高等女學校教諭從六位　田口　正治
師範學校教諭ニ任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル
公立高等學校教諭兼公立高等學校教授正七位　安宅喜太郎
公立中學校教諭ニ任ス
高等官六等ヲ以テ待遇セラル
師範學校教諭從七位　田原　爲穎
公立中學校教諭ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
任大阪帝國大學助教授　正六位　八木　理三
社會教育主事ニ任ス
高等官四等ヲ以テ待遇セラル

選信局技師兼選信技師　岩瀨鉄次郎
依願免本官敍兼官
（各通）　外務事務官　龜山　一二
大使館二等書記官　宮川　舩夫
高等試驗臨時委員被仰付
海軍中將　長谷川　清
「ジュネーヴ」一般軍縮會議ニ全權委員トシテ參列被仰付
同　永野　修身
「ジュネーヴ」一般軍縮會議全權委員被免
神宮皇學館教授　若山善三郎
陞敍高等官三等
釧路市助役　岡田　佐市
都市計畫北海道地方委員會委員被仰付
兵庫縣會議員　大多　重藏
都市計畫兵庫地方委員會委員被仰付
駐滿海軍部參謀長海軍大佐　藤瘦清一朗
兼補滿洲國在勤帝國大使館附武官
駐滿海軍部參謀兼滿洲國在勤帝國大使館附武官補　柴田彌一郎
兼職免

外務書記官兼商工書記官　西　春彥
免兼官
特許局技師　滝本　浩
（各通）　朝鮮總督府判事　今井　豊治
警視廳警視　畑　淺五郎
依願免本官
公立實業學校教諭　天貝　壽
陞シテ高等官五等ヲ以テ待遇セラル
山口縣公立小學校訓導兼山口縣公立小學校長長府町立長府圖書館長公立國長長府町立長府圖書館長公立實業學校教諭　椿　勉一
願ニ依リ兼公立實業學校長公立實業學校教諭ヲ免ス
地方農林主事　古川　義治
陞シテ高等官四等ヲ以テ待遇セラル
臺灣土木技師　水尻倉太郎
陞シテ高等官六等ヲ以テ待遇セラル
高等官七等ヲ以テ待遇セラル　岩崎　清
（各通）　朝鮮京畿道公立小學校長　中原　倉造
朝鮮京畿道公立普通學校長
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
（各通）　朝鮮京畿道公立小學校長　荒內　貞作
奉天彌生疏常小學校長　井上　章
高等官八等ヲ以テ待遇セラル（以上十四日附）
敍從五位　勳三等　馬越　恭平
特旨ヲ以テ位一級追陞セラル（十四日附宮內省）
待從武官　石田　保秀
第十一師管內徵兵署ヘ被差遣（十四日附）
同　桑折英三郎
館山海軍航空隊ヘ被差遣（以上十四日附同）
佐世保防備隊分隊長海軍大尉　林田　綱雄
補夏島爆裝員長
海軍機關大尉　谷本　政一
吳鎭守府附被仰付（以上十四日附海軍省）
公立高等女學校教諭　福間　忠一
宮崎縣立宮崎高等女學校教諭ニ補ス（十四日附）
部省）
大阪帝國大學教授　青柳　榮司
長岡高等工業學校商議委員ヲ囑託ス

公立高等學校教諭　細川　公準
（各通）　公立高等女學校舍監　小谷　丈夫
和歌山縣立新宮高等女學校舍監ニ補ス（以上十四日附同）
東京帝國大學教授　長與　又郎
職務俸金參百圓下賜
同　東京帝國大學醫學部長
職務俸金六拾圓下賜
同　島薗順次郎
補東京帝國大學醫學部附屬醫院長
職務俸金八百圓下賜
同　林　春雄
依願東京帝國大學醫學部長ヲ免ス
同　塩田　廣重
依願東京帝國大學醫學部附屬醫院長ヲ免ス
九州帝國大學教授　森　耕二郎
本俸十級俸下賜
法文學部勤務ヲ命ス
經濟學第六講座擔任ヲ命ス
大阪帝國大學助教授　兒玉　元一
本俸八級俸下賜
職務俸金參百六拾圓下賜
工學部勤務ヲ命ス
師範學校教諭　田口　正治
德島縣女子師範學校教諭ニ補ス
公立中學校教諭　安宅喜太郎
北海道廳立札幌第一中學校教諭ニ補ス
同　田原　爲穎
佐賀縣立佐賀中學校教諭ニ補ス
社會教育主事　八木　理三
京都府社會教育主事ニ補ス
公立高等女學校長兼
公立高等女學校教諭　小板橋藤作
高部勝太郎
同　五十嵐丁悟
同　小倉　隆藏
同　伊藤　眞吾
公立高等女學校長　宮崎小太郎
同　貞
關根喜次郎

同　桑江　彥鳳
同　塞田　秀藏
同　佐藤　京橋
同　宮崎　直
同　眞邊　仙一
同　原澤義太郎
同　田島　光信
同　玉井　三郎
同　吉留丑之助
大阪府公立小學校長　澁川　竹郎
奈良縣公立小學校長　岩田　忠實
滿洲國（出張ヲ命ス）
東北帝國大學助教授　的場　幸雄
金屬工學第一講座分擔ヲ命ス
分擔講座職務俸金貳百七拾圓下賜
同　武田　修三
金屬工學第一講座分擔ヲ命ス
分擔講座職務俸金貳百圓下賜
彥根高等商業學校教授　清水　義雄
五級俸下賜
第六高等學校教授　岩切　晴二
（各通）　同　野田　淨曜
同　山岡　直道
七級俸下賜（以上十四日附同）
鐵道局技師　緒方　平造
八級俸下賜
門司鐵道局勤務ヲ命ス（十四日附鐵道省）
鐵道技師　小林　謙二
四級俸下賜
電氣局電力課勤務ヲ命ス
同　安藤　三郎
電氣局電化課勤務ヲ命ス
同　內山　俊樹
五級俸下賜
電氣局電化課勤務ヲ命ス
同　小森　修二
五級俸下賜
電氣局通信課勤務ヲ命ス
鐵道局技師　津下　四郎
六級俸下賜
東京鐵道局勤務ヲ命ス

1894

各通	同	櫻井健治郎
同	同	秋紀一郎
東京鐵道局勤務ヲ命ス		
同		坪井環
四級俸下賜		
名古屋鐵道局勤務ヲ命ス		
同		折田徹
札幌鐵道局勤務ヲ命ス（以上十二月二日同）		
同		丸田登
十級俸下賜（臺灣總督府）		
臺灣總督府中央研究所技師		服部武彦
工業部長加俸均三不在中代理ヲ命ス（五月一日同）		
臺灣總督府州事務官		藤村寛太
福岡縣、朝鮮及滿洲國（出張ヲ命ス（五月一日同）		
臺灣總督府中央研究所技師		大島金太郎
庶務課長高原逸人不在中代理ヲ命ス		
臺灣總督府師範學校教諭		小池清嵐
補臺北第二師範學校附屬公學校主事（以上五月一日同）		
三級俸下賜（五月一日長崎縣）		
地方農林技師		面高慶之助
四級俸下賜（十三日茨城縣）		笹谷雄三
同		秋雄
八級俸下賜（五月一日同）		
地方農林技師		青戸靜
十一級俸下賜（五月一日高根縣）		
公立實業學校長		高田得一
八級俸下賜		
公立高等女學校教諭		財前央
七級俸當分千下賜		
同		植谷飯
八級俸當分千下賜（四月一日熊本縣）		
公立中學校教諭兼公立高等女學校教諭		藤井傳平
公立高等女學校教諭兼公立實業學校教諭		貞
各通		
公立實業學校教諭兼公立實業學校舍監		和田秋廣
同		甲斐庄次郎
加俸年額七拾貳圓下賜		
公立中學校教諭		金光稻太
昭和七年八月十六日ヨリ年功加俸年額九拾六圓下賜（以上十三日宮崎縣）		
昭和七年六月十一日ヨリ年功加俸年額九拾六圓下賜		
公立高等女學校教諭		師範學校教諭 橋本喬木
昭和七年九月二十一日ヨリ年功加俸年額九拾六圓下賜（以上十月一日同）		
正誤		
本月六日 本欄一四五頁三段諏原巍吉、ハ諏原義行。		
內務書記官		
ノ報告誤		
一昨二十四日本欄六三七頁三段酒井正隆ノ上「陸軍二等主計」ハ「陸軍一等主計」ノ報告誤		
陸軍省副官		

宮廷錄事

◉侍親授式　昨二十五日午後一時三十分侍親授式ヲ行ハセラレ正二位勳一等一木喜德郎陸軍大將奈良武次ヘ男爵ヲ授ケラレタリ

◉御陪食　一昨二十四日正午宮中ニ於テ守正王殿下ヲ午餐ニ召サセラレ各控訴院長其他ヘ御陪食仰付ケラレタリ

彙報

○官廳事項

◉退職　熊本縣立宇土中學校、熊本縣立松橋高等女學校、熊本縣立玉名中學校、熊本縣立菊池中學校、熊本縣立菊池高等女學校、熊本縣立菊池農業學校、熊本縣立鹿本農業學校、熊本縣立山鹿中學校、熊本縣立山鹿高等女學校、熊本縣立山鹿農業學校、熊本縣立高等女學校、熊本縣立八代中學校、熊本縣立八代高等女學校、熊本縣立八代農業學校、熊本縣立水俣實業學校、熊本縣立水俣高等女學校、熊本縣立水俣農業學校、熊本縣立天草中學校、熊本縣立天草高等女學校、熊本縣立天草農業學校、熊本縣立牛深高等女學校、熊本縣立牛深農業學校、熊本縣立鹿本高等女學校、熊本縣立鹿本農業學校、熊本縣立玉名高等女學校、熊本縣立玉名農業學校、熊本縣立菊池女子師範學校、熊本縣立菊池實業學校、熊本縣立菊池高等女學校、熊本縣立菊池

センメザル如ク必要ナル手段ヲ講ズベシ若シ過テ水深ニ影響及ボス泊キ物件ヲ墜落セシメタル場合ニハ速ニ港務部長ニ通知スベシ

第二十九條　鑿船及繋止セル重油槽内汚濁浮ハ旅順港水域内ニ排出スルコトヲ得ズ但シ艦船ニ於テ諸油ニ重油等ヲ混ズル汚水ヲ排出スルノ已ムヲ得ザルトキハ附近艦船ノ外鮮ヲ汚損シ又ハ引火等ノ虞ナク且潮流風向ヲ考慮シ充分安全ナル場合ニノミ之ヲ行フコトヲ得

第三十條　旅順港通航艦船現ニ規定スル處ニ依リ第一區第二區内ニ於テ之ガ營業ノ許可ヲ得タル船舟ハ港務部長所定ノ旅客ヲ當ニ見エ易キ位置ニ揭揚スベシ

第三十一條　第一區第二區及西港ニ於テハ檣ヲ以テ運航スル船舟ト雖モ夜間ハ常ニ四周ヨリ見エ易キ位置ニ白燈一箇ヲ揭ゲベシ

第三十二條　第一區第二區及西港ニ錨泊又ハ繋留スル海軍所屬艦船ニシテ汽機、汽罐等ノ修理ノ爲十二時間以内ニ運航スルコト能ハザル工事ヲ爲サントスルトキハ豫メ其旗章ヲ降下及竣工期日ヲ港務部長ニ通知スベシ

第三十三條　黄金山見張所及東港入口北側ニ在ル港務部見張所ヲシテ旅順港ノ監視ニ任ゼシメ又要港部ニ巡邏船ヲ置キ港内ヲ巡邏警戒セシムル其ノ方法ハ港務部長之ヲ定ム

第三章　出入港ニ關スル事項

第三十四條　老虎尾水道以内ニ入港セントスル艦船ハ黄金山見張所ノ旗竿ニ第六十三條所定ノ出港旗（螢）ノ揭揚シアル間ハ同水道以南ニ於テ航路ノ妨害トナラザル位置ニ待合スベシ

第三十五條　老虎尾水道以内ヨリ出港センスル艦船ハ黄金山見張所ノ旗竿ニ第六十三條所定ノ入港旗（螢）ノ揭揚シアル間ハ出港スルコトヲ得

第三十六條　二隻以上ノ艦船同時ニ老虎尾水道以内ニ入港センストスルトキハ黄金山見張所旗竿ノ出港旗（螢）ト共ニ符字信號ニテ指示スル艦船ヨリ順次ニ入港スベシ

第三十七條　二隻以上ノ艦船同時ニ老虎尾水道以内ニ出港センストスルトキハ黄金山見張所旗竿ノ出港旗（螢）ト共ニ符字信號ニテ指示スル艦船ヨリ順次ニ出港スベシ

第三十八條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニ於テハ常ニ該艦船ノ風下側ニ於テ安全ナル距離ヲ保ツ如ク運航スベシ若シ已ムヲ得ズ風上側ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコトニ注意スベシ

第四十四條　船舟ノ港内運航ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　第一區及東港入口以北ノ第二區ニ於テハ四節以下ノ速力ニテ徐行スベシ

二　堤頭桟橋、岬角、鑿岸ノ突端又ハ繋留船ノ一端ヲ回航スル場合ニ於テ之ヲ右ニ見テ航行スルトキハ小廻リ左ニ見テ航行スルトキハ大廻リヲ爲スベシ

三　機動船ハ老虎尾水道及東港入口ニ於テハ反航スル他ノ同種ノ船ト互ニ左舷ニ見ル前項ノ區域ニ於テ危險ノ虞アル場合ニハ他船ヲ追越スベカラズ

四　陸岸附近ニ於テハ之ニ幸著セントスルモノハ之ヨリ離脱セントスルモノノ操縦ヲ容易ナラシムル如ク行動スベシ此ノ場合發者ハ前者ノ行動ヲ妨ゲザル如ク注意スルヲ要ス

第四章　繋泊及運轉ニ關スル事項

第四十五條　第一區ニ於テ海軍所屬艦船ヲ陸岸ニ繋留、解纜、出入港又ハ出港後ニ於テハ港内ニ於テ諸油ニ重油等ヲ混ズル汚水ヲ排出スルノ已ムヲ得ザルトキハ附近艦船ノ外鮮ヲ汚損シ又ハ引火等ノ虞ナク且潮流風向ヲ考慮シ充分安全ナル場合ニノミ之ヲ行フコトヲ得

第四十六條　艦船及繋止セル重油槽内汚濁浮ハ旅順港水域内ニ排出スルノ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ澄水ヲ排出スルノ已ムヲ得ザルトキハ附近艦船ノ外鮮ヲ汚損シ又ハ引火等ノ虞ナク且潮流風向ヲ考慮シ充分安全ナル場合ニノミ之ヲ行フコトヲ得

第四十七條　艦船ハ海軍所屬艦船ヲ除ク外港務部ノ指揮ニ從ヒ定ラレタル艦船ノ外一切第一區ニ於テ錨泊スルコトヲ禁ズ

第四十八條　艦船ハ港務部長ノ指示ニ從ヒ定ラレタル艦船ノ外一切第一區ニ於テ錨泊スルコトヲ禁ズ

第四十九條　艦船ハ海軍所屬艦船ヲ除ク外港務部長ノ指示ニ從ヒ定ラレタル艦船ノ外一切第一區ニ於テ錨泊スルコトヲ禁ズ

第五十條　艦船ハ海軍所屬艦船ヲ除ク外港務部長ノ指示ニ從ヒ定ラレタル艦船ノ外一切第一區ニ於テ錨泊スルコトヲ禁ズ

第五十一條　艦船ハ老虎尾水道以内ヲ運航スルトキハ針路ヲ保ツニ必要ナル速力ニ止ムベシ但シ繋舟ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十二條　第一區第二區及西港ニ於テハ艦船ハ大廻リ艦艦艦艦ニ對シ其ノ航路ヲ讓ルベシ

第五十三條　萬國船舶信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニ於テハ常ニ該艦船ノ風下側ニ於テ安全ナル距離ヲ保ツ如ク運航スベシ若シ已ムヲ得ズ風上側ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコトニ注意スベシ

第五十四條　第一區第二區及西港ニ於テハ艦船ハ大廻リ艦艦艦艦ニ對シ其ノ航路ヲ讓ルベシ

第五十五條　艦船ハ老虎尾水道以内ヲ運航スルトキハ針路ヲ保ツニ必要ナル速力ニ止ムベシ但シ繋舟ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十六條　第一區第二區及西港ニ於テハ艦船ハ老虎尾水道以内ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第五十七條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第五十八條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第五十九條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第六十條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第六十一條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第六十二條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第六十三條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第六十四條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第六十五條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第六十六條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第六十七條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第六十八條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第六十九條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第七十條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第七十一條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第七十二條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第七十三條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第七十四條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第七十五條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第七十六條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第七十七條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第七十八條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第七十九條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第八十條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第八十一條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第八十二條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第八十三條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第八十四條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第八十五條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第八十六條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第八十七條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第八十八條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第八十九條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第九十條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第九十一條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第九十二條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第九十三條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第九十四條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第九十五條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第九十六條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第九十七條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第九十八條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第九十九條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第百條　艦船ハ黄金山見張所旗竿ニ萬國信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲル艦船ノ近傍ヲ運航スル場合ニハ充分安全ナル距離ヲ保ツコト注意スベシ

第六十一條　陸上各部ヨリ黄金山見張所ヲ介シテ海軍所屬艦船ニ通信ヲ爲サントスルトキハ電話ニ依リ直接見張所ニ信文ヲ通知スベシ見張所ハ直ニ信號ニ依リ之ヲ指示艦船ニ通知スルモノトス

第六十二條　一般船舶ニ對スル信號ハ關東廳海務局旅順支局附屬老虎尾山信號所ニ於テ取扱フモノトス但シ要港部ヨリ該船舶ニ向ッテ爲ス信號ハ黄金山見張所ニ於テ取扱フヲ例トス

第六十三條　主ナル艦船ノ出入港ハ黄金山見張所信號竿ニ左ノ特設信號ヲ揭揚シテ之ヲ通報スル出入港ノ際ハ錨地ヨリ老虎尾水道ヲ通過シ終ル迄、入港ノ際ハ第三區南端線ヨリ老虎尾水道ヲ通過シ終ル迄揭揚スルモノトス夜間本信號ヲ爲ス場合ニ於テ警報信號燈ヲ揭揚セル時ハ一時該燈ヲ降下又ハ消滅スルモノトス

一　晝間信號

部外船舶出入ノ際ハ黒球ノ下ニ連揚ス

二

(イ)出港スルトキ　白燈二箇ヲ「竿頭」ニ青燈一箇ヲ「斜桁」ニ揭グ

(ロ)入港スルトキ　白燈二箇ヲ「竿頭」ニ赤燈一箇ヲ「斜桁」ニ揭グ

第六十四條　海軍所屬艦船入港ノ際ハ旅順港規則ニ定ムル所ニ依リ檣ニ國籍旗ヲ揭ゲ又ハ檣ニ國籍旗ヲ揭ゲ艦尾ニ國籍旗ヲ掲ゲシムベシ此ノ旗章ハ豫メ港務部長ニ通知シ置クコトヲ要ス

第七章　爆發物其ノ他危險物ニ關スル事項

第六十九條　本章ニ於テ爆發物其ノ他危險物ト稱スルハ左記ノ物件ヲ謂フ

一　彈火藥及火工兵器類

二　引火シ易キモノ

三　衝動ニ依リ發火シ易キモノ

第七十條　旅順港水域ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル艦船ハ航泊ヲ問ハズ鑒開ハ萬國船舶信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲ夜間ハ紅燈一箇ヲ周圍ヨリ見エ易キ所ニ揭ゲベシ但シ其ノ艦船ノ幅ヲ超（ザル限リ竝列シテ繋ゲコトヲ得

第五十二條　第一區及第二區ニ於テ曳船ヲ爲シ又ハ他ノ物件ヲ曳ケトキハ特ニ港務部長ノ承認ヲ得タルトキノ外左ノ制限ニ從フベシ

一　曳船ノ船尾ヨリ被曳船又ハ被曳物件ノ後端ニ至ル迄ノ距離ハ百米ヲ超ユベカラズ但シ被曳船舶洋船ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二　小型艦船ヲ曳ク場合ニ在リテハ前號ノ距離ヲ超エザル限リ二隻若以列スルコトヲ得

三　前號以外ノ船ヲ曳ク場合ニハ一隻ヲ超ユベカラズ

第五章　港務部

第五十三條　港務部ハ港内ニ於ケル船舶ノ出入及繋留ニ關スル事項ヲ掌ル

第五十四條　老虎尾水道以内ニ入港セントスル艦船ハ黄金山見張所ノ旗竿ニ第六十三條所定ノ入港旗（螢）ノ揭揚シアル間ハ出港スルコトヲ禁ズ

第五十五條　豫メ入港ノ通報アリタル艦船ニ對シテハ港務部長ハ其ノ入港ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第五十六條　老虎尾水道以内ヲ運航スル船舟ハ港務部長ノ指揮ニ從フベシ

第五十七條　老虎尾水道以内ニ入港センストスル艦船ハ黄金山見張所ノ旗竿ニ第六十三條所定ノ出港旗（螢）ノ揭揚シアル間ハ出港スルコトヲ得ズ

第五十八條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第五十九條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第六十條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第六十一條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第六十二條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第六十三條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第六十四條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第六十五條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第六十六條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第六十七條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第六十八條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第六十九條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第七十條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第七十一條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第七十二條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第七十三條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第七十四條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第七十五條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第七十六條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第七十七條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第七十八條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第七十九條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第八十條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第八十一條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第八十二條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第八十三條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第八十四條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第八十五條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第八十六條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第八十七條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第八十八條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第八十九條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第九十條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第九十一條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第九十二條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第九十三條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第九十四條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第九十五條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第九十六條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第九十七條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第九十八條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第九十九條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

第百條　港務部長ハ港内ニ於ケル船舶ノ繋留ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

官報　第一八九四號　昭和八年四月二十六日　水曜日

則第四條ノ規定ニ依リ艦船名表示ノ信號ヲ揭揚スルトキハ黄金山見張所ハ之ニ應答スベシ艦船ハ其ノ應答ヲ見テ信號ヲ降下スルモノトス

第六十五條　黄金山見張所ハ港務部見張所ト連絡ヲ保チ特ニ左ノ各號ニ付テハ其ノ都度電話ヲ以テ要港部司令部及港務部ニ通知スベシ

一　主ナル艦船ノ出入港

二　主ナル艦船ノ錨地變換及出入渠

三　旅順港内外ノ火災及遭難艦船

四　觀砲及答砲

五　附近ヲ通過スル外國ノ艦船

六　前諸號ノ外必要ト認ムル事項

第六十六條　海軍所屬ノ艦船ニ於テ港務部長ノ定ムル雛形ニ依リ艦船信號ニ關スル規程及廣告及不用品廢棄規程ノ定ムル處ニ依リ雛形等ヲ必要トスルトキハ晝間ハ左ノ區分ニ從ヒ信號ヲ揭揚シ夜間ハ之ニ相當スル發光信號ヲ用フベシ

信號符字	意味	記事
YP旗曳船呼		
YR旗水船呼	臨時至急清水ヲ要スル場合ニノミ揭揚シ同時ニ文書又ハ信號ヲ以テ手續ヲ爲スモノトス	
YM旗鳳井船呼		
YJ旗灰儘船呼	規定ニ依リ巡回スル噸井船以外特別ニ派遣ヲ必要トスル場合ニノミ揭揚ス	
YO旗幾個船呼		

第六十七條　艦船火ヲ失シタルトキハ時鐘若ハ之ニ類似ノ振鳴器ヲ連打又ハ喇叭ヲ連吹シ晝間ハ萬國船舶信號NM旗ヲ揭ゲ夜間ハ號火、火箭等ヲ用ヒ最モ見エ易キ發火信號ヲ爲シ且斷ヘズ紅燈ヲ上下スベシ

艦船危急ノ場合ニ遭遇シ救助ヲ要スルトキ亦前項ニ同ジ但シ晝間ハ萬國船舶信號NC旗ヲ揭グベシ

第六十八條　要港部各部設ニ海軍所屬ノ艦船ニ於テ傳染病ノ疑アル者ヲ發見シ又ハ傳染病ノ病原體保有者ノ疑アル者ヲ發見シタル場合ニ於テハ其ノ船舶ハ旅順港水域内ニ於テ傳染病ノ疑アル者ノ上陸ヲ禁ズ

第六十九條　本章ニ於テ爆發物其ノ他危險物ト稱スルハ左記ノ物件ヲ謂フ

一　彈火藥及火工兵器類

二　引火シ易キモノ

三　衝動ニ依リ發火シ易キモノ

第七十條　旅順港水域ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル艦船ハ航泊ヲ問ハズ鑒開ハ萬國船舶信號B旗若ハ赤旗ヲ揭ゲ夜間ハ紅燈一箇ヲ周圍ヨリ見エ易キ所ニ揭ゲベシ但シ其ノ艦船ノ幅ヲ超（ザル限リ竝列シテ繋ゲコトヲ得

第七十一條　前條第一項第二號ノ規定ニ該當スル艦船ハ要港部司令官ノ許可ナクシテ第一區第二區及西港ニ著發スルコトヲ得ズ

第七十二條　火藥、彈丸其ノ他火工品等ヲ運搬スル船舶ハ港務部長ノ承認ヲ得ルニ非ザレバ火藥庫ヲ距ル二百三十七米以内ニ接近スルコトヲ得ズ

第七十三條　第一區ニ於テ爆發物其ノ他ノ危險物ノ積卸シ又ハ繋留ヲ爲サントスル艦船ハ要港部司令官ノ許可ヲ受クベシ

第七十四條　第三條ノ規定ニ依リ入港ヲ許可セラレタル船舶及船舟ニシテ入港出願ノ事由ト爆發物其ノ他危險物ノ種類ニ在ルトキハ前三條ノ許可及承認ヲ得ルヲ要セズ

第七十五條　艦船入渠ニ際シ其ノ搭載スル爆發物及危險物ヲ別ニ定ムル艦船入渠竝ニ接岸繋留ニ關シ規定スル處ニ依リ處理スベシ

第七十六條　第一區ニ於テハ特ニ要港部司令官ノ指令アル場合ヲ除クノ外礮砲、彈藥又ハ銃發ヲ爲スコトヲ得ズ

第七十七條　海軍所屬艦船ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ港外三浬ノ地ヨリ檢疫信號ヲ揭ゲ港口第三區ニ假泊繋通ヲ許可ヲ受ケ又ハ要港部司令官ノ指示ヲ待ツベシ

一　現ニ「コレラ」、痘瘡、「ペスト」等ノ患者若ハ死者アルトキ

二　前號ノ患者若ハ死者アリタルモノニシテ消毒ヲ了セザルモノ

所ニ從ヒ水器若ハ爆發物ノ發射、發火ヲ爲スコトヲ得但シ要港部司令官ハ必要ニ應ジ之ヲ停止又ハ制限スルコトアルベシ

一　第一區第二區及西港ノ水面

二　第一區第二區及西港ノ沿岸ニシテ水面（滿潮面）ヲ距ル百三十七米以内ノ陸地

三　海軍用地及之ヲ距ル百三十七米以内ノ陸地及水面

四　火藥庫、油槽及油庫ヲ距ル二百三十七米以内ノ陸地及水面

五　附ニ禁制ノ揭示アル場所

第七十八條　前條各號ノ區域ヲ除キタル旅順港灣域内及繫兵場ニ於テハ教育訓練、演習若ハ實驗ノ目的ヲ以テスルモノニ限リ銃砲、水雷其ノ他爆發物ノ發射、發火ヲ爲スコトヲ得但シ豫メ要港部司令官ニ屆出デ且他ニ危害ヲ及ボサザル樣充分注意スベシ

海軍所屬艦船ノ錨射彈射擊及雷施發火ハ第二區及西港ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得

第八章　衛生及檢疫ニ關スル事項

第七十九條　本細則ニ於テ傳染病ト稱スルハ「コレラ」、赤痢（疫痢ヲ含ム）、腸チブス、「パラチブス」、「發疹チブス」、「猩紅熱」、「デフテリヤ」、流行性腦脊髓膜炎及「ペスト」ヲ謂フ

前項ニ揭グルモノノ外本章ノ適用ヲ必要トスル傳染病アルトキハ要港部司令官之ヲ指定ス

第八十條　本細則ニ於テハ傳染病ノ疑似症及傳染病ノ病原體保有者ハ之ヲ傳染病患者ト看做ス

第八十一條　入港スル海軍所屬艦船ニシテ現ニ傳染病患者若ハ死者アルトキハ入港前成ルベク速ニ其ノ狀況ヲ要港部司令官ニ報告スベシ

第八十二條　入港スル海軍所屬艦船ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ港外三浬ノ地ヨリ檢疫信號ヲ揭ゲ港口第三區ニ假泊繋通ヲ許可ヲ受ケ又ハ要港部司令官ノ指示ヲ待ツベシ

一　現ニ「コレラ」、痘瘡、「ペスト」等ノ患者若ハ死者アルトキ

二　前號ノ患者若ハ死者アリタルモノニシテ消毒ヲ了セザルモノ

官報　第一八九四號　昭和八年四月二十六日　水曜日

第八十九條　旅順港水域ニ流入スル河川溝渠等ニ傳染病者ノ排泄物其ノ他病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ヲ投入スルコトヲ禁ズ　ベキ一切ノ物件ヲ投入スルコトヲ禁ズ

第九十條　海軍所屬以外ノ艦船第一區第二區ニ於テ急病者アルトキハ速ニ之ヲ港務部ニ屆出ヅベシ

第九十一條　旅順港水域ニ於テ急病者又ハ變死者アルトキハ左ノ各號ニ據ルベシ

一　海軍所屬艦船ニ在リテハ直ニ其ノ實況ヲ要港部司令官ニ報告スルコト

二　前號以外ノ船舶ニ在リテハ直ニ其ノ實況ヲ警察署ニ屆出ヅルト共ニ港務部ニ通報スルコト

第九十二條　旅順港擬港內ニ在ル海軍官衙部隊等ハ檢ジ得ル限リ本章ノ規定ニ準據スベシ

第九十三條　旅順港規則第二十三條ノ規定ニ依リ旅順港擬港域內衞生ノコトニ關シ關東長官ト協議ヲ受クベキ主ナル事項左ノ如シ

一　防疫ニ關スル事項

二　病院傳染病院等ノ新設存廢ニ關スル事項

三　水道下水溝渠公共圖園及井溜ノ新設改修存廢ニ關スル事項

四　魚市場屠獸場家畜營業及葬場墓地火葬場ノ新設存廢ニ關スル事項

五　各種興業場遊覽公園ノ新設存廢ニ關スル事項

六　各種工業場ニシテ旅順港擬港域內ノ河川及ボスペキモノノ新設存廢ニ關スル事項ヲ使用スルモノ竝ニ衞生上ニ關係ヲ

七　前諸號ノ外一般公衆衞生ニ關スル事項

第九章　雜則

第九十四條　海軍所屬艦船其ノ他各部ニ於テ難役船ヲ要スルトキハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依リ港務部ニ請求スベシ

第九十五條　海軍所屬艦船其ノ他各部ニ於テ清水ヲ要スルトキハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依リ港務部ニ請求スベシ

前項以外ノ船舶ノ清水請求ニ付テハ關東長官ノ定ムル所ニ依ル

第九十六條　第二區以內ニ於ケル通船ノ營業及其ノ傭人等ニ關シテハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依ルベシ

第九十七條　海軍所屬艦船ノ委棄物ヲ竊取シタル者ハ直ニ其ノ委棄物ヲ前項ノ解舟ニハ標識トシテ左記號標ヲ掲ゲシム

（號標）
白赤地ニ（繊維製圓形直徑約四十五糎）黑文字

（旗標）
黑地ニ白文字　同　右

（號標）
白地ニ黑文字　同　右

艦船ニ在リテハ豫メ委棄物ヲ準備シ且艦員ノ手ニテ速ニ發見行ヒ該船ヲシテ永久停留セシメザルコトニ注意ヲ要ス

海軍所屬以外ノ船舶ノ委棄物ノ竊取ニ付テハ關東長官ノ定ムル所ニ依ル

（別冊省略）

◉後備役編入　本月一日豫備役陸軍將校同相當官ノ後備役ト爲リタル者左ノ如シ（陸軍省）

陸軍歩兵少佐	杉江　猛	同	曾根　庄平
同	小川　迪	同	市川　忠作
同	福井　俊郎	同	松本　弘
同	小戸川寅吉郎	同	大我口久男
同	齋藤　豐重	同	能登龍太郎
同	和田　眞一	同	軍地　政明
同	榎原　操吉	陸軍歩兵少尉	工藤　四郎
同	田畑　猛	同	小林　猛臣
陸軍砲兵少尉	宇野　福泰	同	河內　道行
同	國澤　舜二	同	白戸　弘
同	龜山　勝利	同	山田爲大郎
同	菊地　久治	同	黑川初江郎
同	藤田　信二	同	織田　吉吉
同	小川　又治	同	渡邊　峯次
同	鈴內　克雄	同	吉野平一郎
同	小梅喜代治	同	中野　義夫
陸軍工兵少尉	富本　鐵夫	同	中本　朝男
同	大屋　滿治	同	佐々木角治郎
陸軍糧重兵少尉	今北泰一郎	同	鹽田　吉雄
同	奥寺　藤平	同	池田　醇雄
陸軍三等主計	高橋德兵衞	同	東　祐治
同	平岡　保	同	村山　安藏
同	杉野　幸七	陸軍三等獸醫	三影　彦治
同	前田　稔	陸軍三等獸醫	海野　昇
同	長岡　英夫	陸軍三等獸醫	本多　航三
同	畦地　輝雄	同	久光　工藤
同	柿本　勝	同	吉造

◉退役編入　本月一日後備役陸軍將校同相當官ノ退役ト爲リタル者左ノ如シ（陸軍省）

陸軍歩兵中佐	伊藤徹太郎	同	秋本　敏夫
陸軍歩兵中尉	轟田　大乘	同	伊藤清一郎
同	中川　勇吉	同	井上　文夫
陸軍歩兵少尉	山見　亮現	同	岩永　清憲
同	辻　喜三太	同	中村　徹
同	五十嵐正藏	同	永田　昌隆
同	吉川　齋	同	野崎　太郎
同	星澤　德松	同	濱田　一男

三　「コレラ」、「ペスト」等ノ患者若ハ死者アリタルモノハ消毒ヲ了リタル時ヨリ起算シ「コレラ」ハ五日間、「ペスト」ハ十日間ヲ經過セザルモノ

四　「コレラ」、「痘瘡」、「ペスト」等ノ流行地ヲ發シ若ハ經由シ又ハ同病毒ニ汚染シタル他ノ艦船ト交通シタルモノニシテ消毒ヲ了ラザルモノ

檢疫信號ハ晝間ハ萬國船舶信號Q旗ヲ掲ゲ夜間ハ紅白二燈ヲ連揭スルモノトス

第八十三條　入港シタル海軍所屬艦船ハ直ニ其ノ衞生狀況ヲ要港部司令官ニ報告スベシ但シ出港後七日以內ニ再ビ入港シ衞生ノ狀態ニ異狀ナキモノハ此ノ限ニ在ラズ

第八十四條　在港スル海軍所屬艦船ニ傳染病ヲ發生シタルトキハ直ニ其ノ實況ヲ要港部司令官ニ報告スベシ

第八十五條　在港スル海軍所屬艦船ニ「コレラ」、「痘瘡」、「ペスト」等ノ傳染病ヲ發生シタルトキハ直ニ交通ヲ遮斷シ檢疫信號ヲ掲ゲ要港部司令官ノ指示ヲ待ツベシ

要港部司令官ハ前項以外ノ傳染病ト雖モ狀況ニ依リ交通ヲ遮斷セシメ若ハ錨地ヲ變更セシムルコトアルベシ此ノ場合ニ於テハ當該艦船ハ檢疫信號ヲ揭揚スルモノトス

第八十六條　消毒竝ニ隔離中ノ艦船ハ檢疫信號ヲ揭揚スベシ但シ信號ヲ揭グルコトヲ得ザルモノハ標札其ノ他ノ方法ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八十七條　檢疫信號ヲ揭グル艦船ノ乘員要港部司令官ノ命令若ハ許可ヲ得テ要港部其ノ他ニ至ルトキハ其ノ乘用スル船艇ニ同信號ヲ揭グ且ツ船艇員ノ他ノ艦船及陸上トノ交通ヲ禁止スベシ

第八十八條　旅順港水域ニ在ル海軍所屬以外ノ船舶ニ傳染病竝ニ之ト類似ノ急者若ハ死亡者アルトキハ其ノ關係者ハ勿論之ヲ目擊又ハ聞知シタル者ハ直ニ要港部憲兵若ハ警察官吏ニ通知スベシ

要港部ニ於テ必要ト認ムル場合ニハ軍醫科士官ヲ派遣シ之ヲ臨檢セシメ又其ノ船舶ノ消毒方法等ニ關シ警察官吏若ハ檢疫關係吏員ト協議セシムルコトアルベシ

陸軍砲兵大尉	三上熊太郎	陸軍砲兵中尉	岡本　勉
陸軍砲兵少尉	寺西　桑丸	同	森　正夫
陸軍工兵少尉	武田　信基	陸軍糧重兵少尉	合田　肇
同	龍登健太郎	同	奥谷　喜作
同	林　源太郎	同	田村　彦一
陸軍三等主計	綱島　寅治	同	澤田清太郎
陸軍二等軍醫	鈴木　修一	陸軍三等軍醫	犬塚友太郎
同	明石　勝蹕	陸軍三等軍醫	深石平之助
陸軍二等獸醫	蜂谷　耕造	陸軍三等獸醫	木村辨三郎
同	德光鎭々也		

○學事

◉學位授與　北海道帝國大學ニ於テ本月二十日岡山縣川島淳ニ醫學博士ノ學位ヲ授與セリ（文部省）

◉學士試驗合格者　九州帝國大學醫學部、工學部、農學部及法文學部學生中去月三十一日學士試驗ニ合格セシ者ノ氏名左ノ如シ（文部省）

醫學部（氏名八人）

醫學科

石田　一	俯	石神　敏夫	
伊藤　良二	今井順二郎	岩城　清	
橋本美智雄	篠谷榮次郎	原田　博雄	
西川　修	花田　正長	西村　哲三	
本田　正道	細井嘉一郎	西田　福治	
友定　忠亮	友田　滋登	細山田　肇	
端身	陳　維一郎	東野　致明	
長末　伯男	小田　通夫	張　進通	
小野寺精喜	小川　三郎	大串　英夫	
大野　鐵雄	若松　齊	若江　勝也	
香川　朔男	加藤　英一	加藤　秀二	
神谷　達生	甲斐　將明	戒田澄之助	
田龍　良雄	吉川　京憲	米田　正治	
竹下　勝實	高田　芳雄	高山　貞一	
谷岡　寛	田尻　元亮	辻川　廣一	
中島　正男	中島　恒雄	中村　赳	
中村　武男	中原　忠	長門　莫	
永山　德郎	村上　忠美	向田　民夫	

宇木　末雄		宇野　二男	
海野　武夫		倉八　研一	
久場　長章		山內　秀樹	
山根　圭二		矢野　良一	
松村　榮雄		松浦　清	
藤代善次郎		秋田　重義	
安部　敬見		齋藤　孝俊	
齋藤　章		齋藤　辰巳	
木村末次雄		佐橋　良雄	
城戶　豪人		城戶　勇	
北浦　寬亮		北島　佐平	
光安　萬夫		水野　千章	
平田　覺		舌間慶太郎	
瀨尾　明治		久野　友則	
杉野理之輔		森澤慶二郎	
鈴木　榮藏		住吉　勳	

工學部（氏名五人）

土木工學科

有田　尙敏		井內　万治	
岡積　滿		川口　克久	
四十万小商		竹田　秀實	
中森　榮		中島　利彥	
東村　一朗		平田　茂憲	
藤川　新		矢內　保夫	

機械工學科

池田　毅		岩永　光次	
大澤　將亮		清田　良雄	
杉江　重正		谷　不可止	
田島　正顯		中屋　毅	
野田　腊二		鵜島喜久雄	
長嶺　幸三			

電氣工學科

赤坂彌之助		麻田　知德	
木村　德治		木下　秀義	
高田　忠一		高野　泰秋	
長竹　信行		西村　博	
平山　泰		平田　健	
宮地　貞和		鵜島　台六	
森永　森男		渡邊　褒	
岡部戀比古			

應用化學科

岩崎　行信		高島　良一	
西山　弘一		原田　巽	
八塚　義晴		和田　勉	

大石　國義		採鑛學科	
國弘　二郎		笠　貞雄	
佐野　岩雄		佐藤　桂助	
重盛　五六		柴尾友次郎	
田島　一郎		龍雄	
野口　豐		田邊　守彥	
冶金學科		村田　一常	
內野　正一			
荻原　一誠		植木　久	
森口　敏雄		金田　豪夫	
高山　武夫		里井孝三郎	
平井　挺治		宮川　本夫	

造船學科

加藤　啓		鄕農　孝之	
高橋　正德		野村　親雄	
鷲尾　經彥		諸澤　武夫	

農學部（氏名十人）

農藝化學科

井上　定一		橋本平九郎	
東鄕　義直		近田　正夫	
大久保政則		敬雄	
高松倉次郎		田中　常雄	
中田　正一		上田　義靖	
安田　浩		安松　京三	
松田　讓一		鬮田　健	
寺崎　勳		芥川鉦三郎	
木下　澄男		宮里　達夫	
柴田　道生		平原　壽太	

農藝化學科

市川　春二		西川　良一	
太田清之助		王丸　周夫	
横田　米吉		吉村　親夫	
副島　光彥		堤　孝一	
中村　武彥		內山　利滿	
山內　弘毅		山崎　芳夫	
鬮田　俊治		鬮嶋　正男	
江本　哲雄		秋本　貞雄	
澤田　邦雄		水之江敏之	
軍松　忍		古澤丈太郎	

林學科

足立　浩		甲斐　重憲	
池元龍之助		久保山　功	
市原　章藏		古澤丈太郎	
延壽寺米稱		森高　公人	

法文學部（氏名五人）

法學士

新垣　進		間　端夫	
荒堀　清弘		犬塚　辰介	
伊谷　信雄		伊與田宣二	
石川政太郎		今村　寬	
岩井　昌一		糸井　隆一	
上村　幸雄		江口　保身	
太田　一雄		大田　吾朗	
岡　比呂志		岡　素夫	
尾江　襄二		尾形　哲吉	
鹿島　健治		片山　勳	
上村洋平太		片山　孝	
喜多　正吾		木村　榮	
桐山　豪三		北島　友喜	
宮本　重行		小森　春雄	
舌間慶太郎		坂本邦麻呂	
久野　友則		齋藤　隼一	
森久　卓郎		澁谷忠太郎	
末光　俊平		採　必亨	
上田　義人		秋本　敏夫	
野間元繁人		伊藤清一郎	
倉八　研一		井上　文夫	
山內　秀樹		今村　寬	
矢野　良一		岩永　清憲	
安中　善哉		中村　徹	
松浦　清		永田　昌隆	
秋田　重義		野崎　太郎	
荒川　泰胤		濱田　一男	
齋藤　辰巳		平井　堯	
齋藤　孝俊		藤井　堯	
佐橋　良雄		片山　幸	
城戶　勇人		木村　榮	
北島　佐平		北島　友喜	
水野　千章		小森　春雄	
舌間慶太郎		坂本邦麻呂	
久野　友則		齋藤　隼一	
森久　卓郎		澁谷忠太郎	
末光　俊平		採　必亨	

官報　1894　昭和八年四月二十六日　水曜日

加治木卓郎　加宅出重敏　川合　桂一
上村　孝二　柳水　一雄　西原　龜三
篠出　時世　下川　士道　首藤　重造
高田　陸雄　高宮正二郎　高橋　宏
谷口　織雄　只木　德幸　豐澤　登
中村　節一　永松　脩直　永倉　寛
内藤　明　西本　壯吉　西嶋　寛
西田　琢磨　橋本　俊彦　林　義盛
花田　秀雄　波多　信道　藤井　義
船越　巧　山川　康人　横田　國男
和田　計藏

經濟學士
有田　佳德　井上　三輔　岩永　富一
入江　龜雄　上村清太郎　大塚　令修
加藤　忠男　川村　甫　川邊　正巳
近藤　利友　酒井　忠吉　邵　毓麟
堀　丑三郎　瀧澤　武夫　田中　鐵舟
須川　勝造　辻村　義正　中川　公
宅野　閏二　中野　豐　中村　金治
平岡窯太郎　藤山　繁雄　松井　惠
町田　四郎　三浦鳥之助　村上　榮
山本　諦生

◎卒業証書等授與　東京女子高等師範學校及第六臨時教員養成所ニ於テ去月二十五日卒業又ハ修了證書ヲ授與セシ者ノ氏名左ノ如シ（文部省）

◎東京女子高等師範學校

文科卒業者

安藤　タヘ　雨宮あか子　荒木　瀧子
石原美知子　今堀　恭子　内野　道子
大森　芳子　萬城　久子　川邊　トシ
木元　香　近藤　君子　後藤　シゲ
田内　文子　高木　玉枝　竹尾　正子
魚川　キヨ　鍋島　正子　西尾　壽美
平岩　鈴子　藤田　孝子　三村　ぬひ
村田　照子　森田　澄子　大和　フジエ
横山　綿引　富美

理科卒業者

淺野喜美枝　朝倉　エミ　稻倉　房子
内田　いく　大西美喜子　大森　種子

奥村　ミサ　蒲池野百合　木村　都
倉田　君惠　小島　光子　齋藤　初江
多田　正子　多羅尾初音　小島　文子
中西不美子　長谷　俊枝　藤尾　節子
廣本ユキ子　深津美代子　町田　春子
本多　英　益岡　敏子　吉村　文子
三坂高麗子　大和　敏子　内田　勝代
家事科卒業者　岡村　ちや子　川口　貞子
五十嵐マキ　板橋　文代　佐藤　文子
小田みね子　大江富美子　横内ふさ子
香川千鶴子　海部智加惠　藤尾　節子
河井田惠子　小山富美子　町田　春子
澤村日出子　塚本　ほみ　吉村　文子
齋藤　初江　藤井　澪
鈴木とみえ　毛利　道子
藤　登貴和　森　齋子
前川　澪　横内ふさ子
山下　綾子　吉田　幸子
山邊　銳　渡邊　敏子
吉田　幸子　花岡美喜子
研究科修了者
萩原　きよ
選科卒業者
金三　純　張　愛希
保育實習科卒業者
翠屋　正子　井上　道子
池田八千代　梅田早百合
酒井　順子　杉山　よね
田中美枝子　武司　綾子
奈良　アキ　中澤　千鶴
成田久美子　延本　改子
宮川喜代子　坂東　能布
古都　良榮　渡邊スミ子
附屬高等女學校
專攻科卒業者
國語部
市來崎幸子　佐藤　尚
趙　淑鎬　中村八重子
西川八重子　西堀　富美
柳田　千枝　山崎　明子
家事部
磯田　幸子　市原富美子
伊藤　文子　岡澤　榮子
佐々木操子　佐藤　靜子
島倉　敏子　竹内　潤子
鳥海　京　西田　菊江

坂東　きぬ　日比野幸代　平柳　靜子
古川　俊子　守田　貞　本科卒業者
青山　文子　赤岩　キミ　朝倉　滿子
油谷惠美子　荒井　志保　荒川　澄
有馬　房子　池田　照　坂井　園
伊藤　淑　井上智江子　入江美代子
岩崎喜代子　大瀧　律　大村富士子
大村富士子　香川千鶴子　岡井　歌子
小田島愛子　片山　ちづ　小野　三江
小幡　ゑづ　柄澤　即女　片山　道子
鹿野　悅子　菊地譯惠子　漢那　幸子
岸田　文子　紀平　碧　岸田　澄江
木村　典　木村はす子　木村　壽
清浦悠紀子　桐越千代子　河野カツ
黒瑚實枝子　桑原　千枝　見矢野房子
小坂惠美子　小林　よし　作間　たみ
坂井美惠子　坂田　京子　佐藤　君代
佐々木美都子　佐々木貞子　澁澤　照子
篠崎　禮子　塩路　多江　杉浦　操
杉浦　うた　杉内　サイ　武内　房子
大洞多喜子　竹内　敏子　立澤　せつ
竹村　敏子　多田久仁代　田中　貞
田中　貞子　田中　喜原　辻　千枝
長　澄子　中村　須磨　中村　千代
中村多壽子　成川みのる　西脇　千代
野口惠以子　長谷川節子　花岡　敏美
濱田　美枝　平井　幸　ヒロ
藤澤　敬子　藤田　榮子　古川　節
細賀譯美枝　松谷巳村子　堀内　元子
本間　詩々　矢幅神谷子　宮田　たま
村上　慶子　若月智惠子　横田　ケイ
吉田　てる

◎第六臨時教員養成所

理科卒業者

飯塚日出子　伊藤　靜江　雨宮止女子
上田　君代　神谷　綾子　入澤　澄
川村　ウメ　佐伯富美子　川又千枝子
白川ヨシキ　谷野八重子　澤田　信
古垣　幸枝　望谷　文　戸根木恭子
最上瑤代　矢崎　榮　渡邊　いし
太島　惠代

池田　三雄　二宮　清　二條　恭基
市川勝太郎　池田　宗　大石　儀平　渡邊　富
岩間　桃枝　大橋ミツエ　井上　苞枝
岡安　光子　小林　芳　大桃　シヅ
佐々木きよ　佐々木　順　後藤　チエ
眞見　三江　杉下　とみ　佐渡ひさえ
名和　和賀　永松　泰子　高山八重子
村木　キミ　古谷ミサオ

◎入學許可　鹿兒島高等農林學校、廣島、濱松兩高等工業學校、京城帝國大學法文學部及同醫學部ニ於テ本月ヨリ、京城法學專門學校ニ於テ本月一日、京城高等工業學校ニ於テ去月ヨリ孰モ入學ヲ許可セル者ノ氏名左ノ如シ（文部省、朝鮮總督府）

◎鹿兒島高等農林學校（氏名イロハ順）

農學科

石原　幸士　堀池　三郎　渡邊　敏夫
橋口　一男　堀岡　敬　渡本　直
高市　格　門松　信之　中田　幸夫
村上　巽　中田　秀雄　山下　泉
前田　宗倫　福田　秀昭
後藤　善憲　荒川　勇吉
佐藤　信夫　三輪　尚　東　勇吉
肥後　榮　毛利　茂　森岡　道正
岩元　曉　今村　芳雄　原口　虎雄
西　正俊　中馬　稔　小田武比古

歷史地理科

荒木　よね　井上　苞枝
大橋ミツエ　大桃　シヅ
小林　芳　後藤　チエ
佐々木　順　佐渡ひさえ
杉下　とみ　高山八重子
永松　泰子　古谷ミサオ

大山　泰男　脇坂　榮喜　稻岡瑛二郎　河内　四作　河村　清
太原　繁雄　川崎　末人　甲斐　尋士　吉利　用英　久野　寛　後藤　俊平　坂本　三郎
田中　正己　顧壽　種子田三朗　先原　强介　後藤　俊平　清水　宗敏
野中　敬吾　成松　勳　永山　雅弘　末本　一夫　坂本三郎　武市　源衛
山本　二郎　楢木　秋　上山　雅弘　牧元　志信　世良　健　佐古田光雄　武井　隆志
古市　實美　町田　稔　宮山平八郎　宮山喜三郎　豊原　萬夫　田中大四郎　寺田　正一　中西　陸一
森　清光　宮田　一郎　宮田　一郎　長町　芳次　中島　友圓　堀川　正
農藝化學科　宮川　守雄　村上　榮藏　村上　英利
岡村富美夫　河邊　龍　師井美喜雄　矢吹　四郎　山本　茂　八木　英利
久德　向高　正剛　應用化學科　獸醫學科
毎田　正義　前田　靜德　醫學科　藥學科　足立　博　江崎　武　岡田高三郎
香野　晶　佐多　祥一　藥師神琢磨　龜永　良一　亀田　証　岸本　敏一　城戸　高次
宮吉　秀雄　右田　則吉　酒勾　正雄　木村　猛　小西右馬太　熊本　群司
久留　靖志　角　正晴
●廣島高等工業學校（氏名五十音順）　無試驗檢定　機械工學科　河村　政男　佐藤　照俊　信田　知巳　芳賀　善明　電氣工學科　氏原　俊男　功野　國基　進藤　三夫　樋口　廣人　應用化學科　田中　榮人　林　達介　吉永　高庸　前田　隆三　醸造學科　柏木靖一郎　江頭　松次　試驗檢定　機械工學科　石井　通夫　石田　滿夫　井上　彰　石賀勝三郎　石風　武人　小川　進司　奥田　正敏　本宮　巧　勝　古賀　昌平　城市　儉二　河村　一雄　村尾　勝　三谷　善造　滿盛　鉄次　早稻田光光　由佐　電氣工學科　高橋　義夫　中川　昇　高島五郎德成　青木　恭資　淺枝　敏夫　今田　正雄　中野　忠　中川　和良　小坂田停　西上　利德　西戸　正義　渡邊　卓男　樋口　和夫　平尾　餘一　原　軍治　藤本　博　藤原　成一　細川　三人　堀　武安　村尾　勝

◎京城帝國大學法文學部（氏名五十音順）　法學科　相田　信男　池田輝太郎　我孫子正直　今角　照明　氏家　義次　大道源三郎　小田村利正　小野　雅敏　笠森　陸　木崎九十郎　梁　熹根　琴　榮祐　金　永年　金　舜永　金昇鎭　金　正浩　洪　永均　洪　鷺　坂越　勝秀　坂本敏英　末永力二郎　曾田　忠　田中　修三　高尾　良一　矢部　道雄　麵田　章　山村　卯助　山下健二郎

◎京城帝國大學法文學部（氏名五十音順）　機械學科　遠藤　與雄　天野　良雄　池田　正　市川　史郎　稻葉　清　石橋　清　糸井　淑郎　岩月　秋雄　神谷　義雄　加藤　稔雄　川上　克美　河村　悌　川村常次郎　小池　綾男　小塚　安雄　松村　辰男　松浦伊喜三　宮本　藤孝　村上　謹　永野　正四　村瀬　泰彌　吉川　恒夫　長谷川美源　誠　西山　正三

磯見　強　奥野　彰幸　佐藤吉太郎　澤田　義助　新穗　八郎　中島　謙郎　馬場　治良　堀　源明　三輪　萬治

野村　治郎　野村　正弘　小倉　一夫　小野　安正　小澤　武市　阪本　正　佐野　正弘　佐藤　稔　高橋　健兒　筒道　尚道　和田　鍵吉　植田　垚　電氣學科　淺川　鐵夫　榎本敬一郎　春日　透　石川　博一　菅野　幸生　三宅　三郎　河合　廣　森山　晉　加藤　定芳　松井　作德　擔尾　孝　中井　潔　古川　節　中野　博　西田　亮三　野村　茂男　尾畑　喜行　大窪　進　岡田　保　大熊忠次郎　小澤　乾治　七條　瑞正　志田　寅一　田川　英夫　高木　賢二　竹村　弘　玉置　進勇　山田　晴見　山本　壯司　應用化學科　淺野　博　平岡　齊雄　細井　初男　掘原　武侯　加藤　光夫　齋　加賀彦三　神山　彌作　小島　義正　前野　政德　倉橋　一良　日下部國雄　武藤　武　中村　宏　西川　信司　岡田　正通　佐野　雷夫　岡田　鈴木　健一　鈴木　音　會我　欣二　高木　克己　高林　健治　竹内　順三　高野　元德　竹原　弘　辻　滿　田中　修三　麵田　章　矢部　道雄　山村　卯助　山崎　信夫　山下健二郎

服部　敏夫　浅野　四郎　坪井　幸生　趙　炳喆
市谷　源衛　五鳴才五郎　中村勝太郎　中田　二郎
杉山　宏　金田三喜男　関　復基　中村　正三
田中　道雄　加藤　定芳　淵上　智　朴　晩元
植田　垚　中島　友圓　松村　英夫　楊　正秀
寺田　正一　南　彰　李　根七
豊原　萬夫　中村　泰二　李　種喆
長町　芳次　宮朝　守雄　李　炳璿　林　漢璟
宮川　守雄　村上　榮藏　林　奎孫
村上　榮藏　師井美喜雄
矢吹　四郎　山本　茂
應用化學科　藥學科　生沼　豊　金木　主一
江崎　武　金田三喜男　崔　敎鉉　西本　順
足立　博　岸本　敏一　加藤　定芳　具木　明
亀田　証　小西右馬太　井上　融　平間　武弘
木村　猛　久保　正文　山路　時雄　李仁　榮
後藤　善憲　小西右馬太　李　鍾達
渋谷　秋一　佐川林兵衛　阿部　澄一　安　鎬烈
高木　彰　高取　千秋　岩本　實　井上　勝
田代　昇　富畑　琢隆　具　滋洵　木下　茂
中林　弘　長澤　孝基　崔　星熙　金　亨奎
西谷　國雄　橘本　藏司　申　源雨　佐藤　信夫
藤井　良夫　高橋龍四郎　全　昌龍　田中　正美
宮川　誠二　平山　敏夫　孫　洛範　三宅　施忠
山岡　香苗　松木守一郎　郷　亨容　李　永脩　井上　健介
湯澤　澄　李　元榮
李　幸浩　林　學洙

哲學科　田所光一郎　史學科　中井　英雄　文學科　稻田　榮夫　田中　初夫　李　鍾達
金教　英　國文學科　高周　爽　古賀　重久　吳世　憲　蔡　大植　重信　雄吉
金敬　植　許　長遠　川口　清人　笠井　久雄　上田　博美　石川　一郎
金　教英　川村常次郎　小池　綾男　小塚　安雄　松村　辰男　松浦伊喜三　宮本　藤孝　村上　謹　永野　正四　村瀬　泰彌　吉川　恒夫　長谷川美源　誠　西山　正三

許可 1894 4 5

武　肆郎　武太豊一郎
田邊信靖　張慈鎭　太宰白一郎
鄭振亮　鄭炳郁　趙重參
德榮　內藤信一　土井佑
中村萬吉　沼澤保　中村哲
秦鎭三　原田一詩　長谷川武敏
肱岡榮吉　弘岡正　花田完五
藤野傳　朴鶴錫　藤岡良平
待井精一　村田三千德　前川英雄　本多大輔
李濟九　李約伯　山本晃朝　陸完國
李敦熙　李芳曾根亨　李明熙

◎朝鮮總督府京城法學專門學校（氏名之部參照）

辛基成　末原昇　成東準　趙誠鎔
南宮燁　古閑正一　宋永撰　金繩縣
喜多清　裴燦國　李正來　金嵩停
李基亨　黃鎬萬　金容稙　朴昇準　柳德湘
高年勳　太完善　蔣仁燮　李圭衡
迎達郎　郭義榮　李裕榮　梁應華
趙琪淳　崔秉合　小河大吉　金柄奎
李裕錫　崔基榮　靑龍　金鍾極　桐木重雄
徐重錫　田陽秀　李元衡　羅祥河
金貞基　李祥悳　梁興錫
砂金二郎　崔昌運　安文慶　金潤洙
橫田司朗　柳時根　加賀明治
朴慶在　權五翕　韓成澤
申孝善　秦柄武　金達起
佐々照政　金亨鎭

貸付圖書冊數

	和漢書	洋書	合計	百分比例
第一門　神書宗教	館內	館內		
第二門　哲學、教育	館外	館外		
第三門　文學、語學				

第四門　歷史、傳記、地誌、紀行	一八一	一一二	一一三	一一三八
第五門　國家、法律、社會、經濟、統計	五七	二四九	四	二六三
第六門　數學、理學、醫學	六六	三〇二	一	三二〇
第七門　工學、兵事、藝術、農業	八七	一七九九九	一四一〇九	一九二
第八門　類書、叢書、辭典、雜書	一三	四一八	八	一〇六
合計	七三八	四、四五五	一四一八	一〇〇〇
一日平均	二四・六	一四・八	一・〇	一〇〇・〇
前年同月比較增減	四七	一〇三	一五	一〇三・〇
	△	△		△

◎朝鮮總督府京城高等工業學校（氏名之部參照）

紡織學科
大澤元二郎　西川德藏
臼井安義　市川彌彥　吉二
第一門　數學、理學、醫學　村島善一　長町寅義
第二門　物理學、化學　朴斗樾　李秉器
第三門　天文學、氣象學、地理學　小林一清　江藤三郎
第四門　歷史、傳記、地誌、紀行　應用化學科
第五門　國家、法律、社會、經濟、統計　李鎬憲　富田耕三
第六門　數學、理學、醫學　須藤忠夫　松岡憲一郎
第七門　工學、兵事、藝術、農業　千賀賀　柏野英興
第八門　類書、叢書、辭典、雜書　深見辰爾　泉谷敏
新井英一　土木學科
盧重茂　山田岩保
水谷政夫　藤田房雄　林正典
中西清雄　宮雄　姜球遠
奏宮雄　岡本大鏃矢守　杉尾鶴一
荻原精三　椎名實　江本樋衛
小杉建築學科　鳥井格
山下悟　南條軍太郎
柴田大三　高井秀茂
金一鎭　井川正　宮內良平
酒井利光　韓晳鼎　藤橋哲二郎
明石利人　藤島虎雄　宮脇正夫
鐵山學科　李文煥
兒玉秀男　崔基鉉　三矢正久
鄭準澤　谷鎭　田村民司
鄭弘秀　宋戶璣　末次均
張斗鎭

◎帝國圖書館月報　帝國圖書館ニ於ケル昭和八年三月中ノ情況左ノ如シ（文部省）

閉館日數三十日間ノ圖書閱覽人員　普通二万七千九百七十二人、特別一万三千八百八人、館外帶出者二百四十人、合計四万二千二十八人、一日平均千四百人強ナリ　又其貸付セシ圖書ノ種類及員數等左ノ如シ（以下略）

○產業

(一)全國平均

本月ニ於ケル十三都市卸賣物價指數（昭和四年十二月ノ平均價格ヲ一〇〇トシ單純算術平均ノ方法ニ依リ算出セルモノ）ハ總平均九五・四ニシテ之ヲ前月ノ九八・二ニ比較スレハ二分一厘ノ低落ヲ示シ前年同月ニ比較スレハ二割一分一厘ノ騰貴ニ當ル次ニ八大分類別ノ指數ヲ觀レハ其最モ高キハ金屬品ノ一一八・二ニシテ工業藥品ノ一一五・〇雜品ノ一一〇・二建築材料ノ九九・八肥料ノ九五・〇燃料ノ九一・〇食料品ノ八八・六順次之ニ次キ其最モ低キハ纖維品ノ八五・三ナリ然レトモ之ヲ各其前月ニ比較スレハ燃料ハ八厘、雜品ハ五厘、工業藥品ハ二厘ノ何レモ騰貴ヲ示シ纖維品ハ七分四厘、肥料ハ三分八厘、食料品ハ二分五厘、建築材料ハ一分一厘、金屬品ハ八厘ノ何レモ低落ヲ示セリ

尙ホ調査品目百品中前月指數ニ比シ騰貴セルモノ二十五品、低落セルモノ六十二品、保合ノモノ十一品ニシテ之ヲ八大分類別ニ觀レハ食料品二十六品中騰貴セルモノ三品、低落セルモノ二十四品、金屬品十一品中騰貴セルモノ四品、低落セルモノ六品、保合ノモノ一品、雜藥材料十品中騰貴セルモノ三品、低落セルモノ六品、保合ノモノ一品、工業藥品三品ハ全部騰貴シ肥料四品ハ全部低落シ燃料九品中騰貴セルモノ五品、低落セルモノ一品、保合ノモノ三品、雜品九品中騰貴セルモノ二品、低落セルモノ四品、保合ノモノ三品ナリ

(二)都市別

本月ニ於ケル卸賣物價指數ヲ十三都市別ニ觀レハ平均指數ノ最モ高キハ東京及大阪ノ各九九・四ニシテ橫濱、名古屋、橫濱及金澤ノ各九七・廣島ノ九六・神戶、名古屋、橫濱及新潟ノ各九四・仙臺ノ九五・四、同小賣物價指數ハ總平均九五・四、同小賣物價指數ハ昭和四年十二月十六日ノ價格ヲ一〇〇トシ單純算術平均ノ方法ニ依リ算出セルモノ）ハ總平均八七・三ニシテ卸賣物價ニ在リテハ前月ニ比シ三分ノ低落ヲ示セルモ前年同月ニ比スレハ二割一分一厘ノ騰貴ヲ示シ小賣物價ニ在リテハ前月ニ比シ一分八厘ノ低落ヲ示セルモ前年同月ニ比スレハ九分ノ騰貴ヲ示セリ

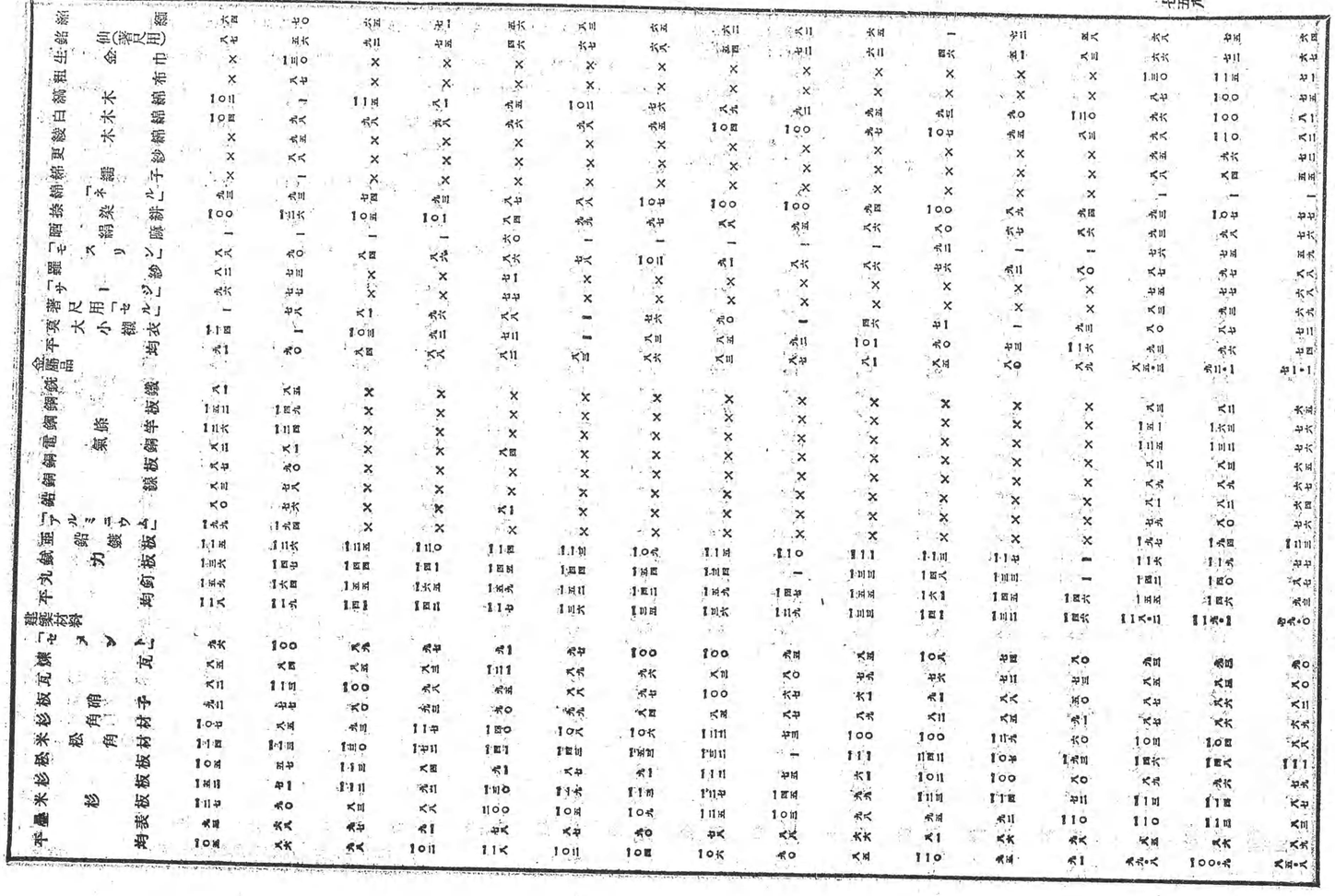
次ニ品目各個ニ付十三都市ノ平均價格ヲ前月ト比較スルニ最モ騰貴シタルモノハ生金巾ノ一割三分一厘ニシテ次ニ著シク騰貴シタルハ丸釘ノ五分八厘ニシテ更紗、味噌、板紙、煉瓦、硫酸、「コークス」、「アニリン」油、九州炭等モ五分乃至一分五厘ノ騰貴ヲ示シ之ニ反シテ低落ノ最モ著シキモノハ人造絹絲ノ三割一厘ニシテ次ニ著シク低落シタルハ紡績絹絲ノ一割七分六厘ニシテ毛絲、粗布、白木綿、綿「ネル」、富士絹「サージ」、「モスリン」、生絲等モ一割四分五厘乃至九分八厘ノ低落ヲ示シ同價ヲ保テルモノハ常磐炭、薪、製紙用「パルプ」、印刷料紙、牛革等ナリ

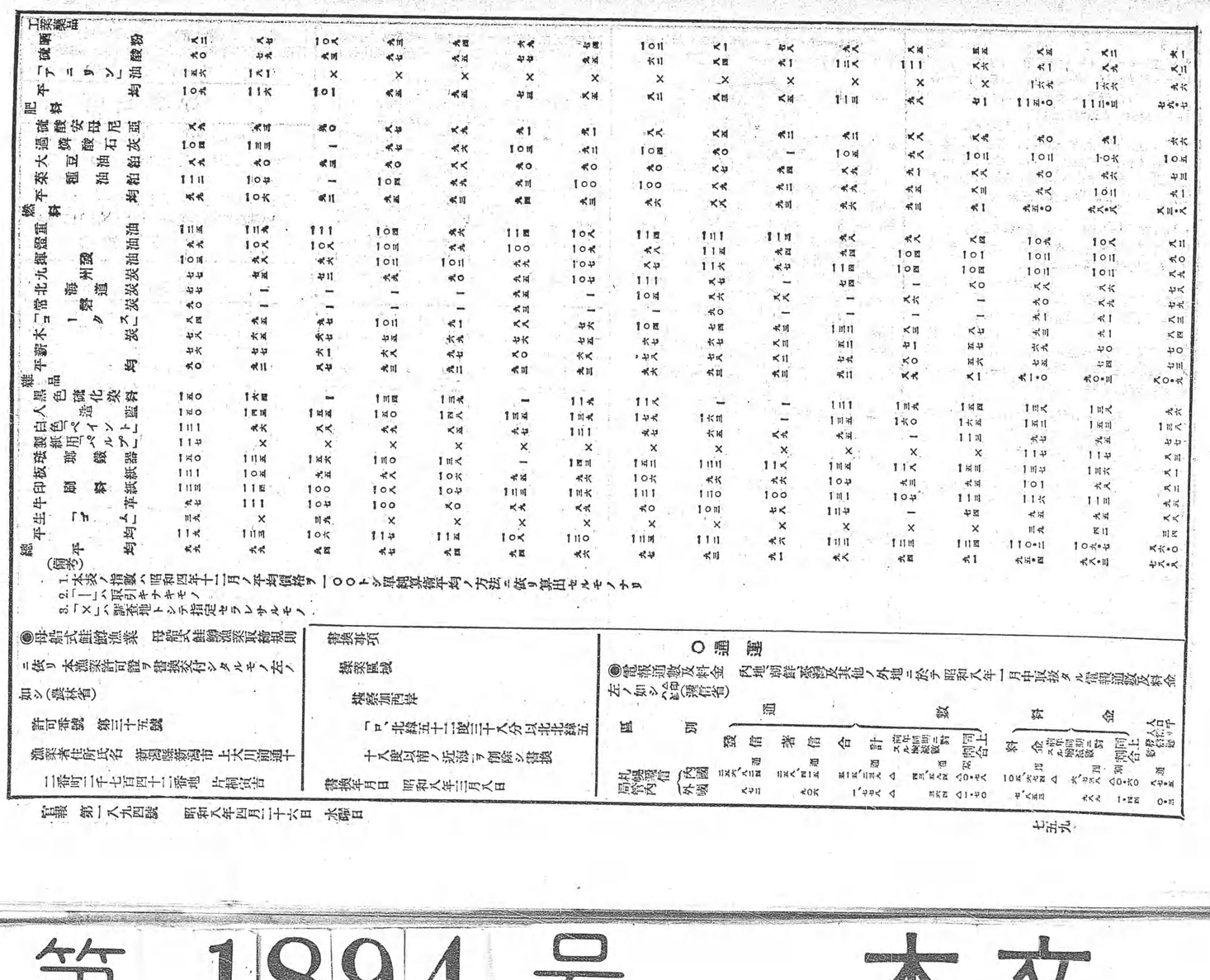
十三都市別御賣物價指數（昭和八年二月）

東京　大阪　神戶　京都　名古屋　橫濱　廣島　金澤　仙臺　小樽　岡山　新潟　高知　平均　前月平均　前年同月平均

食料品																
內地玄米（上）	七九	七九	七九	八〇	八〇	八〇	八〇	八一	七九	七九	七九	八〇	八〇	八〇	八〇	八一
同（中）	八〇	七九	七九	八〇	八〇	八〇	八〇	八一	七九	七九	七九	八〇	八〇	八〇	八〇	八一
同（下）	八〇	七九	七九	八〇	八〇	八〇	八〇	八一	七九	七九	七九	八〇	八〇	八〇	八〇	八一
關東白米	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
朝鮮玄米	八七	八七	八七	八七	八七	八七	八七	八七	八七	八七	八七	八七	八七	八七	八七	八七
臺灣玄米	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大麥	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九
小麥	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六
小麥粉	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一
大豆	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
小豆	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
蕎麥	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二
麥粉	八六	八六	八六	八六	八六	八六	八六	八六	八六	八六	八六	八六	八六	八六	八六	八六
內地牛肉	一一八	一一八	一一八	一一八	一一八	一一八	一一八	一一八	一一八	一一八	一一八	一一八	一一八	一一八	一一八	一一八
豚肉	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇
鷄肉	一一二	一一二	一一二	一一二	一一二	一一二	一一二	一一二	一一二	一一二	一一二	一一二	一一二	一一二	一一二	一一二
鹽鮭	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇
醬油	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六
味噌	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九
精製糖	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
分蜜糖	九三	八六	八七	九五	九五	九五	九五	九五	八七	八七	八七	九五	九〇	九〇	九〇	九〇
鹽鱒	八三	七七	七七	八三	八三	八三	八三	八三	七七	七七	七七	八三	八〇	八〇	八〇	八〇
清酒	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇
麥酒	八四	九七	九七	八四	八四	八四	八四	九一	九七	九七	九七	八四	八〇	八〇	八〇	八〇
茶	七二	七一	七一	七二	七二	七二	七二	七二	七一	七一	七一	七二	七一	七一	七一	七一
大豆油	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五
平均	八七	八八	八八	八七	八七	八七	八七	八七	八八	八八	八八	八七	八八	八八	八八	八八
纖維品																
米國綿花	八五	八八	八八	八五	八五	八五	八五	八五	八八	八八	八八	八五	八六	八六	八六	八六
支那綿花	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇
印度綿花	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
羊毛	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
生絲	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
紡績絲	七五	六九	六九	七五	七五	七五	七五	七五	六九	六九	六九	七五	七一	七一	七一	七一
人造絹絲	八四	九四	九四	八四	八四	八四	八四	八四	九四	九四	九四	八四	八四	八四	八四	八四
絹織	九二	八二	八二	九二	九二	九二	九二	九二	八二	八二	八二	九二	九一	九一	九一	九一
毛絲	八三	九五	九五	八三	八三	八三	八三	八三	九五	九五	九五	八三	八四	八四	八四	八四
羽二重	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
富士絹	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

許可 1894 号 昭和八年四月二十六日 水曜日





第 1894 号　本文

大連	761.2	南	9	9	曇		
奉天	758.6	南西	15	11	晴	1	
新京	755.9	南西	6	10	雨		
天津	759.7	北北東	2	14	薄曇		
青島	763.6	南南東	11	11	快晴		
上海	766.5	東	2	15	晴		

同　二十三日

地名	氣壓（粍）	風向	風速（米）	雲量（十分比）	天氣	降水量（粍）
臺北	762.9	北北西	2	28	晴	
那覇	764.6	東北東	6	22	曇	
鹿兒島	766.0	南	2	21	薄曇	
高知	766.9	南東	2	18	曇	
大分	766.4	北東	3	15	曇	
多度津	766.7	北北東	5	13	薄曇	
廣島	766.5	南西	2	16	薄曇	
大阪	767.3	西	2	15	曇	
長崎	765.6	南西	4	19	薄曇	
鹿兒島	765.3	北北西	3	20	薄曇	
濱田	765.4	北北西	3	16	薄曇	
名古屋	767.4	南南東	3	19	薄曇	
横濱	769.1	東北東	3	12	曇	
東京	769.0	南東	4	14	薄曇	
銚子	769.3	北東	6	17	曇	
長野	764.7	南	2	16	薄曇	
前橋	768.2	東	4	13	雪	
宇都宮	768.3	南南西	4	15	晴	
福島	768.1	西南西	2	14	晴	
福井	766.6	北西	2	15	薄曇	
新潟	767.9	北	5	12	薄曇	
秋田	768.4	南西	4	11	快晴	
石巻	768.9	南	4	8	晴	
盛岡	767.9	南	4	11	晴	
青森	767.8	西北西	3	12	晴	
函館	767.3	南南西	6	10	快晴	
札幌	766.0	南東	3	13	晴	
旭川	765.4	西北西	3	11	曇	
根室	766.7	南西	6	6	快晴	
大泊	764.0	南南東	5	5	曇	
釜山	764.8	南	4	16	曇	
仁川	764.6	西南西	4	15	快晴	
元山	761.2	南西	2	18	快晴	
城津	760.5	南南西	8	12	晴	
新義州	762.9	南南西	5	12	晴	

大連	760.8	南	9	10	曇		
奉天	757.0	南南西	14	17	曇		
新京	752.3	南南西	10	16	風塵		
天津	756.8	西南西	6	24	快晴		
青島	760.9	南南東	5	12	曇		
上海	762.8	南西	2	22	薄曇		

四月二十二日　東京氣象

天氣概況　曇小雨後晴

平均氣壓　七五六粍
平均氣溫　一三・五度
平均濕度　六一％
平均雲量　一〇分中八・五
平均風速　一・四米
最高氣溫　一八・〇度
最低氣溫　七・二度
最大風速　一〇・〇米
最大風向　北北西
日照時數　一・〇時
降水量　〇・〇粍

平均氣壓ノ平年ヨリノ差　＋〇・一粍
平均氣溫ノ平年ヨリノ差　＋〇・六度
平均濕度ノ平年ヨリノ差　＋一％
平均雲量ノ平年ヨリノ差　＋一・五分
日照時數ノ平年ヨリノ差　＋〇・一時
降水量ノ平年ヨリノ差　＋〇・〇粍

記事　一降水量多大均晴時々曇後小雨後晴
同　二十三日　天氣概況　曇後晴
平均氣壓　七五七・二粍
平均氣溫　一〇・一度
平均濕度　六二％
平均雲量　一〇分中七・五
日照時數　一・〇時
降水量　〇・〇粍
平均氣壓ノ平年ヨリノ差　＋〇・二粍
平均氣溫ノ平年ヨリノ差　＋〇・二度
平均濕度ノ平年ヨリノ差　＋一％
平均雲量ノ平年ヨリノ差　＋一・五分
日照時數ノ平年ヨリノ差　＋〇・一時
降水量ノ平年ヨリノ差　＋〇・〇粍
記事　一降水量多大均晴時々曇後小雨後晴

（以上中央氣象臺）

廣告

正誤

昨二十五日都市計畫公告第六九八號三段十行第二欄八行第二題ノ下ノ部ノ字ヲ削ル

◉恤兵金品

第四回ノ廣告ニ掲載セル恤兵金品ノ内左ノ分ハ都合ニ依リ本紙ニ掲載スルヲ得ズ悪シカラズ御了承ヲ乞フ

品名	數量	送付者住所氏名
金	五圓	東京市麻布區笄町一番地　佐藤榮作

茨城縣
七九六三　稻敷郡根本村　霞ヶ浦遍照講
內　譯
一、五〇　有志代表中山岩吉　一、五〇　半田金佛講
一、〇〇　上郷金佛講　一、〇〇　濱田榮之助
一、〇〇　其他有志六九七名
三、三五　念佛業代
一〇、〇〇　同伊崎村阿波崎五〇
表
奈良縣
奈良市小西町　水野　磐城シヅ子
一、〇〇　同北魚屋西町　越
一、三七　磯城郡上之郷村　上之郷尋常高
等小學校職員兒童代表　上田　清二
六、〇〇　高市郡高市町　高市尋常高等小
學校代表　校長　島岡　芳雄
五、八五　宇智郡北宇智村　北宇智尋常高
等小學校兒童有志代表　植田コユキ
一、五〇　吉野郡宗檜村大峯　北川　貞夫
和歌山縣
五、〇〇　伊都郡高野町高野山六七五　長岡　秀施
德島縣
五〇、〇〇　德島市　德島保樂園會
五、〇〇　同　同　中西　隆子
五、〇〇　同　德島地方專賣局女工有志代
表　三宅　德子
一〇、〇〇　同當田鑛通町四丁目　有志代表　阿井ヨシ
二、〇〇　同當田町　正宗屋　店員一同
二、〇〇　同德島縣　德島縣女子師範學校
附屬小學校兒童有志代表　杉原　義雄
一〇〇、〇〇　板野郡撫養町　養太夫藝人因講
會代表　播磨　儀平
二、三六〇　同　林崎檢番藝妓舞妓一同
二五、〇〇　同　川東製藥勞働組合
六、五〇　同　桑島尋常小學校職員代表校
長　朝野　精
一〇、〇〇　同佐吉村　笠木詠組有志代表　岡田　岩吉
一〇、〇〇　同松坂村　丸福亭有志代表　ツタ子
一、五〇　同相生村　松葉富士太郎
三六、六五　名東郡國府町　詠歌組有志代表　イセ
同南井上村　南井上青年訓練所　美輪
二一、三一　同萬村沖ノ洲山路ノ丁　中ノ丁惠丁中
一〇、〇〇

◉學藝技術奬勵金寄附

學藝技術奬勵金ヲシテ當局ニ於テ受領シダル寄附金及寄附者ノ住所氏名左ノ如シ

昭和八年四月

受領月日	金額	住所	氏名
四、二五	四、〇〇〇、〇〇〇	東京市麴町區日比谷公園內市政會館	小松　謙次郎
同	一、〇〇〇、〇〇〇	東京府千駄ヶ谷町大字原宿一七〇ノ八	渡邊　仙藏
同	一、〇〇〇、〇〇〇	呉市誠山町二五	植田　新之助
同	一、〇〇〇、〇〇〇	南洋スラバヤ島	松永

◉公示送達

東京市蒼原區小山町辨天通四百二十八番地　中村　逸藏

（右ノ者ニ送達スヘキ昭和八年三月十四日附昭和七年商標登錄願第一八五四四號拒絕査定謄本）

右ノ書類ハ何時ニテモ送達ヲ受クヘキ者ニ之ヲ交付スヘシ

右商標法施行規則第十六條ノ規定ニ依リ準用ス

特許法施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ公告ス

昭和八年四月二十六日　特許局

◉海技免狀原簿登錄

昭和七年十月中海技免狀原簿ニ登錄シタルモノ

種類	番號	登錄月日	氏名	摘要
左ノ如シ				
漁乙一トアルハ汽船ハ汽船甲種船長	三二七三	一〇、三	久保　央	甲一ヨリ進級
漁乙一トアルハ汽船ハ汽船甲種船長	三二七四	同	折田　正之	同
漁乙一トアルハ汽船ハ汽船甲種船長	三二七五	同	清水　赤沼　繁彥	同
漁乙一トアルハ汽船ハ汽船甲種船長	三二七六	同	金籐　鶴信	同
漁乙一トアルハ汽船ハ汽船甲種船長	三二七七	同	石橋　三郎	同

遞信省

種類　番號　登錄月日　氏名　摘要

種類	番號	登錄月日	氏名	摘要
甲種船長	三二七二	一〇、三	久保　央	甲一ヨリ進級
同	三二七三	同	折田　正之	同
同	三二七四	同	清水　赤沼　繁彥	同
同	三二七五	同	金籐　鶴信	同
同	三二七六	同	石橋　三郎	同
同	三二七七	同	藤田　金德	同
同	三二七八	同	久保　清喜	同
同	三二七九	同	竹身龜四郎	同
同	三二八〇	同	山本慶治郎	同
同	三二八一	同	濱田喜六郎	同
同	三二八二	同	西村　虎義	同
同	三二八三	同	山崎　馬吉	同
同	三二八四	同	門田　嘉藏	同
同	三二八五	同	濱口　隈吉	同
同	三二八六	同	坂本　楠松	同
同	三二八七	同	丸山　吉治	同
同	三二八八	同	若竹吉次郎	同
同	三二八九	同	外瀨彌三郎	同
同	三二九〇	同	出口新太郎	同
同	三二九一	同	北出重太郎	同
同	三二九二	同	廣井　福一	同
同	三二九三	同	濱田　彌一	同
同	三二九四	同	宮崎伊之助	同
同	三二九五	同	杉本仙之助	同
同	三二九六	同	森下　利七	同
同	三二九七	同	市川吉太郎	同
同	三二九八	同	冷水孝次郎	同
同	三二九九	同	西山一三	同
同	三三〇〇	同	木ノ下喜一	同
同	三三〇一	同	小堀清太郎	同
同	三三〇二	同	島原　道行	同
同	三三〇三	同	花井　半重	同
同	三三〇四	同	木村淺治郎	同
同	三三〇五	同	濱崎　武雄	同
同	三三〇六	同	上野山輝雄	同
同	三三〇七	同	桑田比佐一	同
同	三三〇八	同	北本　定一	同
同	三三〇九	同	川崎　九一	同
同	三三一〇	同	津下　高市	同
同	三三一一	同	深坂　治郎	同
同	三三一二	同	桑田　俊一	近海二機ヨリ進級
同	三三一三	同	木村　佐一	同
同	三三一四	同	叢谷繁三郎	同
同	三三一五	同	桑田　與一	同
同	三三一六	同	川崎　修治	同
同	三三一七	同	寺地　重造	同
同	三三一八	同	冨田　金作	同
同	三三一九	同	田村理一郎	一機ヨリ進級
同	三三二〇	同	山本　昇	同
同	三三二一	同	村一男	同
同	三三二二	同	宮城　克己	二機ヨリ進級
同	三三二三	同	鈴木　良二	同
同	三三二四	同	岡野　熊太	同
同	三三二五	同	上原　武綱	同
同	三三二六	同	川上三千雄	乙二ヨリ進級
同	三三二七	同	佐多　好武	同
同	三三二八	同	河村　哲二	乙二ヨリ進級
同	三三二九	同	諸藏　石造	同
同	三三三〇	同	小中伊勢次郎	同
同	三三三一	同	吉岡作九郎	乙二ヨリ進級
同	三三三二	同	加賀見　一	同
同	三三三三	同	中尾　誠治	同
同	三三三四	同	船津　正義	沼乙三ヨリ進級
同	三三三五	同	本村　政義	同
同	三三三六	同	平島作次郎	同
同	三三三七	同	笹野井喜義	同
同	三三三八	同	棚村宇佐間	同
同	三三三九	同	淵老名壯松	同
同	三三四〇	同	古本　新一	同
同	三三四一	同	樋引　圭三	同
同	三三四二	同	金子　間作	同
同	三三四三	同	宮本仙太郎	同
同	三三四四	同	橋本　元吉	同
同	三三四五	同	相馬　標次	同
同	三三四六	同	古本　元助	同
同	三三四七	同	西澤才五郎	同
同	三三四八	同	木幡芳郎	同
同	三三四九	同	猪野長榮	同
同	三三五〇	同	矢富　驅市	同
同	三三五一	同	西村萬太郎	同
同	三三五二	同	中村　藤次	同
同	三三五三	同	東　常八	同
同	三三五四	同	利田　秀吉	同
同	三三五五	同	中島　常一	同
同	三三五六	同	高田　宮本	同
同	三三五七	同	島田　定市	同
同	三三五八	同	小林　藤只	同
同	三三五九	同	山口　春治	同
同	三三六〇	同	濱口　重幸	同
同	三三六一	同	三浦　夏吉	同
同	三三六二	同	山崎　崎藏	同
同	三三六三	同	黒木竜藏吉	同
同	三三六四	同	黒瀬　鶴竜	同
同	三三六五	同	佐々木善藏	小乙二ヨリ進級
同	三三六六	同	日高幸之照	同
同	三三六七	同	石原　良助	同

同	一八五六	東野　三吉	操
同	一八五七	森下半五郎	美
同	一八五八	川本　清美	
同	一八五九	河賀清太郎	
同	一八六〇	中森　善一	
同	一八六一	石原　浩平	
同	一八六二	宮下久太郎	
同	一八六三	酒井　鶴松	
同	一八六四	田村與三郎	
同	一八六五	清水　宇一	
同	一八六六	小谷　恒一	
同	一八六七	原山　彙松	
同	一八六八	倉山　增一	
同	一八六九	門中熊十郎	
同	一八七〇	石原初太郎	
同	一八七一	岩崎　三吉	
同	一八七二	日高　久泰	
同	一八七三	大學源之丞	
同	一八七四	加藤虎太郎	
同	一八七五	平田　幸一	
同	一八七六	信田　作造	
同	一八七七	岡野　高助	
同	一八七八	鈴木伊三吉	
同	一八七九	小川勝太郎	
同	一八八〇	中野獺太郎	
同	一八八一	島光　甚三	
同	一八八二	吉村　敬三	
同	一八八三	常野　房吉	
同	一八八四	米本德太郎	
同	一八八五	濱森　改雄	
同	一八八六	須田　和一	
同	一八八七	中村　市郎	
同	一八八八	鍋島四郎	
同	一八八九	遠藤松太郎	
同	一八九〇	池田　敏正	
同	一八九一	石崎　重穴	
同	一八九二	山田留次郎	
同	一八九三	田中幸太郎	
同	一八九四	濱地　清	
同	一八九五	香川　金一	
同	一八九六	浦久　嘉一	
同	一八九七	岡本　善太	
同	一八九八	青野　正一	
同	一八九九	三浦　常治	
同	一九〇〇	吉松　諦吉	
同	一九〇一	坂本秀次郎	
同	一九〇二	久武八重喜	
同	一九〇三	藤田　金德	
同	一九〇四	久保　清喜	
同	一九〇五	竹身龜四郎	
同	一九〇六	山本慶治郎	
同	一九〇七	濱田喜六郎	
同	一九〇八	西村　虎義	
同	一九〇九	山崎　馬吉	
同	一九一〇	門田　嘉藏	
同	一九一一	濱口　隈吉	
同	一九一二	坂本　楠松	
同	一九一三	丸山　吉治	
同	一九一四	若竹吉次郎	
同	一九一五	外瀨彌三郎	
同	一九一六	出口新太郎	
同	一九一七	北出重太郎	
同	一九一八	廣井　福一	
同	一九一九	濱田　彌一	
同	一九二〇	宮崎伊之助	
同	一九二一	杉本仙之助	
同	一九二二	森下　利七	
同	一九二三	市川吉太郎	
同	一九二四	冷水孝次郎	
同	一九二五	西山一三	
同	一九二六	木ノ下喜一	
同	一九二七	小堀清太郎	
同	一九二八	島原　道行	
同	一九二九	花井　半重	
同	一九三〇	木村淺治郎	
同	一九三一	濱崎　武雄	
同	一九三二	上野山輝雄	
同	一九三三	桑田比佐一	
同	一九三四	北本　定一	
同	一九三五	川崎　九一	
同	一九三六	津下　高市	
同	一九三七	深坂　治郎	
同	一九三八	桑田　俊一	近海二機ヨリ進級
同	一九三九	木村　佐一	同
同	一九四〇	叢谷繁三郎	同
同	一九四一	桑田　與一	同
同	一九四二	川崎　修治	同
同	一九四三	寺地　重造	同
同	一九四四	冨田　金作	同
同	一九四五	田村理一郎	一機ヨリ進級
同	一九四六	山本　昇	同
同	一九四七	村一男	同
同	一九四八	宮城　克己	二機ヨリ進級
同	一九四九	鈴木　良二	同
同	一九五〇	岡野　熊太	同
同	一九五一	上原　武綱	同
同	一九五二	川上三千雄	乙二ヨリ進級
同	一九五三	佐多　好武	同
同	一九五四	河村　哲二	乙二ヨリ進級
同	一九五五	諸藏　石造	同
同	一九五六	小中伊勢次郎	同
同	一九五七	吉岡作九郎	乙二ヨリ進級
同	一九五八	加賀見　一	同
同	一九五九	中尾　誠治	同
同	一九六〇	船津　正義	沼乙三ヨリ進級
同	一九六一	本村　政義	同
同	一九六二	平島作次郎	同
同	一九六三	笹野井喜義	同
同	一九六四	棚村宇佐間	同
同	一九六五	淵老名壯松	同
同	一九六六	古本　新一	同
同	一九六七	樋引　圭三	同
同	一九六八	金子　間作	同
同	一九六九	宮本仙太郎	同
同	一九七〇	橋本　元吉	同
同	一九七一	相馬　標次	同
同	一九七二	古本　元助	同
同	一九七三	西澤才五郎	同
同	一九七四	木幡芳郎	同
同	一九七五	猪野長榮	同
同	一九七六	矢富　驅市	同
同	一九七七	西村萬太郎	同
同	一九七八	中村　藤次	同
同	一九七九	東　常八	同
同	一九八〇	利田　秀吉	同
同	一九八一	中島　常一	同
同	一九八二	高田　宮本	同
同	一九八三	島田　定市	同
同	一九八四	小林　藤只	同
同	一九八五	山口　春治	同
同	一九八六	濱口　重幸	同
同	一九八七	三浦　夏吉	同
同	一九八八	山崎　崎藏	同
同	一九八九	黒木竜藏吉	同
同	一九九〇	黒瀬　鶴竜	同
同	一九九一	佐々木善藏	小乙二ヨリ進級
同	一九九二	日高幸之照	同
同	一九九三	石原　良助	同
同	一九九四	上原　六郎	
同	一九九五	山本　晴一	
同	一九九六	田中　國作	
同	一九九七	北村　龍雄	
同	一九九八	太田　俊良	
同	一九九九	太田　正之	
同	二〇〇〇	岡本冨三男	
同	二〇〇一	高橋　忠士	
同	二〇〇二	小川　秀夫	
同	二〇〇三	岩男　刀禰	
同	二〇〇四	雅男　勇	
同	二〇〇五	今泉　孝男	
同	二〇〇六	飯野　善孝	
同	二〇〇七	辻川　貞一	
同	二〇〇八	山本　駿一	
同	二〇〇九	登野　忠逸	
同	二〇一〇	進一　雄	
同	二〇一一	御厨　重雄	
同	二〇一二	大坪　金吾	
同	二〇一三	宮木　正吉	
同	二〇一四	後藤　勉	
同	二〇一五	森山　實之	
同	二〇一六	島　秀雄	
同	二〇一七	玉腰　稔三	三機ヨリ進級
同	二〇一八	川端　彰	同
同	二〇一九	稻田　勇	同
同	二〇二〇	岩本　常藏	同
同	二〇二一	浦　義雄	二機ヨリ進級
同	二〇二二	宇山　義雄	同
同	二〇二三	川上　末彦	同
同	二〇二四	鈴木　熊吉	同
同	二〇二五	吉田　義一	同
同	二〇二六	渡邊　久治	同
同	二〇二七	日高　良二	同
同	二〇二八	鈴木　秀次郎	同
同	二〇二九	坂本　久武	同
同	二〇三〇	藤井　喜太郎	同

◉鐵道財團公告失效（未完）

客年十月二十一日官報ヲ以テ公告セル西濃鐵道株式會社所有ノ實施驛市橋驛間鐵道財團ハ期間內ニ抵當權設定認可ノ申請ヲ爲ササル爲公告ハ其ノ效力ヲ失ヘリ

右鐵道抵當法第十二條ニ依リ公告ス

昭和八年四月二十六日　鐵道大臣　所屬未定地編入

◉所屬未定地編入

町村制第三條ニ依リ左記所屬未定地ヲ本月十五日當該町村ノ區域ニ編入セリ

昭和八年四月　島根縣

許可 1894 5 25

白木屋第七回社債出

（附保證）

今回當銀行ニ於テ其ノ建額ヲ引受ケタル昭和八年五月壹日登行株式會社白木屋第七回物上擔保附社債左記ニ依リ發出ス

株式會社白木屋

一、社債ノ總額　金參百萬圓也

一、社債ノ金額　壹千圓、五千圓、壹萬圓及壹萬圓ノ五種トシ無記名式利札附トス

一、發出價格　額面金壹千圓ニ付金參百圓

一、發出單位　額面金壹千圓

一、社債ノ利率　年六分五厘

一、發出期間　昭和八年五月壹日ヨリ五月壹日迄、但期間中ト雖モ額面金百圓ニ付金參圓、但參入ノ上ハ拂込ノ日迄ノ日割ヲ以テ利息ヲ附セス

一、申込證據金　額面金壹千圓ニ付金參百圓

一、社債償還ノ方法及期限　昭和八年五月壹日ヨリ昭和拾年五月壹日迄ニ據替ノ據置期間ヲ經過シタル社債ヲ抽籤ニ依リ年賦償還ス但シ昭和拾參年五月壹日迄ニ完濟ヲ爲スコトヲ得

一、利息支拂ノ方法及期限　利息ハ發行日ノ翌日ヨリ起算シ毎年五月壹日及拾壹月壹日ノ二回ニ各前六ケ月分ヲ利札引換ニ支拂フ、但償還ノ場合ニ於テハ發行日ヨリ償還期日迄ノ日數ニ應シ年六分ノ割合ヲ以テ計算ス

一、元利金支拂場所及信託證書ノ表示　昭和八年四月拾七日附信託證書ノ定ムル所ニ依リ株式會社東京銀行本店及大阪支店ニ於テ之ヲ支拂フ

一、擔保ノ表示　昭和八年四月拾七日附信託證書ノ定ムル所ニ依リ株式會社東京銀行本店及大阪支店ニ於テ之ヲ支拂フ

一、社債總額　金參百萬圓也

一、委託會社ノ資本金及積立金額　昭和八年四月拾七日附信託證書ノ定ムル所ニ依リ株式會社東京銀行本店及大阪支店ニ於テ之ヲ支拂フ

一、委託會社現有財産ノ概況　昭和八年四月拾七日附信託證書ノ定ムル所ニ依リ株式會社東京銀行本店及大阪支店ニ於テ之ヲ支拂フ

一、委託會社未償還社債總額　昭和八年四月貳拾五日現在金六百七拾貳萬千八百圓ナルモ來ル四月參拾日迄ニ內金參百貳拾貳萬千八百圓ヲ償還スルモノトス

一、委託會社資本金　昭和八年壹月貳拾壹日現在）金壹千五百萬圓（內拂込金壹千五拾萬圓、

一、委託會社現有財産　昭和八年壹月參拾四萬七百五拾貳圓ヲ控除）

一、申込取扱場所　株式會社第一銀行本店及大阪支店

一、募入方法　昭和八年五月壹日現在ノ株主ニ割當ツ

一、拂込期日　昭和八年五月壹日

一、信託證書閱覽場所　東京市麹町區丸ノ內壹丁目株式會社東京銀行

昭和八年四月

神戸市債借替償還

神戸市第二回築港公債（らむうやま號、同第三回築港公債（かよたれそねつ號未償還額全部借替ニ付來ル五月六日本市公債取扱店ニ於テ證券引換ニ元金及端數利子ヲ支拂フ

昭和八年四月二十六日　神戸市長　黒瀬弘志

神戸市債借替償還

追テ右公債證書ハ五月五日附ヲ以テ發行スル五分五厘利附神戸市第二回築港公債い號同第三回築港公債い號ニ乘換ノ場合ハ本年六月渡以降利札附ノモノニ限リ額面百圓ニ付百貳圓五拾七錢一厘ノ割合ニテ拂込金ニ代用シ得ヘキヲ以テ乘換希望ノ向ハ當本ビルブローカー野村山一日當證券株式會社ニ直接申込アリタシ

株金拂込領收證紛失

矢部謙次郎名義住友銀行丸ノ內支店扱當社第一回株金拂込領收證第七二號ハ名義人ヨリ紛失ノ屆出アリタルニ付爾後之ヲ無效ト

昭和八年四月廿四日　電話番町一〇〇番

株式名義書換停止公告

昭和八年四月貳拾八日ヨリ假決議附議ノ爲メ第貳回ノ株主總會及第拾壹回定時株主總會終了ノ日迄株式名義書換停止ス

昭和八年四月二十六日　愛知中央鐵道株式會社

日本テント商會

天幕・幌・日覆・雨覆・日除・幕・テント・シート・袋物・鞄類・各種帆布製品

電話番町一〇〇番

東洋濾紙株式會社

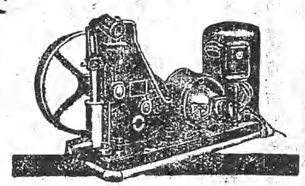
東京イオン試験紙
東洋水素濃度試験紙
東洋濾紙と試験紙

東京市麹町區丸ノ內二ノ四
電話京橋3080番

日立電氣ポンプ

・水道より便利で經濟・

型錄送呈



東京　日立製作所　丸ノ內

靖國神社臨時大祭ニ付來ル四月二十七日本行本支店（熊本支店鹿兒島派出所共）臨時休業ス

昭和八年四月二十六日　日本銀行

官吏・公吏・軍人・教師・銀行會社員に奬む!!

合理的新教授　書道

◎即刻ハガキにて申込あれ
◎見本及規則書無料贈呈

實務上の書字能力乏しき學校出の人々▼相當の地位に立つて揮毫などに依賴される人々▼感受性强き愛兒の爲に指導を望む人々

東京市麹町區飯田町ヶ谷七ノ九四八　振替口座東京九四四九番

東洋研書會

品質優良、一本モ附ナシ書キ工合ヨシ（各有名文具店ニ有リ）

ササキガラスペン

東京、下谷、入谷町九四、佐々木商店（電話下谷一一三六）

第五回營業報告（自昭和七年九月至昭和八年二月）

資産

營業權	四七三、一五〇、〇〇〇
什器	一五二、八五〇、〇〇〇
他社株券	五、二三五、二〇〇
在庫商品	二四、〇八八、一九七
貸付金	一、四一一、四〇〇
掛代金	三一、七一七、六四五
供託金	八五九、三八三
銀行預金	三九、六八〇、七六六
振替貯金	六五、二九一、〇九四
現金	一〇九、四四一
計	一、〇八九、六二七、三〇五

負債

資本金	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
法定積立金	八、五〇〇、〇〇〇
準備積立金	一〇、七〇〇、〇〇〇
前期繰越金	二、九五〇、七五
未拂株金	一〇、六八八、九六
職員退職給與基金	六、四〇〇、〇〇〇
當期利益金	五〇、四〇七、五九
計	一、〇八九、六二七、三〇五

利益金處分

當期純益金	五〇、四〇七、五九
前期繰越金	二、九五〇、七五
合計	五三、三五八、三四

內

法定積立金	三、〇〇〇、〇〇〇
準備積立金	六、五〇〇、〇〇〇
役員賞與金	四、〇〇〇、〇〇〇
職員退職給與基金	二、〇〇〇、〇〇〇
株主配當金（一株ニ付金壹圓五拾錢ノ割）	三〇、〇〇〇、〇〇〇
什器消却金	二、〇〇〇、〇〇〇
後期繰越金	五、八五八、三四

昭和八年三月

帝國法規出版株式會社

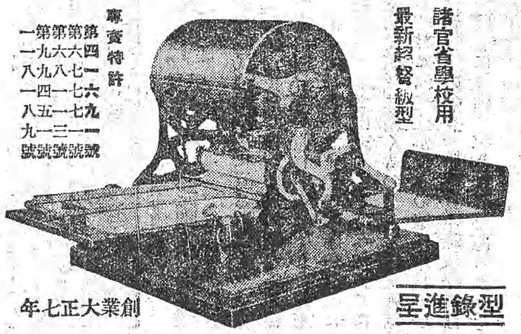
取締役會長　大道良太

最高級ローヤル輪轉自働謄寫機

處務機械化の先驅

國家非常時の急務は各官省、學校會社、工場其他事務所に於ける「事務能率增進の合理化」でありますが就中「謄寫版の機械化」は最も急務とされ、今や各方面を擧げて弊機の御愛用を賜る所以は畢竟本機の實質を雄辯に物語つて居る證據でありますす

諸官省學校用
最新鋭智級型



專賣特許
第四一六九一號
第四六八七一號
第一九九一四號
第一七一一五號
第一三一九九號

型錄進呈

創業大正七年

製作發賣元　ローヤル輪轉自働謄寫機商會

東京神田小川町二ノ一（小川町電停前）
電話神田二六一〇・二六二一番　振替東京二二九六九番

1894 4 26

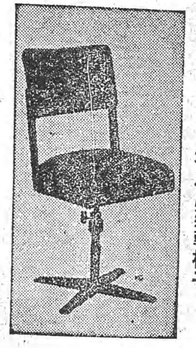
明治二十五年三月三十一日　第三種郵便物認可

特許　壽式座席開閉連結椅子
特許　壽式學生机連結椅子

一、座席ヲ開閉シ得ル爲メ出入ニ便ニ場所ヲ要スル事少ナキ事
二、特許座席開閉裝置構造簡潔ニシテ絕對ニ音ノセザル事
三、座席廻轉軸特許自在關節式ニシテ堅牢無比摩滅破損ノ憂ナク日特許可調整ニアラザレバ回轉シ自由ニ調整スル事ヲ得永久圓滑ナル事
四、敷及背張ハ特許P.K式座席堅牢裏ヲ以テ土手ノ破損又ハバネノ飛ビ出ス憂無ク掛具合ヨク堅牢ナル事

右椅子ノ特徴

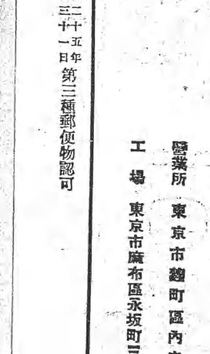
新案特許上下自在單脚廻轉椅子



主ナル上納先
東京市日比谷公會堂、名古屋市公會堂、東京震災紀念堂、三會堂、神奈川縣會議事堂、東京市政調査會館、實業聯合會館、野田興風會館、東京科學博物館、日本醫師會館、三笠會館、醫學會館、學士會館、日本青年館、臺中市設樂館、帝國鐵道協會、關東廳遞信局、上海自然科學研究所、警察講習所、東京株式取引所、航空研究所、鐵道大臣官房、全國路學法廷、農業商務省、廣島病院、東京同愛紀念病院、東京鐵道病院、仁藤生命保險會社、東京三越、東京松坂屋、東京白木屋、淺草松屋、鹿兒島山形屋呉服店、大阪北濱驛場、大阪歌舞伎座、福岡玉屋呉服店、東京、京都、九州、北海道各帝國大學、早稻田、慶應、東京商科、東京文理科、駒澤、上智各大學、熊本商科、岡山、藝專會各醫科大學、第五高等、東京府立高等、武藏高等、山口高商、仙臺高工、横濱高工各高等學校、仙臺東北學院、第二東京市立中學校、東京府立第三商業學校、女子英學塾、第一東京市立、立教高等各高等女學校等

室内裝飾
家具敷物
商　壽　店
椅子部

營業所　東京市麹町區内幸町太平ビル　電話銀座(57)二二一二番
工　場　東京市麻布區永坂町三七、三八、三九番地　電話赤坂(48)八二八番



最新刊
日本債權法總論
慶大教授　小池隆一先生著
菊版總布函入　價參圓八拾錢　送料卅三錢

民法全書の完結

慶大教授　小池隆一先生著

日本民法總論　價四・五〇　送二三
日本物權法論　價三・〇〇　送二三
日本債權法各論　價二・六〇　送二一
日本親族相續法論　價一・八〇　送二一
全訂改版法學通論　價三・〇〇　送二三

法律圖書目錄贈呈

發兌　東京市神田區今川小路　合資會社　清水書店
電九段五七八振替東京七八六二七

足價　一ケ月分　九十錢　五ケ錢
廣告料　一段　一回八十錢（例國版御二段ハ一段ノ倍ニ）各資料共
本會告　六號一行三十錢　五號五錢四號十錢增
六號十四字詰一行二十五錢

發行所　東京市神田區今川小路　内閣印刷局
電話九段五七八振替東京七八六二七

官報 1894 号

昭和八年四月二十六日　水曜日

官報

農家負債整理の概要

（その三）

農林省經濟更生部

六　整理の對象

（一）被整理者　整理對象となるべき者の範圍については、農業者と限定した事例もあるが、大部分はかゝる範圍を設けることなく、整理區域内の一般住民を對象としてゐる。（被整理者の項參照）

いが、成可く多くの債權者は負債總額として不動產關係を要求する事例が多いためその結果として自己所有の者より整理に着手する事例が多く、又整理對象の者が多い。これに對して、被整理者を整理希望者中より勸奬推行を圖る關係上選擇に選擇手續をとつてゐる事例もある。

（二）被整理負債　表に整理の對象たるべき債務を見るに實の借入先についてみれば（イ）借入先に對する利息を附けないもの、六十事例中四十六事例（註一）でありまた（ロ）利息を附けるものゝ内でも農業組合および勸業銀行の負債は後廻しとなつてゐるもの五事例（註二）高利度に限るもの（事例番號九）二千圓以上二百圓以下の債務を除いたもの（事例番號九）四圓以内の債務を先にしたもの（事例番號十四）等各種の條件を附して整理對象としてゐる。

各一事例宛あるがこれ等は殆ど全部を整理對象としてゐるものと見てよい。

整理を目的とするもの五事例（註三）ある。次に（ロ）農業組合、勸業銀行以外の高利度に限りたるもの四事例（註四）あるがいづれも整理主體は農業組合である。（ハ）農業組合よりの借入に限るもの四事例（註五）あり、整理主體はすべて農業組合である。

（三）被整理負債の性質　なほ債務の性質について見れば（イ）殆んどすべての事例が高利なる點に限りまたは（ロ）生活振農業參加による負債を除外したもの（ハ）總債の若干なりとするものを除外する事例が多い。

註一（一）より（六）（九）より（一一）（一三）（一四）（一五）（一七）より（二三）（二四）より（二八）（四一）より（四五）（四七）より（五〇）（五三）より（五八）（六〇）

註二　（三）（四）（五）（六）（四一）

註三　（一六）（一九）（二三）（二八）（四三）

註四　（七）（八）（四〇）（五九）

註五　（一六）（二三）（三七）（三九）

註六　（四六）（四八）（四九）（五一）（五二）

七　負債の元金および利息の切捨

從來の債權關係の當事者間において、債權額または利息の切捨をなす事例は六十事例中二十一事例であつて、同給についてはこれを整理主體が常事者の間に立つて斡旋するが如きものもあるまた當事者間の切捨交渉成立をまつて、これが整理をなす事例もある。

元金の切捨をなすものは十五事例（註一）であつてそのうち切捨の額合を定めてゐるもの四事例（註二）あり、切捨額は元金の一割乃至三割を普通としてゐるが、債權者の資産狀態に應じて切捨をなすもの一事例（事例番號一）あり、その他は關係が判明しない。

利息の切捨をなすもの二十事例（註三）であつて、切捨利率を定めてゐるもの五事例あり、切捨の標準は全額切捨二事例（註四）、年一割切捨（事例番號一四）、一年分切捨（事例番號一九）、三箇月分切捨（事例番號一二）各々一事例宛あり、その他の一事例については標準不明である。

また（二）被整理手續よりの負債を限定するもの五事例（註五）がある。

（三）被整理負債の性質　なほ債務の性質について見れば（イ）殆んどすべての事例が高利なる點に限りまたは（ロ）生活振農業參加による負債を除外したもの（ハ）總債の若干なりとするものを除外する事例が多い。

註一（一）より（六）（九）より（一一）（一三）（一四）（一五）（一七）より（二三）（二四）より（二八）（四一）より（四五）（四七）より（五〇）（五三）より（五八）（六〇）

註二　（三）（四）（五）（六）（四一）

註三　（一六）（一九）（二三）（二八）（四三）

註四　（七）（八）（四〇）（五九）

註五　（一六）（二三）（三七）（三九）

註六　（四六）（四八）（四九）（五一）（五二）

七　負債の元金および利息の切捨

從來の債權關係の當事者間において、債權額または利息の切捨をなす事例は六十事例中二十一事例であつて、同給についてはこれを整理主體が常事者の間に立つて斡旋するが如きものもあるまた當事者間の切捨交渉成立をまつて、これが整理をなす事例もある。

元金の切捨をなすものは十五事例（註一）であつてそのうち切捨の額合を定めてゐるもの四事例（註二）あり、切捨額は元金の一割乃至三割を普通としてゐるが、債權者の資産狀態に應じて切捨をなすもの一事例（事例番號一）あり、その他は關係が判明しない。

利息の切捨をなすもの二十事例（註三）であつて、切捨利率を定めてゐるもの五事例あり、切捨の標準は全額切捨二事例（註四）、年一割切捨（事例番號一四）、一年分切捨（事例番號一九）、三箇月分切捨（事例番號一二）各々一事例宛あり、その他の一事例については標準不明である。

註一　（一）（二）（五）（一一）（一三）（一九）（二〇）（二三）（二四）（一二）（一四）（四九）（五六）（五八）（六〇）

註二　（一三）（一九）（二〇）（二三）

註三　（一）（二）（六）（九）（一一）より（一四）（一九）（二〇）（二三）（二四）より（四四）（四七）（五六）（五八）（六〇）

註四　（二〇）（二三）

八　整理後の負債

（一）利率　整理後の利率は個々の事例により又は同一の事例中においても區區區々であつて必ずしも一樣でない。無利息というような條例（註一）があるけれども、これとて整理後といくともなほ相當高利率であるが、これに各事例を表付利率別に見ると次の通りである。

年利率	三分以下	二事例
同　同	四分以下	一事例
同　同	五分以下	三事例
同　同	六分以下	十二事例
同　同	七分以下	十四事例
同　同	八分以下	四事例
同　同	九分以下	三事例
同　同	一割以下	一事例
同　同	一割二分以下	一事例

註一　（一四）（三九）（四一）（五〇）

（二）期限　整理後の債務期限は各事例により一樣でないけれども、何れも相當長期であつて、三十年の長きにわたる事例（註一）が二つある。

各事例を期限別に見ると次の通りである。

三十——三十年	七事例（註二）
十——二十年	十八事例（註三）
十年以下	十一事例（註四）

最低二箇年の一事例（事例番號十三）があるけれども、その他はすべて五箇年以上である。なほ償還期限をもつて一律に定めるものはすくなく、大體の標準を定めておいて類似の性質、條件の者または債權者の事情等を參酌して負債に應じ次定するものが多い。

註一　（一四）（三三）

註二　（一四）（一八）（三三）（三四）（四三）（四四）（五〇）

註三　（一）（二）（三）（一一）（一五）（一六）（一七）（二三）（三四）（四〇）（四七）（四八）（五五）（五九）

註四　（四）（五）（六）（七）（九）（一四）（一五）（三一）（三七）（五六）（五八）

（三）償還方法　償還方法は殆んどすべて割賦弗方法を採用し、定期一時弗方法によるものは三事例に過ぎない（註一）。しかして割賦弗方法としては元金均等償還法によるものが多い。

註一　（一〇）（五四）（五七）

（四）據保　物的據保を有する負債についての整理をなす事例が多く、整理實行に着手した四十六事例中三十五事例（註一）はこれに屬する。

しかして整理した負債額の參考を總すれば、所有不動產を據保に供せしめる事例が二つである（註二）。また物的據保不足の時は、保證或は小作據保を要求するものもありその外物的據保を要求しないものには組合員全部の連帶保證を要求するものが多い。

註一　（一）より（九）（一一）（一三）（一四）（一七）（一八）（三三）（三四）（三六）（四四）（四七）（五三）（五六）（五八）（五九）

註二　（一）（一四）

九　負債整理の財源　負債整理に要する資金の財源を農業組合にもとめるものは二十事例の多きに達してゐるがそのうち組合の自己資金のみによるもの十七事例（註一）、政府低利資金の借入を加えるもの六事例（註二）、信用組合資金および農業組合中央金庫より財源を仰ぐもの十事例（註三）である。

特に注目すべき事例は整理主體において幹旋の勞をとつてその利息金をもつて整理對象に充當するものが多い。

註一　（一四）（三三）

註二　（一四）（一八）（三三）（三四）（四三）（四四）（五〇）

註三　（一）（二）（三）（一一）（一五）（一六）（一七）（二三）（三四）（四〇）（四七）（四八）（五五）（五六）（五八）（五九）

註四　（四）（五）（六）（七）（九）（一四）（一五）（三一）（三七）（五六）（五八）

（三）償還方法　償還方法は殆んどすべて割賦弗方法を採用し、定期一時弗方法によるものは三事例に過ぎない（註一）。しかして割賦弗方法としては元金均等償還法によるものが多い。

註一　（一〇）（五四）（五七）

（四）據保　物的據保を有する負債についての整理をなす事例が多く、整理實行に着手した四十六事例中三十五事例（註一）はこれに屬する。

しかして整理した負債額の參考を總すれば、所有不動產を據保に供せしめる事例が二つである（註二）。また物的據保不足の時は、保證或は小作據保を要求するものもありその外物的據保を要求しないものには組合員全部の連帶保證を要求するものが多い。

註一　（一）より（九）（一一）（一三）（一四）（一七）（一八）（三三）（三四）（三六）（四四）（四七）（五三）（五六）（五八）（五九）

註二　（一四）（三三）

九　負債整理の財源　負債整理に要する資金の財源を農業組合にもとめるものは二十事例の多きに達してゐるがそのうち組合の自己資金のみによるもの十七事例（註一）、政府低利資金の借入を加えるもの六事例（註二）、信用組合資金および農業組合中央金庫より財源を仰ぐもの十事例（註三）である。

特に注目すべき事例は整理主體において幹旋の勞をとつてその利息金をもつて整理對象に充

第1894号　付録

アメリカにおける兵器軍需品輸出禁止問題（その一）

外務省情報部

一　ヂエル案ファッシズ案カッペー案

一九三二年十二月よりの閉會されたアメリカ第七十二議會において、日支事變に上海事變に關聯し、或は武器彈藥をはさんとする法案の提出を見たが、そのうち武器彈藥に關しては一九三二年一月二十八日上院議員ヂエル氏より上院へ日支兩國に對し兵器軍需品の輸出禁止方に關する決議案が提出され、主務の事變に關みこれが適切決の必要あることを力說したが、二月三日上院外交委員會において、ボラーおよびシュード兩氏より本件作業は事實上日本を援ける結果にならうと反對の意見を述べた結果、提案者ヂエル氏より本問題は大統領の裁量に委ねることとしその意味に決議案を修正すべしと申出で、遂に決議するうことになつた。

下院においてもこれと時を同じくしてフィッシュ氏は、さらに內閣の存する國（中米メキシコ、支那）に對する兵器彈藥の輸出禁止を題旨とする一九三二年一月二十一日の共同決議を提出して兩國際等にある諸國に對し兵器彈藥の輸出禁止方を勸告することを要求するとともに兵器彈藥品ならびに原料品を除く他の一般物資に關しては、從來通り自由取引を認めるとの趣旨の共同決議案を提出したが、同氏は同年二月十一日の下院本會議において、この決議案を取上げ、その理由として、

（一）兵器彈藥品または原料材としては、現在使用されてゐない物資

を發所に投下したとしし かもその半數が、有效であつたと測定したならば、その出火狀況はかの關東大震災における 火元とほゞ 同樣の數である。即ち當時の出火箇所は 百三十五であつて、それでもそのうち二十餘箇所は 消し止め得たのである。しかして帝都東京市の約半ばの地域を一擧にして荒涼たる焦土と化せしめ、十万の市民を慘死せしめ、かつ總額約五十五億の富を烏有に歸せしめたのである。

われ〳〵は當時をこゝに回想するにおよび將來戰爭における燒夷彈の威力が、どんた重大の結果を招來し得べきかに戰慄を禁じ得たい。もちろんたれしも市民のなした大震災後の復興事業の迅速なる完成に對し滿腔の敬意と意氣とを感ずるに吝らざるものであらう。しかし當時の市民がこの如き天災を 豫想してゐなかつたのは止むを得ないとはいへ 集團的訓練の施設が全く存在してゐなかつたために、地震襲來に對して、よく沈着に諸事を處理し得なかつたことや、徒らに流言蜚語に發狂立つたことを 思ふにつけ、いまさらながら集團的訓練とその 施設の必要を痛感せざるを得ない。

從つてかくの如き 天變地變等による災害に對し併せて一旦緩急の際、万一敵の空襲等に對し沈著善處せんがために、かつ その損害を できるだけ防止輕減する目的に從つて常時よりその設備と訓練と秩序とを充分にすべきである。卽ちこの目的により、わが東京市においては去年九月一日震災記念日を期し、東京市聯合防護團の成立を見たわけである。また來る八月を期し、市府、陸海軍會同で大規模に防空演習の 行はれんとする機運にある 誠に欣快のいたりに堪へない。

わが國においては、東京のみならず既に防空の行はれたのは熊本、福岡、神戶、大阪等の都市である。

これをドイツの例に見ると、フランクフルト市においては、前に述べたハムブルグ市のホスゲン事故に鑑み、平時閑時のガス 防護を目的として、昭和五年六月ガス防護委員會を設立した。しかして市衞生協會、警察、消防署、各工場代表者および市救護協會等の主催の下に、その施設訓練を行つてゐる。

またブレーメン市においては、一昨年六月二十一日平時閑時のガス防護演習を行ひ 赤十字、警察、消防署等の各團體の參加の下に 各種防護班およびび防護器材の運用法とその效果を實驗し、一般にこれを知らしめた。その結果訓練の徹底を見、各種事故に對し機宜の處置を執ることによつて、損害の輕減せられたことは明瞭になつた。

さらに一昨年七月十二日 ミュンヘン市においてもまた市、赤十字、國防軍、警察、消防隊等の參加諸機關によつて、ホスゲン・タンクの爆發を假想し組織して多數の假定傷害者に對してその防護救急法を實演し、併せて平時ガス事故に對する市民防護の訓練を行つた。

しからば、こゝにその防護は如何なる方法によつて行はれるべきかが問題である。この點に關しては次號でこれを簡單に說明しやう。

最近官廳刊行圖書抄報

左記は各官廳近刊書中當局に到著分の一部

◉大藏省昭和五十七回年報（大藏省）

◉內閣印刷局發賣（麴町區大手町）三圓五〇錢 送料共

◉尾瀨天然紀念物調查報告（文部省）二冊八〇錢 送料六錢

刀江書院發賣（神田區北甲賀町）第五卷 第六號

◉臺北帝國大學理農學部紀要（臺北帝國大學）七〇錢 送料四錢

臺灣日日新報社發賣（臺北市榮町）

◉帝國委任統治關係文書（外務省）

◉昭和七年度地方財政概要（內務省）

◉帝國及列國の陸軍（陸軍省）

◉一般軍縮會議經過概說 其の三（海軍省）

◉司法資料 第一七三輯（司法省）

◉春蠶飼育法補遺及雇人ニ關スル調（農林省）

◉支那四川市場ニ於ケル本邦品ノ移動狀況（商工省）

◉昭和六年拓務統計（拓務省）

◉樺太廳中央試驗所彙報 第三號（水產號）第一一號（樺太廳中央試驗所）

◉日高地方災害誌（北海道廳）

◉昭和六年東京府會決要覽（東京府）

◉大阪府學事統計速報 昭和六年度（大阪府）

◉昭和七年兵庫縣米穀統計表（兵庫縣）

◉昭和七年度長崎縣教育要覽（長崎縣）

◉昭和七年新潟縣の米麥（新潟縣）

◉昭和六年三重縣勞要覽（三重縣）

◉公會堂貸屋經營の實際（愛知縣）

◉昭和七年滋賀縣の蠶業（滋賀縣）

◉市町村の產業（福井縣）

◉昭和七年度町村財政一斑（石川縣）

◉人體寄生蟲に就て（富山縣）

なほ官廳刊行圖書の全部及び、その內容等についての詳細は 當局發賣の官廳刊行圖書目錄に登載されてゐる。

因に同書第二十四號昭和七年十月より十二月迄の分は去十二日より發賣。

◆前週の官報に◆

◉度量衡法中改正（法律）

◉徵兵署開設豫定日割第五乃至第八師管（彙報）

◉入學許可 東京帝國大學法學部（彙報）

◉市街地建築物法適用區域の件中改正および昭和三年法律第三十六號（裁判所管轄區域表改正）施行期日（勅令）

◉徵兵署開設豫定日割第九乃至第十一師管（彙報）

◉同上第十二、第十四、（同）

◉同上第十六師管（同）

◉入學許可 第一、第二水戶、弘前、浦和（同）各高等學校ノ定員ニ關スル件

◉旅順要港部令制定および艦隊令中改正並に旅順港規則改正（軍令、海軍省令）

◉入學許可 長崎醫科大學附屬醫學專門部、上田蠶絲專門學校、小樽高等商業學校、名古屋高等工業學校、東京高等工藝學校（彙報）

◉三月中に於ける國債增減額（同）

◉二月の十三都市貨銀概況（同）

◉靖國神社臨時大祭祭式次第並に祝詞（陸軍省、海軍省告示）

◉入學許可 東京帝國大學醫學部、理學部、千葉醫科大學、附屬藥學專門部、宇都宮高等農林學校、金澤高等工業學校（彙報）

◉昭和七年度（八年二月末）國庫歲入歲出現計および前年度比較（同）

◉一月の全國絹織物および人造絹織物產額概況（同）

◉古物商取締法中改正（法律）

◉司法部內臨時職員設置制中改正（勅令）

◉陸軍大學令改定並に陸軍步兵學校令中および陸軍騎兵學校條例中改正、陸軍習志野學校令制定（軍令）

◉朝鮮を發し又は通過したる牛の移入停止に關する件（農林省令）

◉農林教務次官更迭（敍任および辭令）

◉入學許可 三重高等農林學校、第七、廣島兩高等學校、熊本、橫濱兩高等工業學校（彙報）

◉三月中の外國貿易概表（同）

◉三月三十一日現在預金部狀況（同）

國立公文書館
昭和三十五年三月三十一日
保管換

特定
1894
号